

仙台市文化財調査報告書第198集

上ノ原山遺跡

－国道286号線（茂庭工区）改良工事関係発掘調査報告書－

1995年

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第198集

上ノ原山遺跡

—国道286号線（茂庭工区）改良工事関係発掘調査報告書—

1995年

仙台市教育委員会

序

日頃より、仙台市の文化財保護行政に対しまして、多大の御協力をたまわり、担当する仙台市教育委員会にとりまして、誠に感謝にたえません。

茂庭地区は仙台市南西部でも遺跡が数多く分布している地域であります。近年、当該地区においても、国道バイパス建設や公共事業関係の開発が盛んに行なわれ、それらに伴って多くの遺跡の調査が実施され、先人の生活文化の様相が解明されつつあることは、よろこばしい反面、遺跡の保存に関する種々の問題が露呈していることも事実であり、文化財保護の問題となっていることも否めないところであります。

この度の上ノ原山遺跡の調査は、平成元年度から三年度まで、国道286号線の改良工事に先立って実施し、平安時代の集落の一端とみられる堅穴住居跡や当時の土器類、縄文時代の集落および狩猟生活を偲ばせる堅穴住居跡や落し穴、旧石器時代の石器などさまざまな資料が明らかになっております。調査の成果から本遺跡は旧石器時代から平安時代にいたる長い期間にわたって営まれた遺跡であることがわかつてまいりました。

調査に際しましては多くの方々の御協力、御助言を頂きましたことを深く感謝申し上げる次第であります。先人の残した文化遺産を市民の宝として永く後世に継承していくことは、これからのかの「まちづくり」には欠かせない大切なことであります。今後共、市民各位の御協力を念願して序といたします。

平成7年3月

仙台市教育委員会

教育長 坪 山 繁

目 次

序

例言

I. 調査に至る経過	1
II. 調査要項	1
III. 調査の方法と経過	2
IV. 基本層序	7
V. 検出遺構と出土遺物	13
1. 検出遺構	13
2. 出土遺物	25
VI. まとめ	59
写真図版	61

例 言

1. 本書は国道286号線改良工事に係る上ノ原山遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は仙台市教育委員会が主体となり、平成元年10月2日より平成3年9月21日まで実施した。
3. 出土遺物の整理と報告書作成は主浜光朗が担当し、熊谷裕行が補佐した。
4. 遺跡の地理的環境及び歴史的環境については、「茂庭けんとう城・東館遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第137集』を参照していただきたい。
5. 本書の文章、実測図中の方位は真北で統一してある。
6. 本書中の土色については「新版標準土色帖」(小山、竹原：1975)を使用した。
7. 本書第1図は建設省国土地理院発行の5万分の1「仙台」を使用した。
8. 本書中の遺構図中の焼面及び土師器の黒色処理についてはスクリントーンで示した。
9. 調査及び整理作業について以下の方から指導助言を賜わった。記して感謝の意を表します。
 鎌田俊照、梶原 洋、原河英二、蟹沢 啓、石川賢一、岡村道雄、会田容弘
10. 本調査における出土遺物、図面、写真等は仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。

I. 調査に至る経過

宮城県道路建設課で持っていた、昭和57年から昭和63年度までに実施する一般国道286号線改良計画について、全路線のうち仙台市茂庭工区西半は、昭和63年度までに工事を終了する予定であった。この地区では、町田遺跡、西町遺跡の2遺跡について発掘調査が必要となった。茂庭工区東半部は、昭和62年春に予定地内を分布調査した結果、繩文時代早期末の土器が採集される上ノ原山遺跡が新たに発見され、昭和62・63年度に発掘調査が必要となつたが、用地交渉が難航し、土地買収ができなかつたため、昭和62年度の調査から除外され、昭和62年度には

茂庭工区西半部の2遺跡についてのみ宮城県文化財保護課による発掘調査が実施された。その後平成元年度までに用地買収は終了し、発掘調査に着手する運びとなつた。平成元年度に仙台市が政令指定都市に昇格したことによる道路法第17条の管理の特例により、仙台市が新設政策及び管理を行なうこととなつたため、仙台市建設局道路部より平成元年10月、遺跡発掘通知が提出され、仙台市教育委員会文化財課によって発掘調査を行なうことになった。

II. 調査要項

遺跡名：上ノ原山遺跡（仙台市文化財登録番号：C-307 宮城県遺跡番号01423）

調査場所：仙台市太白区茂庭字上ノ原山地内

調査対象面積：8,000m²（調査面積：約6,500m²）

調査期間：1989年度 自 1989年10月2日 至 同 12月25日

1990年度 自 1990年4月19日 至 1991年3月31日

1991年度 自 1991年4月10日 至 同 9月21日

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会文化財課

担当職員 1989年度 熊谷幹男 1990年度 熊谷幹男、主浜光朗、五十嵐康洋

1991年度 主浜光朗、熊谷裕行

調査参加者：大海 厚、小松 愛、小山つるよ（野外調査、室内整理含）

赤間共栄、浅利五郎、伊藤幸子、板山つねよ、岩間かつえ、遠藤いな子、遠藤すげ子、大沢すゑ、太田美和、沖中光三、奥平よう子、加藤さき子、加藤ゑなよ、叶 誠、川村 信、菊地恵子、熊沢とも、小塙 静、小山 繁、斎藤恵子、笠川光夫、佐藤勝見、佐藤きみ子、佐藤清治、佐藤とみ江、佐藤直成、佐藤 宏、佐野たみえ、島貫美代、庄子勝子、鈴木きぬ子、住吉貞子、清野 寛、高橋たづよ、高橋まさ子、丹治忠作、富永美輪子、夏井正雄、成田アヤ子、西本 博、支倉 喜久衛、三浦つよの、横岸イチ子、嶺岸わくり、宮沢正人、森 金三、森 ミヨノ（以上野外調査のみ）

小林由美、佐藤洋子、佐藤留美子、津島久子（室内整理のみ）

調査協力：猪股太、大陸建設



第1図 遺跡位置図

III. 調査の方法と経過

今回の調査では、丘陵の開削を作り工事であるため、道路敷よりかなり広い約70mの幅で長さ約120mの約8,000m²が調査の対象面積となった。遺跡は茂庭けんとう城の南端部に隣接して位置しており、けんとう城に関係する施設が検出されることも考えられたため、杉林の伐採、下草刈の後、発掘調査に先立って株式会社バスクに委託し、航空測量によって地形測量を実施した。

1989年度には、調査区内を通る道路及び地形によって、調査区をI～N区に設定し、排土処理の関係上、I～III区の表土を先行して排除し、排土はN区に仮置きすることとして、重機によって表土を排除し、その後人力によって平削り作業を行なった。調査区内に、真北線を基準線として、3m×3mのグリッドを設定し、南北軸を南からアラビア数字で表わし、東西軸を西からアルファベット文字で25区切毎にAA～AT、BA～BT…と表わし、両者の組合せでグリッド名を表わすこととした。平面図の基準は国家座標第X系 X = -198.216km・Y = -2.668km (I区)、X = -198.216km・Y = -2.638km (II区)、X = -198.156km・Y = -2.668km (III区) である。

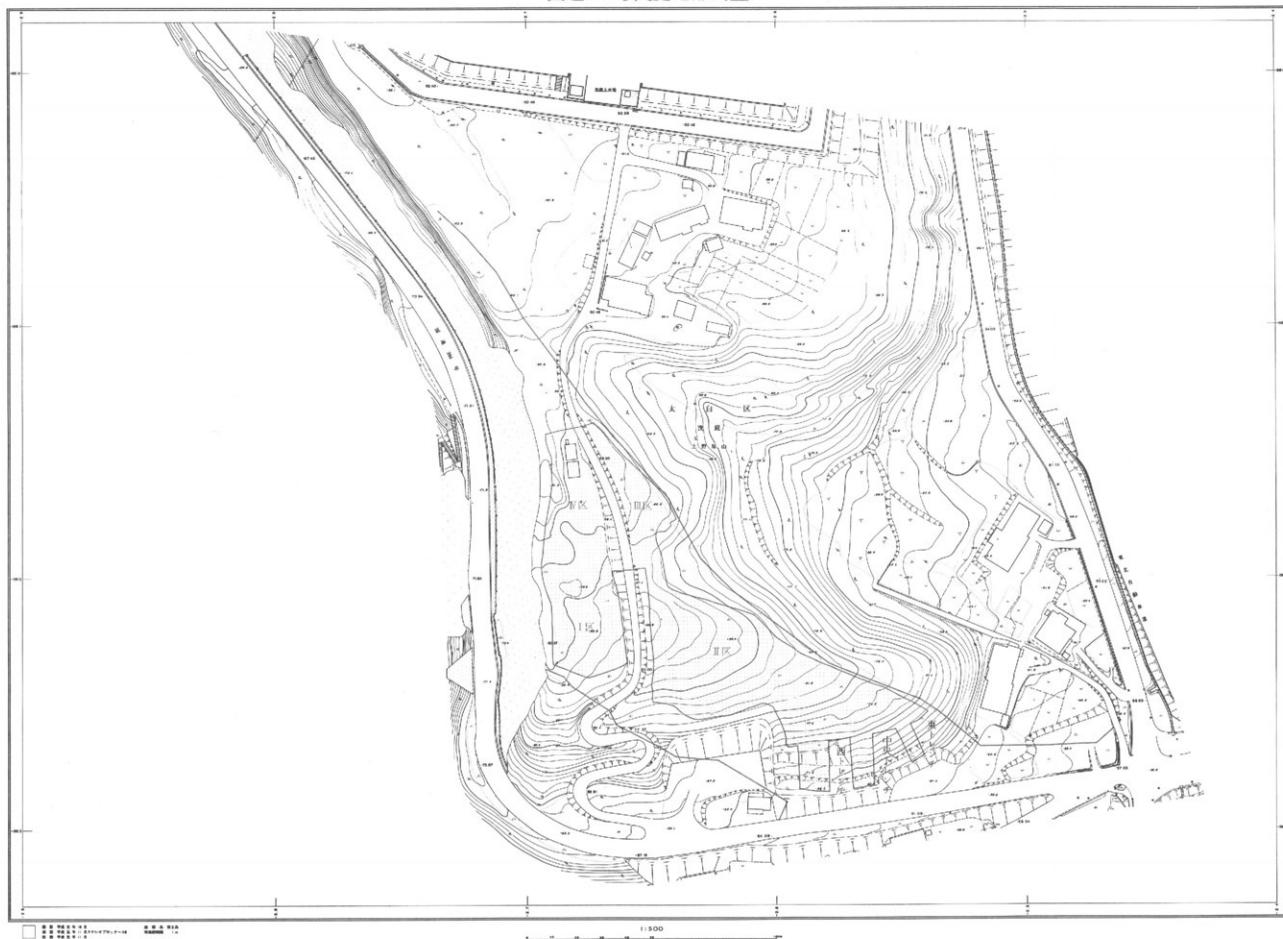
I区については、旧石器時代の石器が出土するかどうかを確認するために、AE、AH、AKラインに、II区ではAQ、AR、ATラインにトレーナーを設定し、掘り下げた。その結果AE、AHラインから計8点の石器が検出され、1990年以降に本格的な旧石器時代の調査を行うこととし、I～III区に関する航空測量のための写真撮影を行なった。

1990年度は、工事の工程上の都合でII区から調査を再開した。調査区の南東端に1ないし2段の段が認められる部分があり、けんとう城に関係した平場やその他の施設の有無を確認するため、3本のトレーナーを設定し、掘り下げた。その結果、人為的に作り出された造構の痕跡は認められず、段状の部分はけんとう城に関係するものではないと考えられた。II区の西側では縄文時代以降の土坑が7基検出された。その後旧石器時代の調査区を設定し、AP～BC-25～32の範囲にわたって火山灰層を掘り下げ、AP～AQ、AS・BAラインを疊層上面まで掘り下げた。掘り下げは、スコップを用いて数cmの深さに約1cm刻みで掘り下げ、遺物を検出した段階で、草削りや草搔きを用いて慎重に掘り下げながら遺物の検出につとめるという方法をとったが、旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。II区の調査後、I区の調査と平行して、N区に仮置きしてあったI～III区の排土を重機でII区に移動し、同時にIV区の表土排除を行なった。I区では、縄文時代の堅穴住居跡2軒、縄文時代以降の土坑13基が検出された。その後旧石器時代の調査区を設定し、II区と同様の方法でAC～AL-24～32の範囲にわたって、火山灰層を掘り下げ、そのうちAE、AHラインのグリッドを中心に疊層上面まで掘り下げた。その結果、旧石器時代の石器が「川崎スコリア層」の上層及び下層から検出された。遺物が集中して出土した部分の周辺の任意の範囲で土壤をサンプリングし、チップ等の微小遺物の検出のための水洗作業についても調査と平行して行なった。I区の調査の終了後、III・IV区の平削り作業を行ない、III・IV区に関する航空測量の写真撮影を行なった。

1991年度は、III・IV区の調査を行ない、平安時代の堅穴住居跡1軒、縄文時代以降の土坑12基が検出された。その後旧石器時代の調査区を設定し、I・II区と同様の方法でAC～AP-41～55の範囲にわたって、火山灰層を掘り下げ、ACラインのグリッド及び8ヶ所のトレーナーを設定して疊層上面まで掘り下げた。その結果旧石器時代の石器及び溝状の土坑が検出された。III、IV区の調査では、調査排土の運搬作業を軽減し作業の効率化を図るために、排土の移動にベルトコンベアーを用いた。

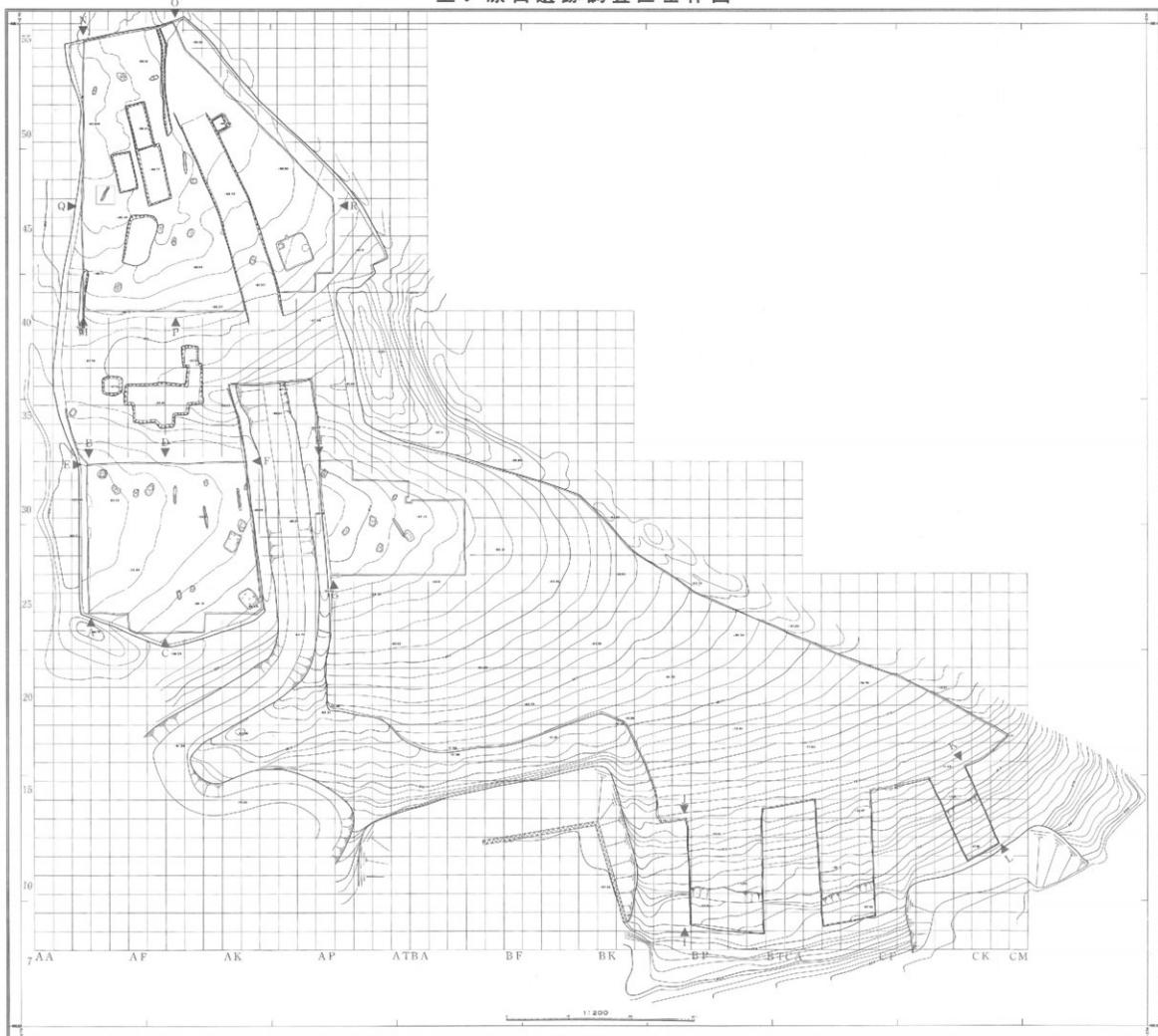
検出された遺構の記録は、遺り方測量を用いて1/20の平面図及び土層断面図、エレベーション図を作成した。出土遺物の記録は、1/20の平面図に地点を記入し、遺物カードに遺物番号、出土地点、出土層位、レベル等を記録した。記録写真は、35mm版及び6×7版の白黒及びカラーリバーサルを用いた。調査区の全体図及び地形図については、前述のように航空測量を用いた。

国道286号茂庭地形測量



第2図 遺跡周辺の地形と調査区

上ノ原山遺跡調査区全体図



第3図 グリッド及び遺構配置図

N. 基本層序

今回の調査では、I・III・IV区については、調査中に層相の検討を行ない、層序の統一を計ることができたが、II区については現場での検討ができなかったため別に記述することにする。

I・III・IV区の層序

I・III・IV区では、表土（第1層）から基盤の礫層（第23層）まで、大別23層、細別で32層確認された。

第1層 表土層である。ほとんどが草木根や植林による搅乱を受けているが、全体的な土色は褐色（10YR 4/4）である。シルトであるが、一部に粘土質シルトの部分もみられる。しまりはなく、粘性も弱い。炭化物を含み、縄文時代、平安時代の遺物が出土している。

第2層 暗褐色（10YR 3/3） シルト。しまりは弱く、粘性はやや強い。調査区の北側、III、IV区に厚く堆積しており、南側では薄くなっている。全体的に炭化物を多く含み、ところどころに径5mm前後の白色粒がみられる。縄文時代、平安時代の遺物が出土している。

第3層 暗褐色（10YR 3/4） シルト。しまりは弱く、粘性は強い。I区南半部及びIII区南東部では薄くなり、分布のない部分もみられる。炭化物を含んでおり、縄文時代の遺物が出土している。

第4層 暗褐色（10YR 2/2） 粘土質シルト。しまりは弱く、粘性はやや強い。I区とIV区の間の谷状の部分で特に厚く堆積しているが、III区東部には分布していない。炭化物及びロームブロックを含み、部分的に径1～5mm程度の砂礫を含んでいる。縄文時代の遺物が出土している。

第5層 褐色（10YR 4/4） シルト。火山灰層への漸移層。しまり、粘性ともに弱い。調査区全体にほぼ均一に分布している。全体的に炭化物の細片をまばらに含み、倒木による搅乱がところどころにみられる。上面で窓穴住跡及び土坑が検出された。I区では縄文時代と旧石器時代の遺物が混在して出土しており、III・IV区では旧石器時代の遺物が出土している。

第6層 褐～黄褐色（7.5YR 4/6～10YR 5/8） 粘土質シルト。火山灰層。III・IV区では2層に細分される部分があり、上層が黄褐色土で、南側及び東側に向かって薄くなっている。下層は調査区全域にほぼ均一に分布している。しまりは弱く、粘性はやや強い。炭化物がまばらに含まれている。旧石器時代の遺物が出土している。

第7層 黄褐色（10YR 5/8） 粘土質シルト。火山灰層。しまり、粘性とともにやや強い。IV区では2層に細分され、上層が川崎スコリア層を含む固結部に相当する層（俗称：バンバン）であると考えられ、遺存状況の良好な部分もみられる。I・III区ではスコリア層はブロック状に含まれる程度で遺存状況は良くない。南側及び東側に向かってより散漫な集積状況になっている。IV区では上面で土坑が検出された。旧石器時代の遺物が出土している。

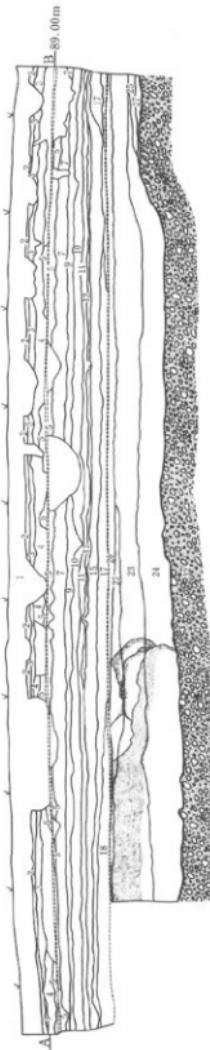
第8層 褐色（10YR 4/6） 粘土。火山灰層。しまりはやや強く、粘性は強い。調査区全体にほぼ均一に分布している。マンガン粒及び赤褐色土粒がまばらに含まれる。旧石器時代の遺物が出土している。

第9層 黄褐色（10YR 5/8） 粘土。火山灰層。しまり、粘性ともに強い。I区の西側、IV区の北東部に分布している。マンガン粒及び赤褐色土粒が全体に見られる。木根が影響したものと考えられるしまりのない部分がところどころにみられる。旧石器時代の遺物が出土している。

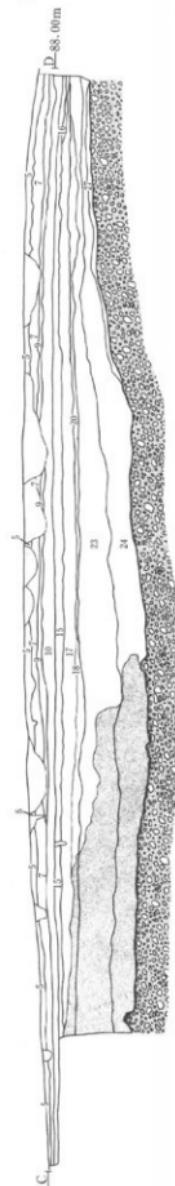
第10層 明黄褐色（10YR 6/8） シルト質砂。しまりは強く、粘性は弱い。I区では北側及び西側に向かって薄くなり、IV区では南西側に向かって薄くなっている。I区の北側では褐色（10YR 4/4）を呈する部分があり、IV区南部では黄褐色（10YR 5/6）を呈する部分がある。全体に径1mm程度のマンガン粒を含み、ところどころに径1cm程度の小礫を含んでいる。

第11層 明黄褐色（10YR 4/6） シルト質砂。しまりは強く、粘性は弱い。I区では全体にみられるが、IV区では北側及び西側に分布し、南東部にはみられない。全体に径1mm～1cmのマンガンを多く含み、下部に酸化鉄の集積が認められる部分がある。

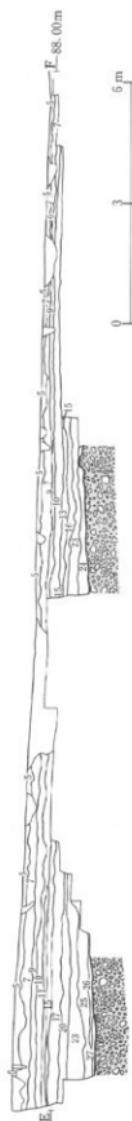
I区 西壁



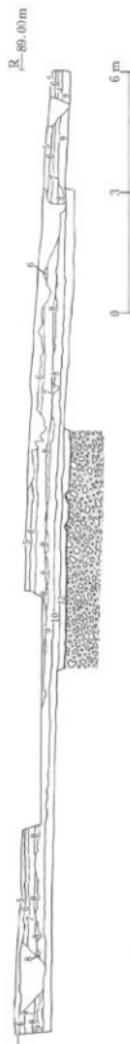
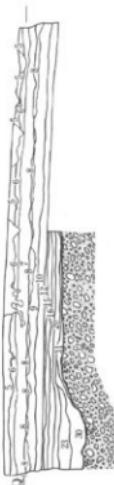
I区 中央(南北)



I区 北壁

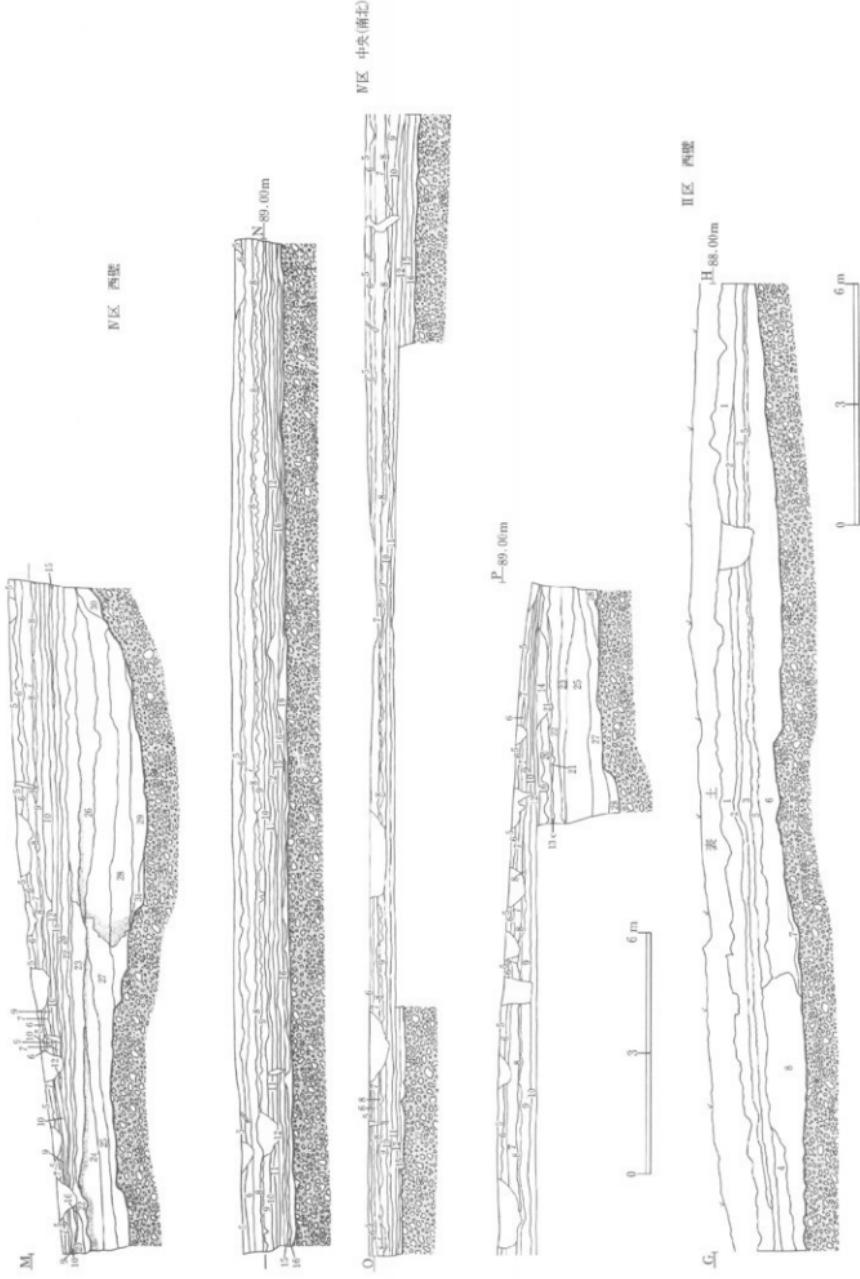


N区 中央(东西)

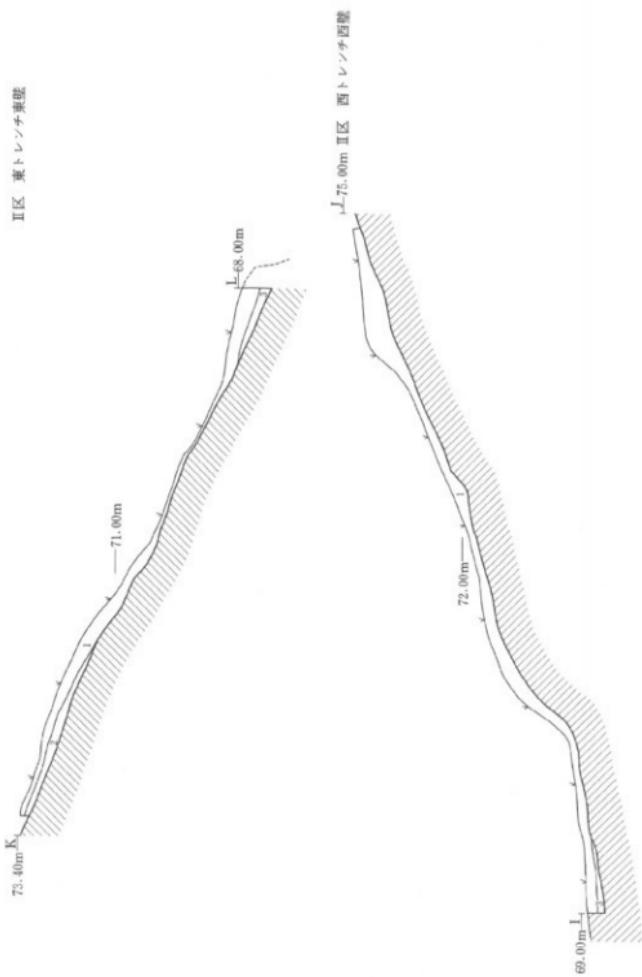


第4图 I区・N区(1) 土层断面图

第5圖 NX(2)・II区(1) 土層断面図



第6図 II区(2) 土壠断面図



I・IV区土壤注記表

番号	等級	色	調 査 地	土 性	備 考
1	1 色 褐 (10YR 4/4)	シ ル ト	表土層、全山に広分布含む。		
2	2 暗 褐 (10YR 3/3)	シ ル ト	腐殖物を多く含む。		
3	3 黒 褐 (10YR 3/4)	シ ル ト	腐殖物を含む。		
4	4 黒 褐 (10YR 2/2)	シ ル ト	腐殖物・ローム・プロトガル・小塊 (H 1 ~ 5 mm) 含む。		
5	5 黒 褐 (10YR 4/4)	シ ル ト	樹木の枯枝入り。		
6	6 黑 褐 (10YR 3/8)	シ ル ト	樹木の枯枝入り。		
7	7 黑 褐 (7.5YR 4/6)	シ ル ト	化粧粘土質。		
8	8 黑 褐 (7.5YR 4/8)	シ ル ト	化粧粘土質。		
9	9 黑 褐 (10YR 5/8)	シ ル ト	スコリウム。		
10	10 黑 褐 (10YR 4/6)	シ ル ト	粘土質。		
11	11 黑 褐 (10YR 5/8)	シ ル ト	土のない部分プロトガル性含む。		
12	12 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	アカガリ R. (1 cm) 全体含む。		
13	13 黑 褐 (10YR 4/6)	シ ル ト	土のない部分アカガリ R. (1 cm) 全体含む。		
14	14 黑 褐 (10YR 5/6)	シ ル ト	粘土質。		
15	15 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	シルト質。		
16	16 黄 褐 (2.5Y 5/6)	シ ル ト	粘土質。		
17	17 黄 褐 (2.5Y 5/6)	シ ル ト	シルト質。		
18	18 黄 褐 (7.5YR 4/6)	シ ル ト	シルト質。		
19	19 明 黄 褐 (2.5Y 6/8)	シ ル ト	シルト質。		
20	20 明 黄 褐 (2.5Y 6/8)	シ ル ト	シルト質。		
21	21 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	シルト質。		
22	22 明 黄 褐 (7.5YR 5/8)	シ ル ト	シルト質。		
23	23 黄 褐 (10YR 7/2)	シ ル ト	シルト質。		
			—	—	—
				標記: 反応性。	

II区土壤注記表

番号	等級	色	調 査 地	土 性	備 考
16	16 24 明 黄 褐 (10YR 5/6)	シ ル ト	明褐色 (7SYR 5/6) シルトが混在。	粘土質。	マツダガルが混在。
17	17 25 明 黄 褐 (7.5YR 5/8)	シ ル ト	明褐色 (7.5YR 5/6) シルト質。	粘土質。	マツダガルが混在。
18	18 26 明 黄 褐 (10YR 5/6)	シ ル ト	明褐色 (10YR 5/6) シルト質。	粘土質。	マツダガルが混在。
19	19 28 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	明褐色 (10YR 6/8) シルト質。	粘土質。	マツダガルが混在。
20	20 29 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	明褐色 (10YR 6/8) シルト質。	粘土質。	マツダガルが混在。
21	21 30 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	明褐色 (10YR 6/8) シルト質。	粘土質。	マツダガルが混在。
22	22 31 明 黄 褐 (7.5YR 5/8)	シ ル ト	明褐色 (7.5YR 5/8) シルト質。	粘土質。	マツダガルが混在。
23	23 32 —	—	—	—	—
				標記: 反応性。	

III区土壤注記表

番号	等級	色	調 査 地	土 性	備 考
1	1 黄 褐 (10YR 5/6)	シ ル ト	上部は粘土質で下部は砂質。	粘土質。	砂質。
2	2 黄 褐 (10YR 5/6)	シ ル ト	上部は粘土質で下部は砂質。	粘土質。	砂質。
3	3 黄 褐 (10YR 5/6)	シ ル ト	上部は粘土質で下部は砂質。	粘土質。	砂質。
4	4 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	上部は粘土質で下部は砂質。	粘土質。	砂質。
5	5 明 黄 褐 (10YR 6/8)	シ ル ト	上部は粘土質で下部は砂質。	粘土質。	砂質。
6	6 9 —	—	—	—	—
				標記: 反応性。	

東西トレレンチ土層注記表

番号	土 色	土 性	備 考
1	1 白 泥 (10YR 3/3)	シ ル ト	白色。
2	2 黑 泥 (10YR 2/3)	シ ル ト	黑色。
3	3 黑 泥 (10YR 2/3)	シ ル ト	黑色。

第12層 黄褐色～褐色 (2.5Y 5/6～7.5YR 4/6) 砂質シルト～シルト質砂。しまりは強く、粘性は弱い。I区では北側から西側に分布しており、N区でも北側から西側に分布している。N区ではほぼ均一の層相を示すが、I区では3層に細分される。N区及びI区の上層では風化した小礫及びマンガンを全体に含み、径1～3mmのマンガン粒をブロック状に含む部分もある。中層はほぼI区全域に分布し、全体にマンガン粒をブロック状に含み、隙間には酸化鉄がみられる。ところどころに風化した小礫、暗赤褐色シルト粒、にぶい黄褐色粘土粒を含んでいる。下層は褐色で含まれるマンガン粒は径3～4cmと大きく、南に向かってまばらになる。

第13層 明黄褐色 (2.5Y 6/8～10YR 6/8) 粘土～砂質粘土。しまりは大変強く、粘性はやや強い。I区では中央部から西側にかけて分布し、N区では西側から南側に分布しており、北西に向かって薄くなる。I区ではマンガン粒、酸化鉄が含まれ、層状ににぶい黄褐色粘土が含まれている。全体に粘土粒がみられる。N区の南部では3層に細分され、酸化鉄、マンガン斑、小礫が含まれている。北半部及び東端部では礫層の上面を覆う層であり、人頭大の礫もみられる。南側の下層では砂質粘土となり、しまり、粘性ともに弱くなっている。

第14層 明褐色 (7.5YR 5/8) 粘土質シルト。しまり、粘性ともに強い。I区では中央から西側に分布しており、レンズ状に堆積している。N区では南端部に分布している。上部にマンガン粒のブロックが多く、下部には酸化鉄の集積がみられる。

第15層 橙色 (7.5YR 6/8) 粘土。しまり、粘性ともに強い。I区では全域に分布するが、南へ向かって厚くなれる。N区では南西部にのみ分布する。上部にマンガン粒のブロック、下部に酸化鉄の集積がみられる。I区では黄橙粘土質シルトが斑に含まれる。

第16層 明黄褐色 (10YR 6/6) 粘土質砂。しまりは強く、粘性は大変強い。I区ではほぼ全域に分布しており、南に向かって厚くなっている。N区では南端部にのみ分布している。I区では、下層の影響で北側に一段高くなっている。明褐シルトが互層をなす部分がある。

第17層 明褐色 (7.5YR 5/6～7.5Y 5/8) 砂質シルト～シルト質砂。しまり、粘性ともに強い。I区では北側に、N区では南側に分布している。2層に細分されるが、双方に酸化鉄とにぶい礫シルトが斑に含まれる。上層は砂質シルトでブロック状のマンガン粒と風化した小礫が含まれ、下層はシルト質砂でマンガン粒はみられない。

第18層 明黄褐色 (10YR 6/6) シルト。しまり、粘性ともに強い。I区では西側、N区では南側に分布している。マンガン粒がまばらにみられ、I区では下層(礫層)の浮き上がりと思われる礫が含まれている。

第19層 にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 明黄褐色 (10YR 6/8) 混在。砂質粘土。非常に固くしまり、粘性はやや強い。N区の南側のみに分布しており、マンガンの集積部分がある。

第20層 にぶい黄橙色 (10YR 7/2) 明黄褐色 (10YR 6/8) 混在。砂質粘土。しまりは弱く、粘性は強い。N区の南西部にのみ分布し、マンガン粒、酸化鉄を含んでいる。下面近くにマンガンが層状に集積している。

第21層 明黄褐色 (10YR 6/8) にぶい黄橙色 (10YR 7/2) 混在。第20層より明黄褐色土の割合が多い。粘土。固くしまり、粘性はやや強い。N区西端にのみ分布している。上面にマンガンが層状に集積しており、酸化鉄、マンガンがまばらに含まれる。

第22層 明褐色 (7.5YR 5/6) にぶい黄橙 (10YR 7/2) 混在。細砂。固くしまり、粘性は無い。N区の西側の一部にのみ分布する。マンガン、酸化鉄を含む。

第23層 矾層。I区では北側から南側へ傾斜しており、Ⅲ・N区では北半部でやや南東側に傾斜しており、南半部は西端で西側に急傾斜し、中央部では東西方向に谷状に窪んでいる。I区南側では、Ⅱ区まで続くと考えられるマンガン、酸化鉄の著しい集積がみられる。第14層の堆積以降にできたクラックに侵込んだ水の影響と考えられるがこの線を挟んで同一層の土色及びマンガンブロックの固さが変わっている。N区の南西部でも同様のマンガン及び酸化鉄の集積がみられる。

II区の層序

II区では、火山灰層より上位の層は一括して表土層として扱え、細分していない。表土層以下は基盤の疊層（第6層）まで大別6層、細別9層まで確認された。

第1層 褐色～黄褐色（10YR 4/6～10YR 5/6） シルト。火山灰層。2層に細分される。上層は、しまり、粘性とともにやや強い。川崎スコリア層をところどころにブロック状に含んでいる。下層は、しまりは強く、粘性はやや弱い。径1mm以下のマンガン粒を含み、酸化鉄の集積がみられる。

第2層 黄褐色～明黄褐色（10YR 5/8～10YR 6/8） シルト。2層に細分される。上層は、しまりは強く、粘性は弱い。全体に径1～2mmのマンガン粒を含んでいる。下層は、しまりは強く、粘性は無い。基本的には上層と変らないが、層の下部に酸化鉄が集積している。

第3層 明黄褐色（10YR 6/8） シルト。しまりは強く、粘性は弱い。径5～10mmのマンガン粒を斑に、全体に明褐色土粒を含み、下部程多く含んでいる。

第4層 明黄褐色～黄褐色（10YR 6/6～10YR 5/8） 粘土質シルト～砂質シルト。2層に細分される。上層は、しまり、粘性ともに強い。マンガン粒を含み、全体に明褐、にぶい黄橙粘土を斑に含んでいる。下層は、しまりは弱く、粘性は強い。マンガン粒を含んでいる。下層（第5層）との境に明褐粘土質砂が集積している。

第5層 黄褐色（10YR 5/8） 粘土質シルト。しまり、粘性ともに強い。上層（第4層）との境にマンガン粒が非常に多く集積しており、赤褐砂質シルトと明黄褐粘土質シルトが互層状にみられる。

第6層 硬層。

II区の層を地形的に断続的と考えられないI区の層と対比すると、II区の第1層上層はI区の第5～第7層に相当するものと考えられる。同様にII区第1層下層はI区の第8、9層に、II区の第2層はI区の第10～第12層に相当するものと考えられる。II区の第3層から第4層はI区の第15～第18層に相当するものであると考えられるが、II区の第5層については、I区の南側にみられた、土層中のクラックの影響でできたと思われるマンガンと酸化鉄の集積以南の部分に相当するもので第3、第4層が変化した部分であると考えられる。

また、II区の南東端の段状部分では、表土直下が疊層となっている。表土層は2層に分けられるが、ロームプロッタや疊が含まれている。

V. 検出遺構と出土遺物

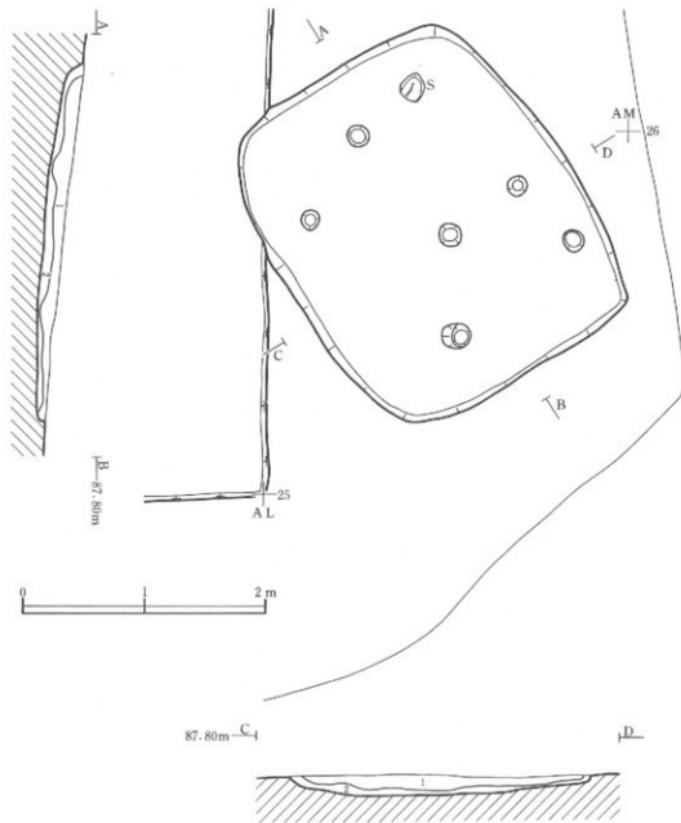
1. 検出遺構

今回の調査では、堅穴住居跡3軒、土坑32基が検出されている。

堅穴住居跡

S I - 1 住居跡

I区の南東端、AK～AL-25～26に位置しており、第5層上面で確認された。平面形は、長軸2.95m、短軸3.5mのややゆがんだ隅丸の長方形を呈している。堆積土は2層に分けられる。壁は第5層から成り、最も保存の良い北隅の部分でも10cmと保存状況は良くない。床面から急角度で立ち上がるが緩やかに立ち上がる部分がある。床面は第5層から成り、住居の掘り方が直接床面になっている。平坦であるが、レベルは北西壁際が最も高く、南東隅に向かって徐々に低くなる。床面から6個のピットが検出された。その他に床面の施設は確認されなかった。遺物は図示したものは剝片で床面から出土している。その他に堆積土中及び床面から繩文土器の摩小片及び剝片、疊が出土した。



S I - 1 住居跡土層記号表

層号	色 質	土 性	備 考
1	褐色・薄陶 (HYR 4/3)	粘土質シルト	泥炭地、マーメ粒若干含む
2	灰褐 (HYR 5/4)	シルト質粘土	泥炭地、マングン粒若干含む

第7図 S I - 1 住居跡

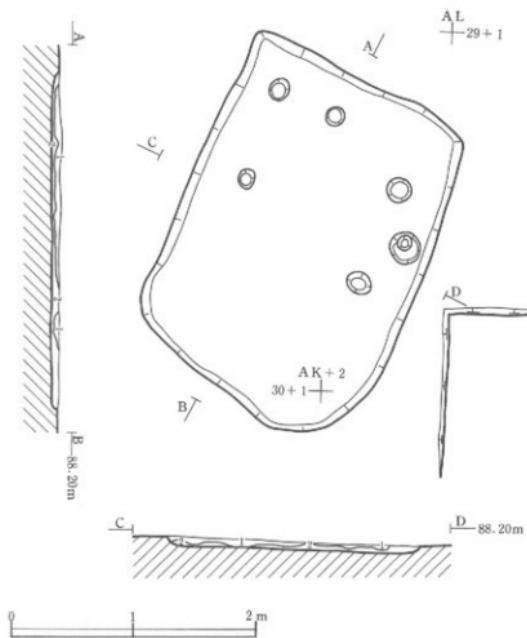


No.	層 号	種 別	長×幅×厚(cm)	重 量(g)	石 H	備 考
1	堆 積 土	二次加工剣片	1.9×1.9×0.5	1.5	有質無刃	

第8図 S I - 1 住居跡出土遺物

S I - 2 住居跡

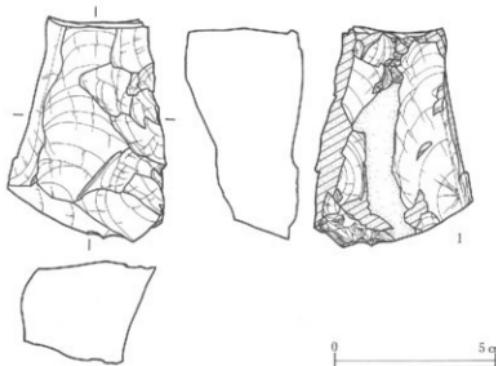
I 区の東端部 AK~AL-29~30に位置し、90年度のトレンチの中に入っており、第5層中で確認された。平面形は長軸2.9m、短軸2.1mの南東コーナーが隅丸状にやや張り出した長方形を呈している。堆積土は2層に分けられる。壁は第5層から成り、最も保存の良い西側部分でも11cmと保存状況は良くない。床面から急角度で立ち上る。床面は第5層から成り、住居の掘り方が直接床面となっている。平坦であるが、レベルは南北隅が最も高く東壁際に向かって徐々に低くなっている。床面から6個のピットが検出されたが、北半部のみであり、南半部では検出されなかった。その他に床面の施設は確認されなかった。遺物は図示したものは石核で床面から出土した。堆積土中及び床面から櫛文土器の摩小片及び剝片が出土した。



S I - 2 住居跡土層記表

層番	色 調	土 性	備 考
1	褐 (HYR 4.4/4)	シルト	居住跡。植生斜面下付近
2	黄褐色 (HYR 5.6/6)	粘土質シルト	シルト質付近

第9図 S I - 2 住居跡

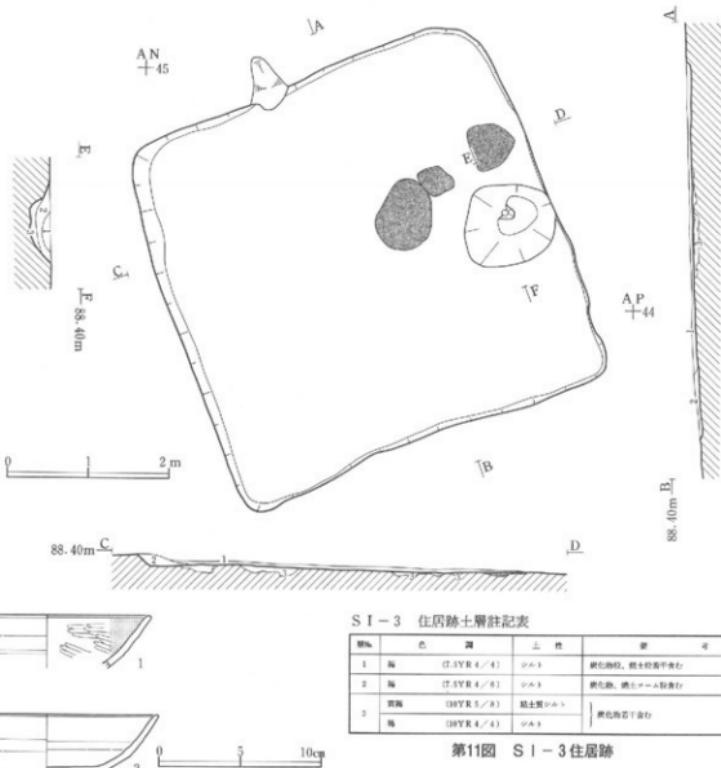


%	種 類	種 别	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石 特	備 考	圖
1	米 砂	石 核	6.8×3.7×3.8	129.5	砂岩	やや風化済む	圖9B-1

第10図 S I - 2 住居跡出土遺物

S I - 3 住居跡

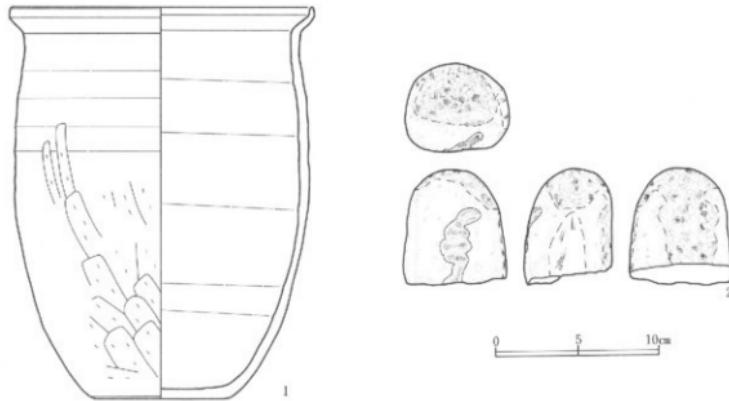
Ⅲ区の南寄り、AM~AO-43~45に位置し、第5層上面で確認された。平面形は一辺4.7~4.9mの北東及び北西コーナーがやや丸味をもった正方形を呈している。堆積土は2層に分けられる。壁は第5層から成り、最も保存の良い北西コーナー部分で14cmであるが、東~南壁では2~3cmという残存高であり、保存状況は良くない。床面からやや緩やかな角度で立ち上がる。床面は大部分第5層から成るが、一部に貼床が認められる部分がある。ほぼ平坦であるが、レベルは北西隅が最も高く南西隅に向かって徐々に低くなる。床面中央部のやや東側から東壁際に90cm×70cm、50cm×35cm、55cm×55cmの不整な椭円形等の焼面が検出された。東壁際のものはカマドの燃焼部の焼面である可能性があるが、その他の施設は検出されなかった。床面の東壁際中央部に115cm×105cmの不整な円形の土坑が検出された。焼面との位置関係から貯蔵穴状ピットである可能性がある。その他にピット、周溝等は検出されなかった。遺物は、図示したものは土師器壺、杯及び須恵器壺で、検出面及び床面から出土した。その他に土師器、須恵器片及び繩文土器片、剣片、礫が出土した。



第11図 S I - 3 住居跡

%	用 途	被 覆	基 敷	外 壁	内 床	底 面	目 標
1	住 居 地	土 壤 粉	床	ロクノ瓦砾	1.0cm、黑色瓦砾		同様6-1
2	底 地	黑 砂 土	床	ロクノ瓦砾	ロクノ瓦砾	陶板へ切り	同様6-2

第12図 S I - 3 住居跡出土遺物(1)



No.	層位	種別	計量	外観	内部	底面	備考
1	底面 v.v.-1	土器	底	×フロア陶器。ナゲリ	×フロア陶器	ナゲリ	四脚H-3
2	床-壁上	被石器	長×幅×厚(cm) 7.2×5.4×5.5 重量(g) 279.0 材質 石	石	第一場所、前庭、第二場所、第四場所。		四脚H-9

第13図 S I - 3 住居跡出土遺物

土坑

SK	位置	平面形	範囲(cm)	深さ(cm)	底面(△×△cm)	内面	備考
1	S-A P-32	椭丸方形	148×83	西型44. +中腰斜斜	平底、中央深、△×120×25×35	N-32°-E	
2	S-A T-B A-29-30	不規方形	170×123	北型106. 直腰斜	凸円、北側直、中央底△×無	N-37°-W	

SK - 2

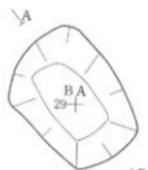
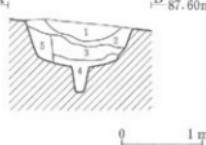
SK - 1

AP + 1
32+2+

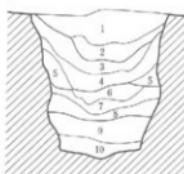


A₁

B₁ 87.20m A₁
B₁ 87.60m



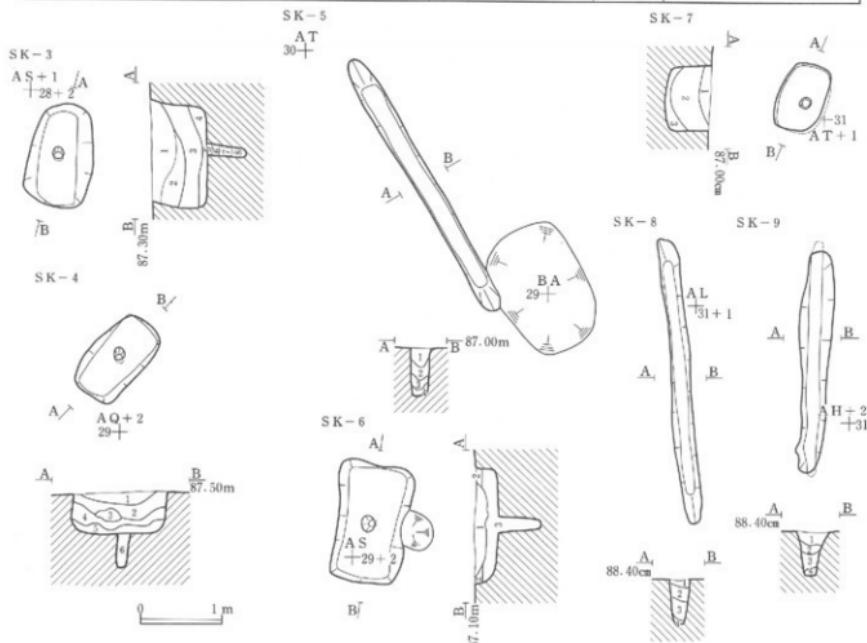
B₂



SK	層位	範囲	色調	土性	備考
1	1	縫 (DVR 4.4/6)	褐色土(深)	洪积堆积。ナメル状。	泥化堆积。ナメル状。
	2	縫 (D-SVR 4.4/6)	褐色土(深)	ナメル状。	ナメル状。
	3	縫 (DVR 4.4/6)	シルト	洪积堆积。シルト含む	
	4	縫 縫 (DVR 4.4/6)	シルト・弱粘土	シルト・弱粘土。弱粘土含む	
2	1	縫 (D-SV R 4.4/6)	シルト	洪积堆积。シルト状。	泥化堆积。シルト状。
	2	縫 (DVR 4.4/6)	シルト	シルト状。	シルト状。
	3	縫 縫 (D-SV R 4.4/6)	弱水浸シルト	弱水浸シルト。小便「縫」ml(T) 含む	
	4	縫 縫 (DVR 3.3/6)	シルト	シルト状。弱水浸含む	
3	5	縫 縫 (DVR 3.3/6)	シルト	弱の弱粘土	
	6	縫 (DVR 4.4/6)	シルト	高 (DVR 4.4/6) 上に。弱粘土含む	
	7	弱 縫 (DVR 3.3/6)	シルト・弱粘土	弱の弱粘土 (DVR 3.3/6) 上に弱シルト。弱の弱粘土分離	
	8	縫 (D-SV R 3.3/6)	シルト・弱粘土	シルト・弱粘土。弱 (DVR 3.3/6) 含む	
4	9	縫 (DVR 4.4/6)	シルト	弱粘土	
	10	縫 (DVR 3.3/6)	シルトシルト	シルト (DVR 3.3/6) 含む	

第14図 SK - 1 + 2 土坑

SK	位置	平面図	断面 (cm)	概 (cm)	範囲 (W' - > cm)	方向	趣考
3	E - AS - 28	不規形	122 × 23	直壁72, 金鉢斜	平底, 半圓底, 中央底, W' - > 15 × 13 × 60	N - 20° - E	
4	E - AS - 29	直方形	115 × 18	直壁22, 金鉢斜	半底, 延長直底, W' - > 16 × 13 × 22	N - 41° - E	
5	E - AT - 28 + 29	直角四形	369 × 33	直壁41, 金鉢斜	平底, 中央底,	N - 31° - W	
6	E - AR + AS - 29 + 30	半圓直角形	130 × 30	直壁36, 金鉢斜	平底, 中央底, W' - > 20 × 16 × 52	N - 29° - E	寛闊に深且受けている
7	E - AS + AT - 28 + 29	狭久直角形	85 × 33	直壁35, 直 + 金鉢斜 + ハーフ	平底, 中央底, W' - > 15 × 13 × 23	N - 22° - E	
8	T - AK + AL - 28 + 29	直角円形	380 × 27	中央底38, 金鉢斜	平底, 中央底	N - 6° - W	
9	I - AH - 28 + 31	直角円形	271 × 40	直壁47, 南北端 - 1 - ハーフ	平底, 南北底	N - 4° - E	



SK	層	色	調	性	種	年
1	1	青	(D.YR 4. / 6)	細い質シラフ	直立物質, 砂粒含む	
2	2	青	(D.YR 4. / 6)	ソート質偏白	- × 調節器含む	
3	3	青	(D.YR 4. / 4)	ソート質偏白	直立物質含む	
4	4	青	(D.YR 4. / 5)	ソート質偏白	ソート質偏白含む	
5	5	青	(D.YR 4. / 5)	粗立質シラフ	ソート質偏白	
6	6	青	(D.YR 5. / 5)	ソート質偏白	斜立物質, 斜粒含む	
7	7	青	(D.YR 4. / 4)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
8	8	青	(D.YR 4. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
9	9	青	(D.YR 5. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, 斜粒含む	

SK	層	色	調	性	種	年
1	1	青	(D.YR 4. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, 斜粒含む	
2	2	青	(D.YR 4. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
3	3	青	(D.YR 5. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, 斜粒含む	
4	4	青	(D.YR 4. / 4)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
5	5	青	(D.YR 4. / 4)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
6	6	青	(D.YR 5. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, 斜粒含む	
7	7	青	(D.YR 4. / 4)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
8	8	青	(D.YR 4. / 4)	粗立質シラフ	斜立物質, ソート質偏白含む	
9	9	青	(D.YR 4. / 5)	粗立質シラフ	斜立物質, 斜粒含む	

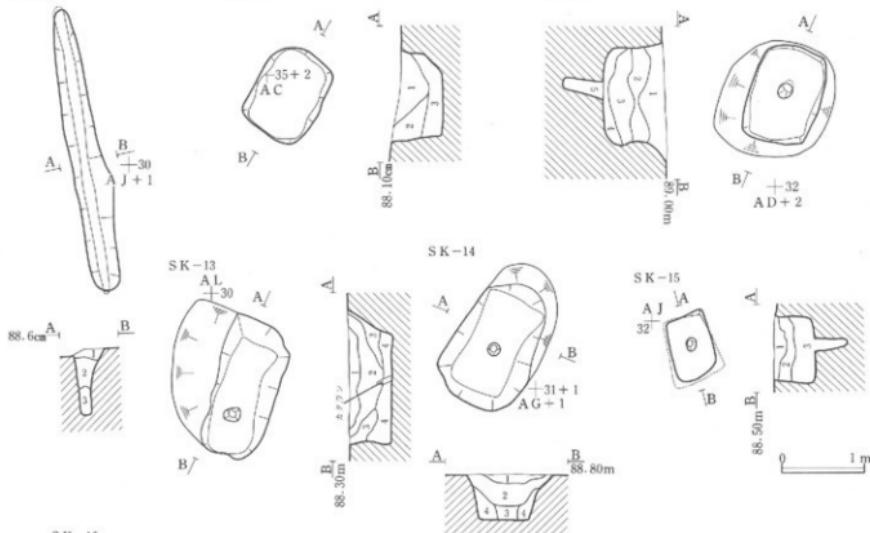
第15図 SK-3・4・5・6・7・8・9 土坑

SK	位置	平面形	横断 (m)	縦 (m)	基面 ($\zeta_0 + \text{cm}$)	方向	参考
10	— A — 29 + 30	直角四形	353 + 47	中央窓2, 隣接窓2 + ベーハンダ	半柱、隣接柱	N + 10° - W	
11	— A-C + AD - 35	扇形直角形	115 + 87	西側窓、北側窓	小窓2、西側窓、 $\zeta_0 + \text{cm}$	N + 34° - E	西面に縫隙に連する
12	— A-B - 32	扇形直角形	123 + 87	西側窓、北側窓	半柱、中央柱、 $\zeta_0 + 20 + 17 + 52$	N + 18° - E	本家の土足の西側に隙縫の痕跡有
13	— A-K + AL - 23	不規則直角形	162 + 83	北側窓3、北-東-中-南側斜面	半柱、西側窓レバード、 $\zeta_0 + 21 + 17 + 24$	N + 17° - E	本家の土足の西側に隙縫の痕跡有
14	— A-F + AG - 31	不規則直角形	153 + 107	南側窓、北側窓	半柱、南側窓、 $\zeta_0 + 17 + 13 + 58$	N + 27° - E	本家の土足の北側に隙縫の痕跡有
15	— A-J - 31 + 32	直角形	77 + 53	南側窓3、北側窓を除きオーバーレハンド	半柱、北側窓、 $\zeta_0 + 10 + 13 + 48$	N + 13° - W	
16	— A-F - H	不規則直角形	120 + 08	中央窓27、北2、南側オーバーレハンド	半柱、南側窓、 $\zeta_0 + 25 + 23 + 37$	N + 4° - E	

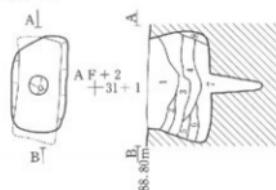
SK-10

SK-11

SK-12



SK-16



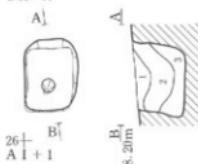
SK	箇所	色調	主 枝	側 枝
1	窓 (GYR 4.4'/6)	黒土質シルト	マソダ-壁を含む	
13	2 窓 (GYR 4.5'/6)	粘土質シルト	マソダ-壁を含む	
	3 窓 (GYR 4.4'/6)	粘土	1、2 窓と同様の大きさのベーハンダ (1~2mm程度) を含む	
1	窓 (GYR 4.4'/6)	粘土質シルト	マソダ-壁を含む	
13	2 窓 (7.3YR 3.7/4)	シルト質土	マソダ-壁を含む	
	3 窓 (7.3YR 4.4'/4)	シルト質土	小神合谷	
1	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト質土	マソダ-壁を含む	
2	窓 (GYR 4.4'/4)	シルト質土	泥化鉛鉱化	
13	3 窓 (GYR 4.4'/6)	シルト質土	細粒 (GYR 8.0'/6) シルト質土 (= A 枝) ベーハンダを含む	
	4 窓 (4.5YR 3.6'/6)	シルト質土	泥化鉛鉱化	
13	5 窓 (GYR 4.4'/6)	シルト質土	泥化鉛鉱化	

SK	箇所	色 調	主 枝	側 枝
1	窓 (7.3YR 4.4'/6)	黒土質シルト	マソダ-壁を含む	
2	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	泥化鉛鉱化シルトを含む	
13	3 窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	シルト質シルトを含む	
4	窓 (7.3YR 4.4'/6)	シルト	粘土質シルト	粘土 (GYR 3.3/3) 黒土質シルトを含む
5	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	シルト質シルト	
1	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	泥化鉛鉱化	
2	窓 (GYR 4.4'/4)	シルト	泥化鉛鉱化 (GYR 4.4'/6) 黑土質シルトを含む	
13	3 窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	泥化鉛鉱化	
4	窓 (GYR 4.4'/4)	シルト	泥化鉛鉱化	
5	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	泥化鉛鉱化	
13	6 窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	シルト質シルト	= A 枝、泥化鉛鉱化
7	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	シルト質シルト	= A 枝、泥化鉛鉱化
8	窓 (GYR 4.4'/6)	シルト	シルト質シルト	泥化鉛鉱化

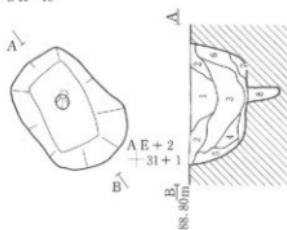
第16図 SK-10 + 11 + 12 + 13 + 14 + 15 + 16 土坑

SK	分類	半圓形	幅幅 (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	方位	備考
17	↑ - A - 26	扇丸真方型	90×15	北東面60°, 南西面45°, 東面25°, 西面15°	平傾, 中央低, $\pi' = 18 \times 16 \times 6$	N - 2° - E	
18	↑ - A - 31	小盤溝真方型	155×111	東面45°, 中央斜傾	やや平傾, 中央低, $\pi' = 18 \times 17 \times 6$	N - 36° - W	
19	↑ - A - 25 + 26	小盤真方型	117×97	南壁125, 北壁80	小円形ピット南壁15×62, 北壁18×34	N - 11° - W	
20	↑ - A - 31	西門形山腹	130×170	北壁82, 合成形	平傾, 中央低, $\pi' = 13 \times 16 \times 6$	[N - 24° - E]	東面最奥穴外へ延びる
21	F - A - E - 53	二槽圓形	110×85	北西側壁, 中央斜傾	平傾, 中央低, $\pi' = 13 \times 16 \times 6$	N - 21° - W	全側面擴張を示している
22	F - AG - 53	不整石形	118×95	北東側壁, 2号窓前	小円形, 中央低, $\pi' = 19 \times 16 \times 6$	N - 67° - E	

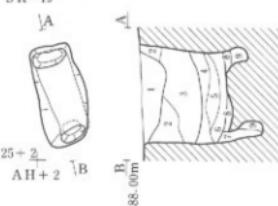
SK - 17



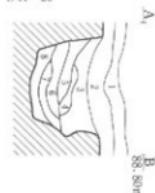
SK - 18



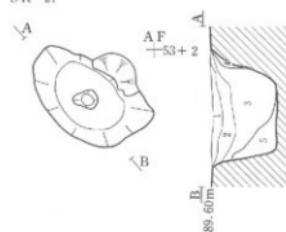
SK - 19



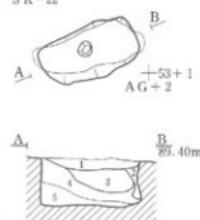
SK - 20



SK - 21



SK - 22



SK	層位	地	色	土	石	備考
17	1	黒	(G.YR 4.7/4)	黒土質シルト	T字の新規な柱、リード板張用柱孔	
	2	黒	(G.YR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物、シルト質粘土	
	3	黒	(G.YR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	4	黒	(G.YR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	5	黒	(G.YR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	6	黒	(G.YR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	

SK	層位	地	色	土	石	備考
18	1	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	鉄化物、シルト質粘土	
	2	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土の充てん	
	3	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物、シルト質粘土	
	4	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	5	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	6	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	7	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	
	8	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	シルト質粘土	

SK	層位	地	色	土	石	備考
19	1	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	鉄化物、高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)	上部は圓錐的充てん
	2	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	3	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	4	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	5	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	6	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	7	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	8	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)
	9	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	鉄化物 (GYR 3.3) - 黑土質シルト質粘土	高 (GYR 4.7/4) - 低 (GYR 5.8/3)

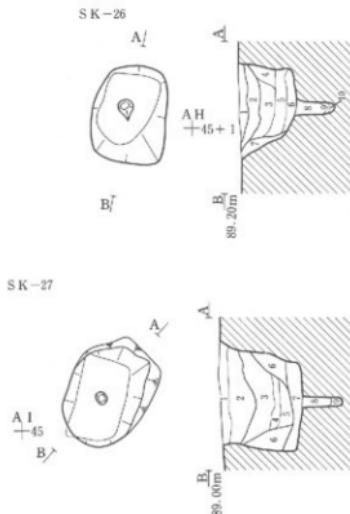
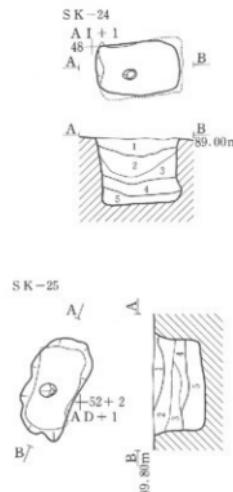
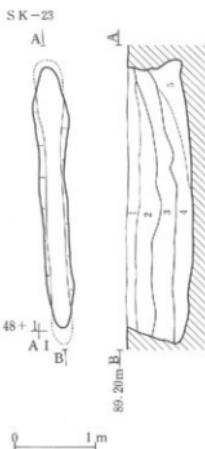
SK	層位	地	色	土	石	備考
20	1	1	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	鉄化物充てん
	2	2	黒	(GYR 4.7/2)	シルト質粘土	鉄化物充てん, 小塊 (10 cm ~ 1 m) の充てん
	3	3	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	鉄化物, シルト質粘土
	4	4	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	シルト質粘土
	5	5	黒	(GYR 4.7/2)	シルト質粘土	シルト質粘土の充てん
	6	6	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	シルト質粘土
	7	7	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	シルト質粘土, リード質粘土
	8	8	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	リード質粘土
	9	9	黒	(GYR 4.7/2)	シルト	リード質粘土

SK	層位	地	色	土	石	備考
21	1	1	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	鉄化物充てん
	2	2	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	鉄化物充てん
	3	3	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	リード質粘土, シルト質粘土
	4	4	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	リード質粘土
	5	5	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	リード質粘土

SK	層位	地	色	土	石	備考
22	1	1	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	リード質粘土
	2	2	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	リード質粘土
	3	3	黒	(GYR 4.7/4)	シルト	リード質粘土
	4	4	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	リード質粘土
	5	5	黒	(GYR 4.7/4)	シルト質粘土	リード質粘土

第17図 SK-17 + 18 + 19 + 20 + 21 + 22 土坑

SNK	位置	半径(m)	幅(m)	底面(△×△m)	方向	地物、符号
23	Y-A-1-63+49 直角弯形	22±43	西面中央7.5m, 末端北西-バーベニア 東面, 西端	半直, 中央低	N-3°-W	
24	Y-A-1-67+48 不规则弯形	18±45	南面中央, 西端にいて-バーベニア 半直, 中央低, $C' = 17 \times 12 = 213$	N-80°-E		
25	Y-AD-52 不规则的形	18±70	南面东侧, 角内底	半直, 中央低, $C' = 20 \times 10 = 210$	N-28°-E	
26	Y-A-1-82+45 不规则丸形	12±30	北直, 角内底	半直, 南直(ヨコレ), $C' = 25 \times 18 = 450$	N-9°-E	
27	Y-A-1-94+45 不规则形	18±60	半直(ヨコレ), 角内底	半直, 中低, $C' = 22 \times 11 = 242$	N-25°-E	本条の土堤の上、実際に路盤有



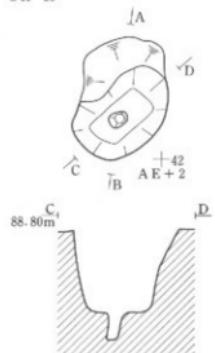
学年	単元	解説	主 課	主 性	備 考
2年	1	電 気 (HYR 4/4)	ソルト	油化物、マーカー有りなし	
	2	電 気 (HYR 4/4)	ソルト	マーカー有りなし、エラスト合意	
	3	電 気 (HYR 5/4)	地質ソルト	油化物、マーカー有りなし	
	4	電 気 (HYR 5/4)	地質ソルト	マーカー有りなし	
3年	1	電 气 (HYR 6/4)	地質ソルト	マーカー有りなし	
	2	電 气 (T-SVR 3/4)	地質ソルト	マーカー有りなし	
	3	電 气 (T-SVR 3/4)	地質ソルト	マーカー有りなし	
	4	電 气 (HYR 6/4)	地質ソルト	マーカー有りなし、小鉄 (鉄錆) を含む	
	5	電 气 (T-SVR 3/4)	地質ソルト	マーカー有りなし	
	6	電 气 (HYR 6/4)	地質ソルト	油化物、地質有り、C-1の内側壁	
4年	1	電 气 (HYR 6/4)	地質ソルト	油化物有り、少量有り	
	2	電 气 (HYR 6/4)	地質ソルト	油化物有り、初期地質有り	
	3	電 气 (T-SVR 3/4)	地質ソルト	初期地質有り、初期マーカー有りなし	
	4	電 气 (T-SVR 3/4)	地質ソルト	初期地質有り、初期マーカー有りなし	
	5	電 气 (T-SVR 3/4)	地質ソルト	初期地質有り、初期マーカー有りなし	

試験	試験番号	色	調理	本物	偽	等
B	1 黒 鮎 (HYR 3.5/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	2 黒 鮎 (HYR 4.4/4)	黒鮎	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	3 鮎 (HYR 4.6/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
	4 鮎 (HYR 3.5/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
	5 鮎 (HYR 3.5/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
	6 鮎 (HYR 3.5/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
C	7 黒 鮎 (HYR 3.5/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	8 黒 鮎 (HYR 3.5/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	9 黒 鮎 (HYR 3.5/3)	黒鮎	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	10 黒 鮎 (HYR 3.5/3)	黒鮎	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	11 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
D	1 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	2 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	3 鮎 (HYR 4.6/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
	4 鮎 (HYR 4.6/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
	5 鮎 (HYR 3.4/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
	6 鮎 (HYR 3.4/3)	鮎	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	鮎(アマメ)	良
E	7 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	8 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	9 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	10 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良
	11 黒 鮎 (HYR 4.6/3)	黒鮎	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	黒鮎(アマメ)	良

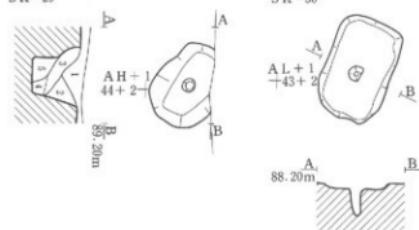
第18図 SK-23・24・25・26・27 土塊

SK	位置	平面図	規模 (ca)	断面 (m)	深度 (m' + 10m)	方位	遺物、発見
28	3-AE-12	北東部内部	130×50	北西壁(6m、余り高)	平底、中央底、 Δ' + 22 + 17 + 34	N - 45° - E	木製の土筒の主層に陶器片
29	3-AH-14	南内側部	160×30	南西壁(6m、余り高)	平底、中央底、 Δ' + 18 + 10 + 20	(N - 42° - E)	東側に芦矢頭(?)のために掘下無
30	3-AL-13	南東部内部	140×45	北壁(6m、餘り高)	平底、中央底、 Δ' + 18 + 10 + 22	N - 36° - E	
31	3-AM+AN-44	長方形	120×65	西壁(3m、餘り高)	小内斜、中央底、 Δ' + 10	N - 55° - E	S 1 3 遺物下で検出
32	3-AD+A-E-48+47	複数	230×33	南西壁(6m、餘り高)	小凸底、中央底 Δ' + 45 + 56 + 15	N - 38° - E	7層上面で検出

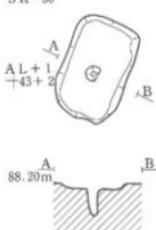
SK-28



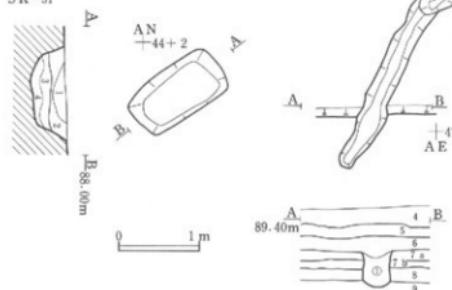
SK-29



SK-30

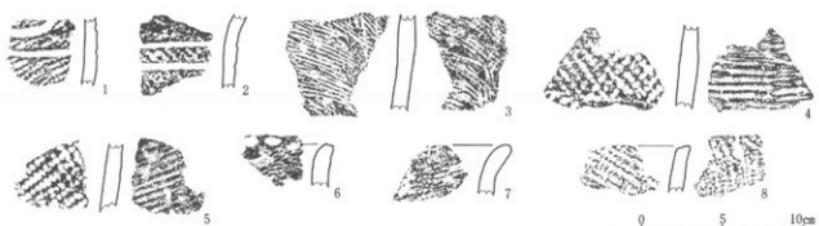


SK-31



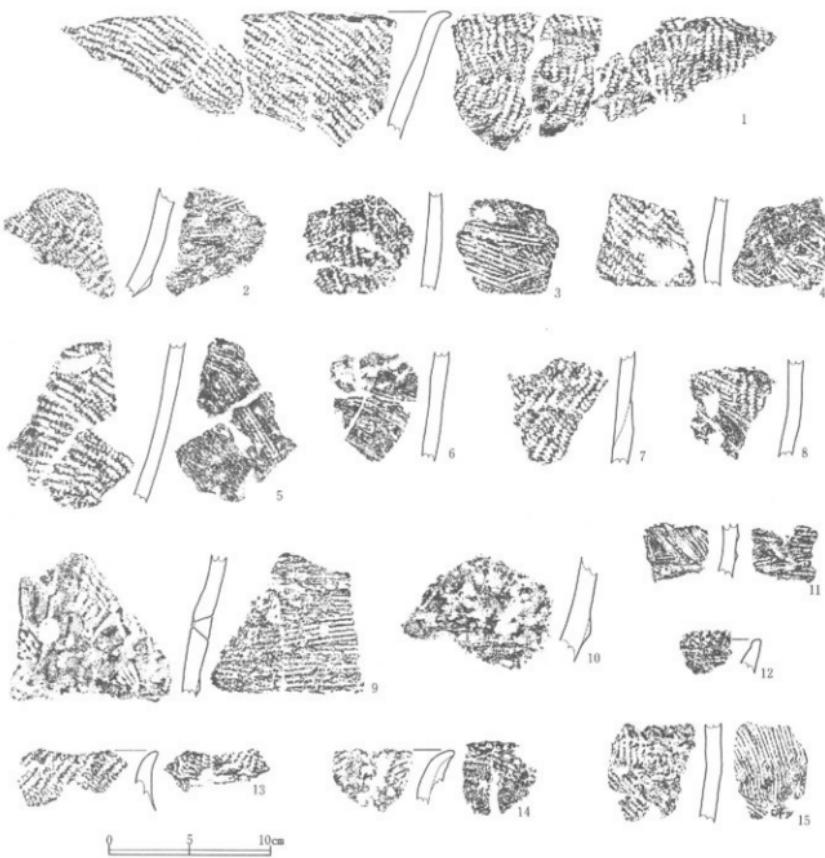
第19図 SK-28・29・30・31・32 土坑

SK	番号	層	古	新	地	備考
28	1	層	層 (SYR 3. / 3)	シルト	泥化物含む。陶器 (SYR 3. / 8)	粘土質(?)・砂質
	2	層	(SYR 4. / 8)	粘土質シルト	泥化物。	シルト質含む
	3	層	(SYR 4. / 4)	粘土質シルト	泥化物。	粘土質含む
	4	層	(SYR 4. / 3)	シルト		シルト質含む
	5	層	(SYR 4. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
29	6	層	(SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	7	層	(SYR 5. / 5)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	8	層	(SYR 5. / 4)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	9	層	(SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	10	層	(SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト・内側壁
30	1	層	層 (SYR 6. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	2	層	(SYR 6. / 8)	シルト質シルト		
	3	層	(SYR 6. / 4)	シルト	泥化物小粒含む	
	4	層	(SYR 6. / 4)	シルト	泥化物。	
	5	層	層 (SYR 6. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
31	1	層	層 (SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	2	層	(SYR 4. / 8)	シルト質シルト		
	3	層	(SYR 4. / 4)	シルト	泥化物小粒含む	
	4	層	(SYR 5. / 4)	シルト	泥化物。	
	5	層	(SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト・内側壁
32	1	層	層 (SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	2	層	(SYR 4. / 8)	シルト質シルト	泥化物。	シルト質含む
	3	層	(SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	
	4	層	層 (SYR 5. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む
	5	層	(SYR 4. / 8)	シルト	泥化物。	シルト質含む



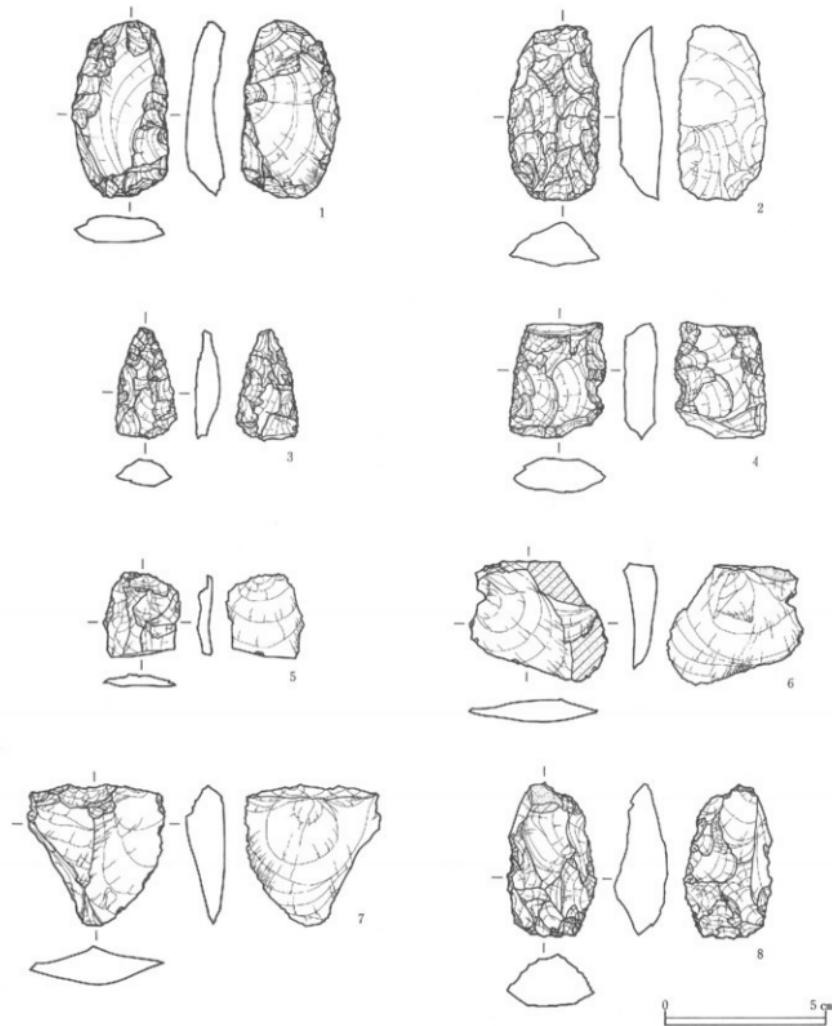
No.	出土位置	部位	種別	外観	内観	備考
1	E-SK-2	堆	土	調文土	調文L	調文
2	E-SK-2	堆	土	調文土	調文L	調文
3	E-SK-2	堆	土	調文土	調文	調文
4	E-SK-4	4	上	調文土	不規則	調文
5	E-SK-6	3	調文土	調文L	調文	調文
6	I-SK-12	4	調文土	調文L	調文	調文
7	I-SK-12	堆	土	調文土	調文L	調文
8	I-SK-12	堆	土	調文土	調文L	調文

第20図 土坑出土土器(1)



第21図 土坑出土土器(2)

No.	出土地点	辨 位	種 别	片 面	内 面	備 考
1	I-SK-12	2	高 文 土 壺	縦文R.L. 山型R.山型L	縦文R.L.	鉢上中C.縦物織痕深入。口部R.L.と同一側面。 图版67-4
2	I-SK-12	2	高 文 土 壺	縦文しR. 滑粗火	無焼火	鉢上中C.縦物織痕深入
3	I-SK-12	3	高 文 土 壺	不明焼火	無焼火	鉢上中C.縦物織痕深入
4	I-SK-12	3	高 文 土 壺	縦文R.L.	縦文火. タテ	鉢上中C.縦物織痕深入
5	I-SK-12	3	高 文 土 壺	縦文R.L.	縦文火	鉢上中C.縦物織痕深入
6	I-SK-12	3	高 文 土 壺	縦文火	不明	鉢上中C.縦物織痕深入。内面にハス状跡化粧付耳。
7	I-SK-12	半 突 土	高 文 土 壺	縦文しR.	タテ	鉢上中C.縦物織痕深入
8	I-SK-12	4	高 文 土 壺	縦文R.L.	タテ火	鉢上中C.縦物織痕深入
9	I-SK-13	半 突 土	高 文 土 壺	縦縞文. 沈焼火. 清灰火	無焼火	鉢上中C.縦物織痕少數深入。口部合む。 图版67-6
10	I-SK-15	半 突 土	高 文 土 壺	縦文火. 沈焼火. 清灰火	タテ火	鉢上中C.縦物織痕少數深入
11	I-SK-16	半 突 土	高 文 土 壺	縦文火. 縦文R.L. 沈焼火	無焼火	鉢上中C.縦物織痕深入。口部合む
12	I-SK-16	半 突 土	高 文 土 壺	口輪縮凹凸R.口部R.縦文L.R.	タテ	鉢上中C.縦物織痕深入
13	I-SK-16	半 突 土 下部	高 文 土 壺	縦文火R.	口輪縮凹凸R.縦文L.R.	鉢上中C.縦物織痕深入
14	I-SK-18	半 突 土	高 文 土 壺	不明焼火. 滑粗火	口輪縮凹凸R.不明焼火	鉢上中C.縦物織痕深入 图版67-3
15	I-SK-18	半 突 土	高 文 土 壺	縦文R.	無焼火	鉢上中C.縦物織痕深入



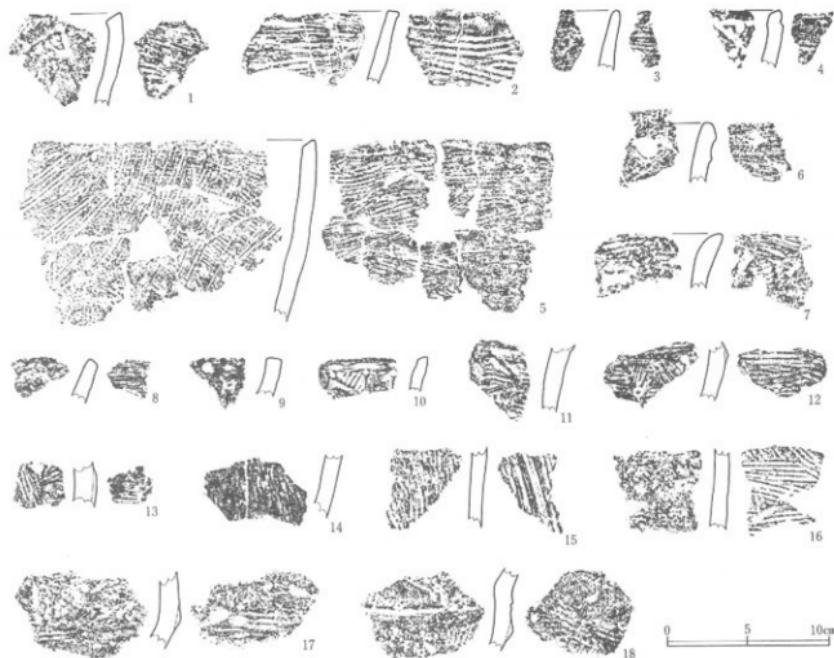
No.	出 土 位 置	層 位	種 别	長×幅×厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
1	I-SK-8	2	直 硬 石 鋸	5.3×2.8×1.0	18.6	麻田岩	四面刃 四面刃
2	I-SK-9	中 横 上	直 硬 石 鋸	5.4×2.7×1.2	17.0	麻田岩	四面刃 四面刃
3	I-SK-12		石 鋸	2.4×1.8×0.7	4.2	技術高超	四面刃 四面刃
4	I-SK-12	4	スクリーパー	2.5×2.8×1.0	13.2	石核	技术高超
5	I-SK-12		二次加工 片	2.6×2.2×0.8	2.1	技术高超	技术高超
6	I-SK-15	中 横 土 削	刃	4.1×1.2×1.2	15.2	綠色泥灰岩	
7	I-SK-15	中 横 土 削	刃	4.0×1.0×1.0	15.2	綠色泥灰岩	
8	I-SK-16	中 横 土 削 及 石 锤	4.7×2.7×1.6	18.8	結晶石	四面刃 四面刃	

第22図 土坑出土石器

2. 出土遺物

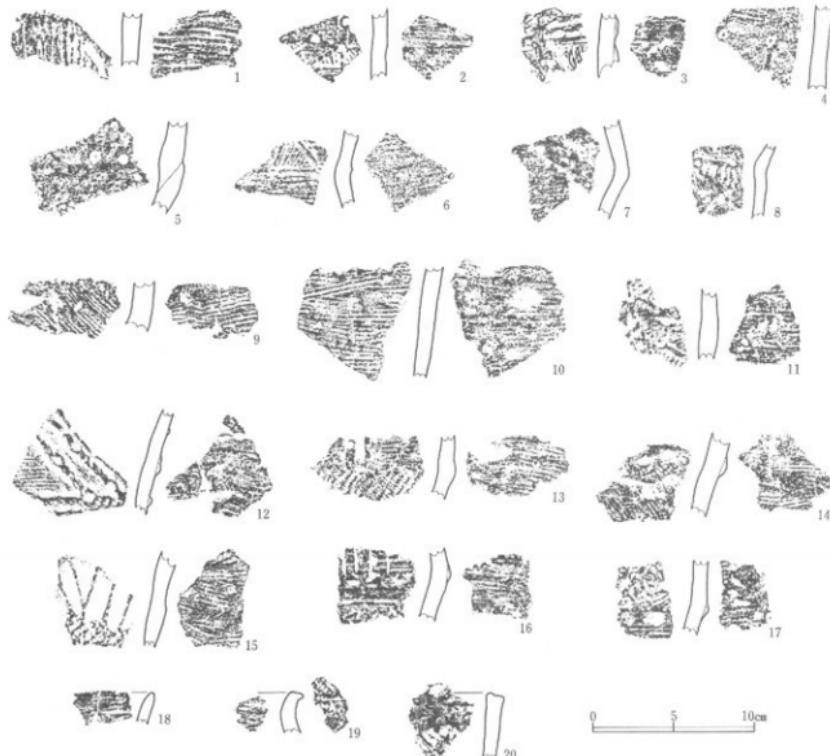
〈遺構外出土遺物〉

各区の1～4層出土の遺物及び表採遺物である。縄文土器、土師器、須恵器、石器、石製品がある。図示したものには縄文土器、剝片石器である。縄文土器は大部分が磨小片であり、全体の器形や文様を復元できるものではなく、特徴的な破片の拓本資料を示した。石器には石鎌、尖頭器、石錐、石匙、ヘラ状石器、スクレイバー、磨製石斧等がある。



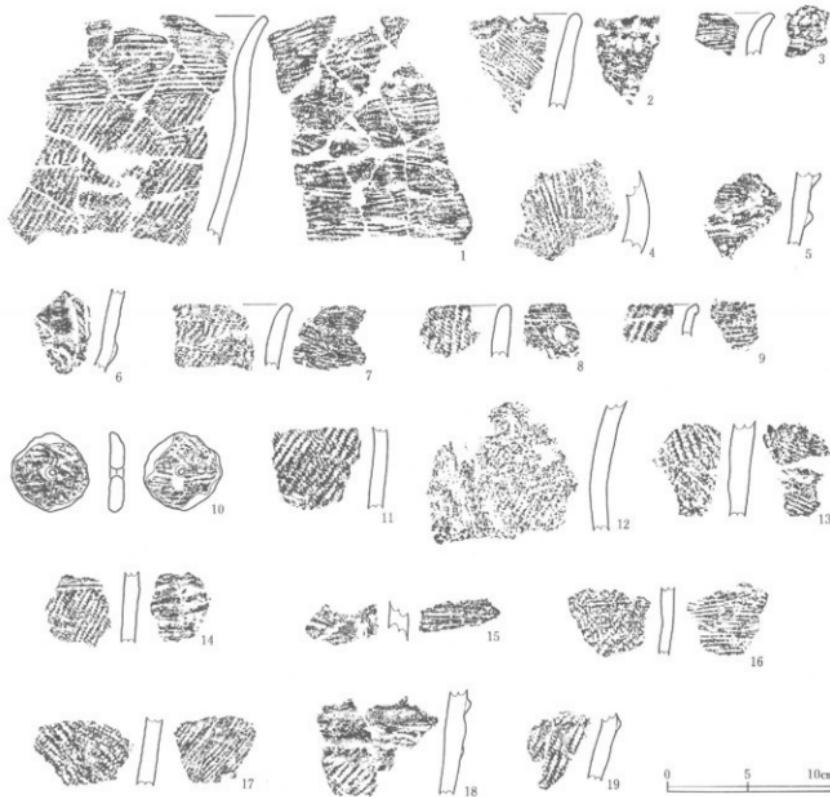
No.	出土位置	施 作	施 実	内 面	備 考
1	I-AD-31,32	不 署	縄 文 土 器	余模文	出土中に複数個見入。 図版67-5
2	I-E-AJ-1, AK-35,36	4	縄 文 土 器	余模文	出土中に複数個見入。 図版67-6
3	I-E-AJ-1, AK-35,36	4	縄 文 土 器	余模文	出土中に複数個見入。
4	I-AJ-26	倒 木 頭	縄 文 土 器	余模文、河井文	出土中に複数個見入。
5	I	表 土	縄 文 土 器	余模文	出土中に複数個見入。
6	I	表 土	縄 文 土 器	余模文、足跡文、所立上、表面に下平調文	出土中に複数個見入。大筋の右側合む
7	I	表 土	縄 文 土 器	余模文、下斜模文	出土中に複数個見入。 図版67-9
8	I	表 土	縄 文 土 器	マメテ	出土中に複数個見入。
9	I	表 土	縄 文 土 器	脚模文	出土中に複数個見入。余数多い。
10	II	西トレゾ	縄 文 土 器	余模文、足跡文、河井文、河井文	出土中に複数個見入。小筋の餘り多い。
11	I-AG-39	倒 木 頭	縄 文 土 器	余模文、足跡文	出土中に複数個見入。
12	I-E-AJ-1, AK-35,36	1	縄 文 土 器	余模文、足跡文、河井文、脚模文	出土中に複数個見入。 図版67-10
13	I-E-AJ-1, AK-35,36	1	縄 文 土 器	余模文、足跡文、河井文	出土中に複数個見入。 図版67-11
14	I-AL-21	不 署	縄 文 土 器	余模文	出土中に複数個見入。
15	I	表 土	縄 文 土 器	余模文	出土中に複数個見入。
16	I	表 土	縄 文 土 器	マメテ	出土中に複数個見入。
17	I	表 土	縄 文 土 器	余模文、足跡文、河井文、脚模文	出土中に複数個見入。火照の跡が多い。 図版67-12
18	I	表 土	縄 文 土 器	余模文、足跡文、河井文、ナダ	出土中に複数個見入。

第23図 遺構外出土土器(1)



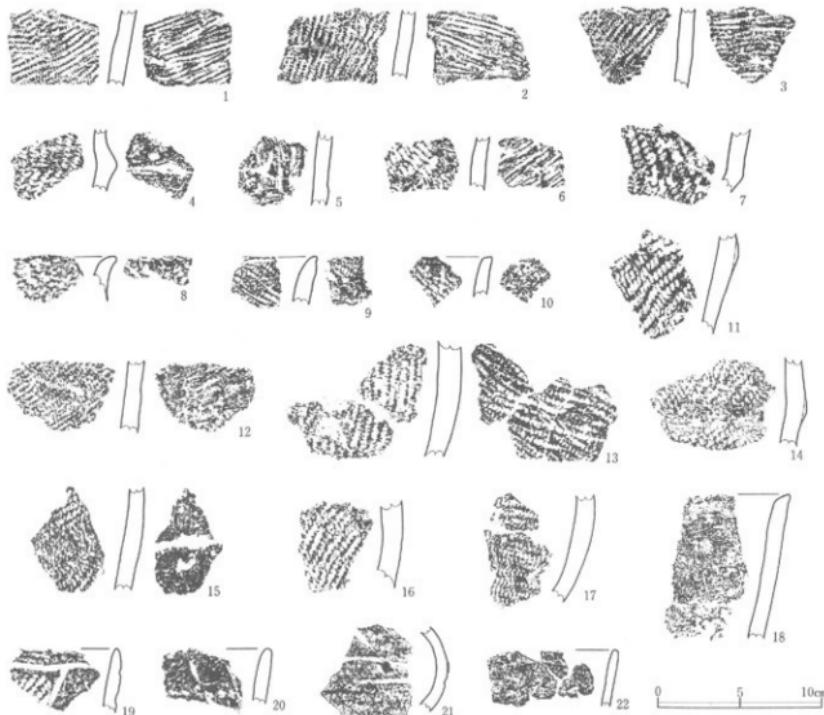
No.	出土地點	層位	種別	外観	内観	筆者
1	高 土	上	土 壁	赤陶文	赤陶文	船主中に植物繊維混入
2	I	高 土	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文	赤陶文	船主中に植物繊維混入。砂粒多い
3	I	高 土	圓 文 土 壁	赤陶文、斜突文、其質堅密浮在	赤陶文	船主中に植物繊維混入
4	I	高 土	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文	ノマツ	船主中に植物繊維混入。砂粒多い
5	I	高 土	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文	ノマツ	船主中に植物繊維混入。砂粒多い
6	I	4	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文、鉢壁付	赤陶文	船主中に植物繊維混入
7	I	II	圓 文 土 壁	赤陶文、斜突文	赤陶文	船主中に植物繊維混入。砂粒多い
8	II	西 ト レ ッ シ	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、浅鉢文、斜突文、鉢壁付	赤陶文	船主中に植物繊維混入
9	I	II	圓 文 土 壁	赤陶文	赤陶文	船主中に植物繊維混入
10	E-B-A-29	西 木 陰	圓 文 土 壁	赤陶文	赤陶文	船主中に植物繊維混入。砂粒多い
11	II	高 土	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文、鉢壁付、斜突文	赤陶文	船主中に植物繊維混入。砂粒、金属多く
12	E-AM-45	西 木 陰	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文、鉢壁付	赤陶文	船主中に植物繊維混入
13	II	II	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文	赤陶文	船主中に植物繊維混入。砂粒多い
14	II	II	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文	赤陶文	船主中に植物繊維混入
15	高 土	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文、ノマツ	赤陶文	船主中に植物繊維混入	田原67-19
16	中 木 陰	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文	赤陶文	船主中に植物繊維混入	田原67-19
17	中 木 陰	圓 文 土 壁	赤陶文、浅鉢文、斜突文、鉢壁付	赤陶文	船主中に植物繊維混入	田原67-19
18	1-A-1-34	4	圓 文 土 壁	赤陶文	赤陶文	船主中に植物繊維混入
19	1-A-32	4	圓 文 土 壁	赤陶文、少鉢形、斜突文、斜直立	赤陶文	船主中に植物繊維混入
20	1-A-J-AK-25-36	4	圓 文 土 壁	赤陶文、斜突文、突起の凹凸浮在	赤陶文	船主中に植物繊維混入

第24図 遺構外出土土器(2)



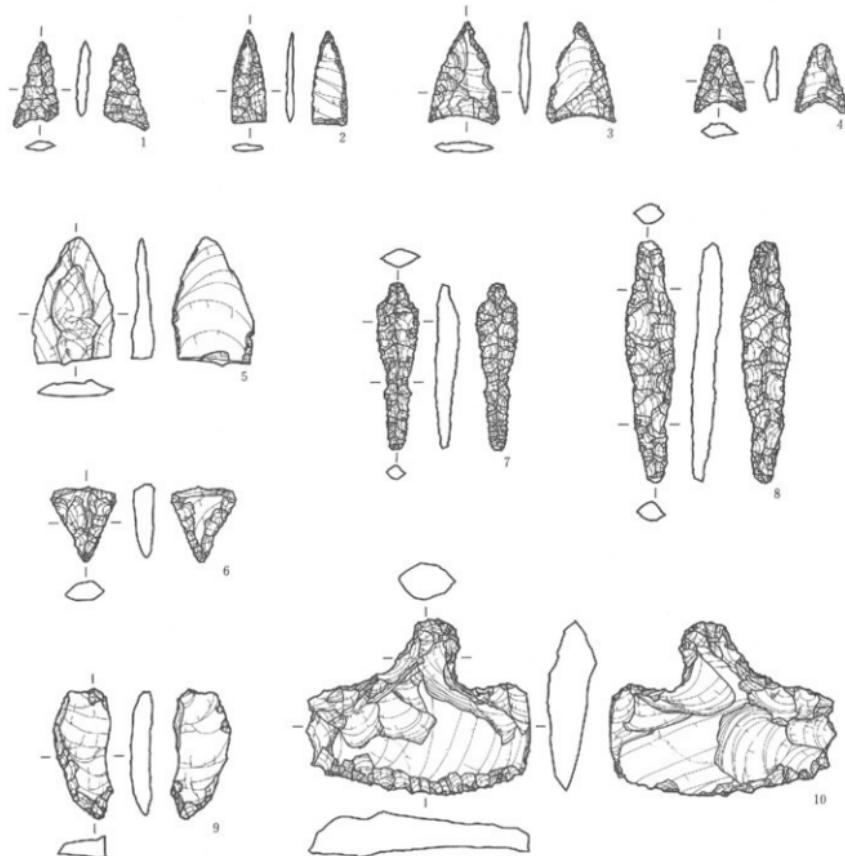
番号	出土位置	層位	種別	外観	内面	備考
1	E-AD-65	鉢	木 手 磨	縦文 土 磨	縦文、横文LR	鉢土中に植物繊維混入
2	下 明	縦 文 土 磨	縦文	口沿の凹形部	マツノ	鉢土中に植物繊維混入
3	下 不	縦 文 土 磨	縦文		小孔開穴	鉢土中に植物繊維混入
4	I	直 土	縦 文 土 磨	縦文	マツノ	鉢土中に植物繊維混入
5	不 明	縦 文 土 磨	縦文		マツノ	鉢土中に植物繊維混入
6	明 細	縦 文 土 磨	縦文	縦文LR、縦文LR、縦文PL	マツノ	鉢土中に植物繊維混入
7	I	直 土	縦 文 土 磨	縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入
8	I	直 土	縦 文 土 磨	縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入
9	I	4	縦 文 土 磨	縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入
10	I-A-L-26	鉢	土	縦文 土 磨	縦文LR、空孔	鉢土中に植物繊維混入。土質円錐。18.4g
11	I, E-A-J, AK-35-36	4	縦 文 土 磨	縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入
12	I-AL-H	直 土	縦 文 土 磨	縦文	縦文	鉢土中に植物繊維混入。火炎の跡が多い。
13	I	直 土	縦 文 土 磨	縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入
14	I	直 土	縦 文 土 磨	縦文、縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入
15	I	皮 土	縦 文 土 磨	縦文LR、空孔、縦文	縦文	鉢土中に植物繊維混入
16	I	4	縦 文 土 磨	縦文LR	縦文	鉢土中に植物繊維混入。砂粒多い。
17	I	4	縦 文 土 磨	縦文RL	縦文	鉢土中に植物繊維混入
18	II	西 極 麻 周	縦 文 土 磨	縦文、縦文LR、縦縛文	縦文	鉢土中に植物繊維混入
19	II	木 頭 中	縦 文 土 磨	縦文LR、縦縛文	縦文	鉢土中に植物繊維混入

第25図 遺構外出土土器(3)



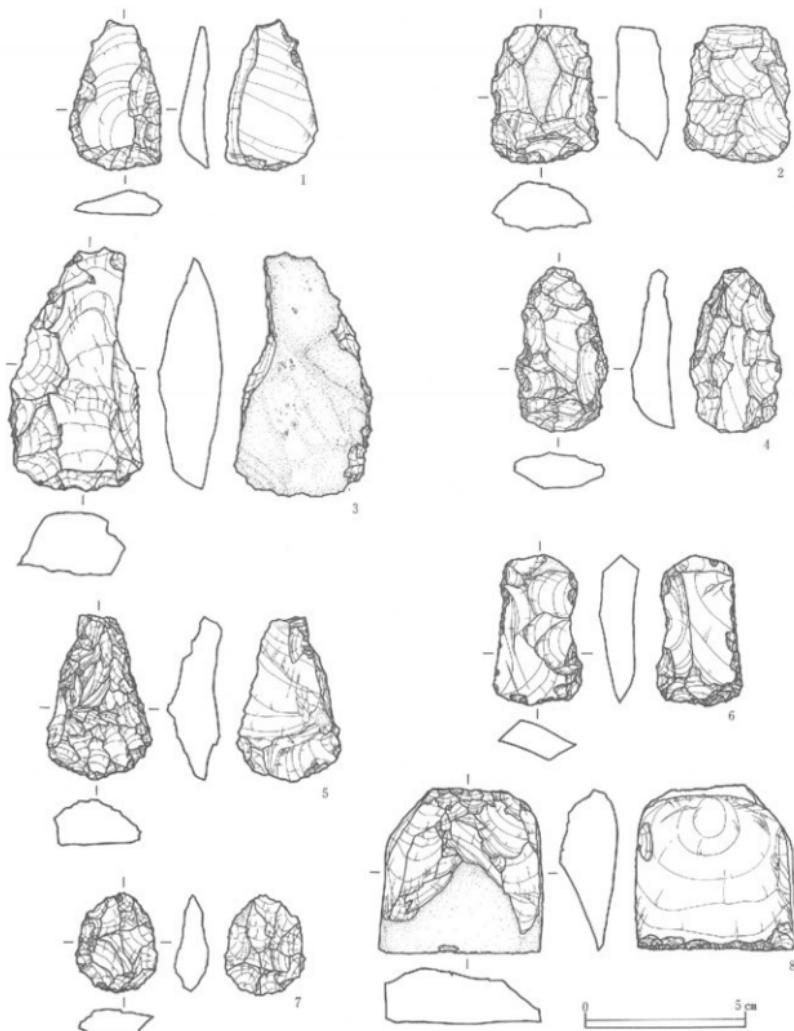
No.	出土位置	層位	備註	外観	内部	筆者
1	E-A P-45	側木 真	縹文土器	縹文LR	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
2	E	真 土	縹文土器	縹文LR	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
3	E	真 土	縹文土器	縹文LR	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
4	E	真 土	縹文土器	縹文LR, 斜縹文	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
5	N-AG-41	側木 底	縸文土器	縸文LR	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
6	不 明	縸文土器		赤褐色, 縸文LR	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
7	不 明	縸文土器		縸文Eし, 縸文	赤褐色	粘土中に植物繊維混入
8	I	真 土	縸文土器	縸文Eし	縸文LR	粘土中に植物繊維混入
9	I	真 土	縸文土器	縸文Eし, ○唇部の縸文RL	縸文RL	粘土中に植物繊維混入
10	I	真 土	縸文土器	縸文Eし	マメア	粘土中に植物繊維混入
11	I-A,C, A-E 31,32	4	縸文土器	縸文LR, 斜縸文	マメア	粘土中に植物繊維混入
12	I	4	縸文土器	縸文LR	赤褐色	粘土中に植物繊維混入, 内部E
13	I	真 土	縸文土器	縸文LR	縸文LR	粘土中に植物繊維混入
14	I	真 土	縸文土器	縸文LR, 斜縸文	マメア	粘土中に植物繊維混入
15	I	真 土	縸文土器	縸文LR	マメア	粘土中に植物繊維混入
16	I	真 土	縸文土器	縸文LR	マメア	粘土中に植物繊維混入
17	E-AM-45	側木 真	縸文土器	縸文LR	マメア	粘土中に植物繊維混入
18	I	手 真	縸文土器	不規則E, リボン	マメア	筋状多い
19	I	手 真	縸文土器	縸文Eし, 斜縸文	マメア	大型の砂質多い
20	E	手 真	縸文土器	L字縐文唇部斜削	マメア	筋状多い
21	I	4	縸文土器	斜縸文, 1ガタ, 斜縸	マメア	
22	I-A,J, AK-35	4	縸文土器	1ガタ	1ガタ	

第26図 遺構外出土土器(4)



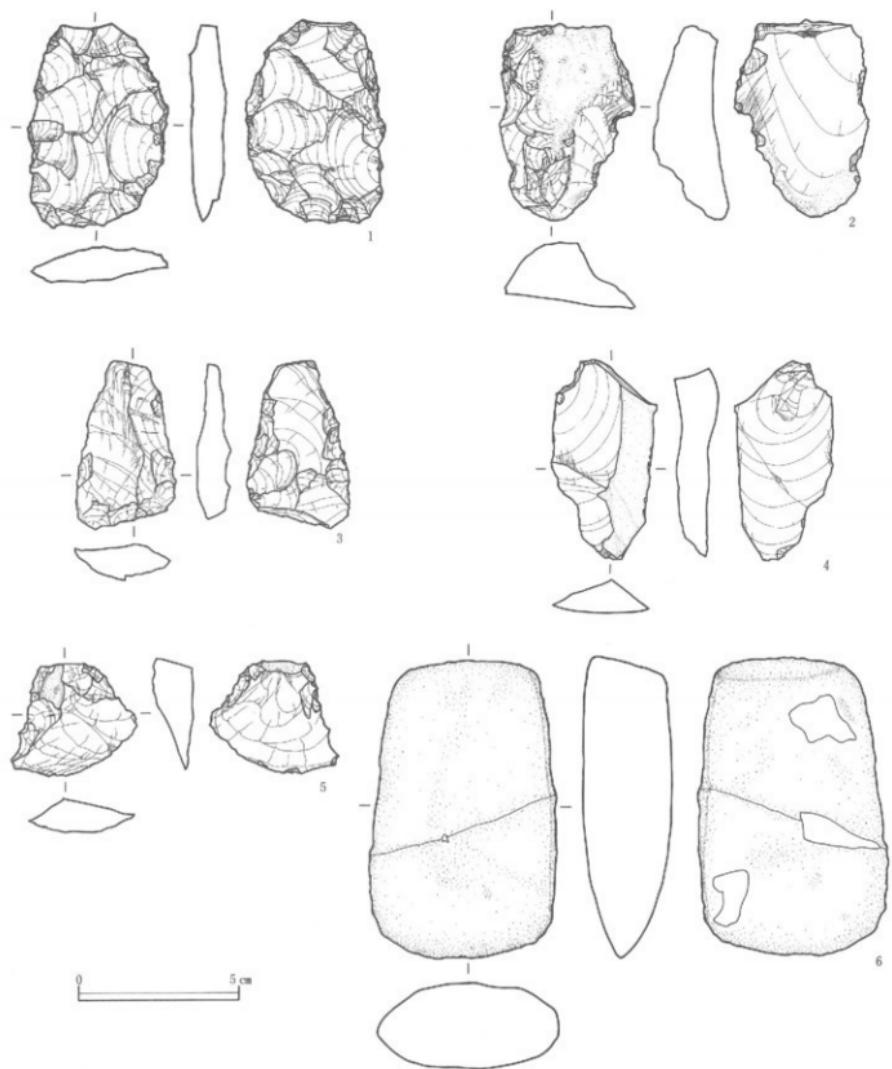
No.	出土地點	形 狀	材 質	長×寬×厚(cm)	重 量(g)	石 器	備 考
1	遺	—	石	2.3×1.2×0.3	0.7	刮削器	圖版88-15
2	遺	—	石	2.8×1.0×0.3	0.9	刮削器	圖版88-16
3	Y-AG-35	—	石	2.9×2.0×0.3	1.4	刮削器	圖版88-17
4	灰	圓	石	1.8×1.5×0.4	0.8	刮削器	圖版88-18
5	灰	圓	石	3.8×2.4×0.7	4.8	刮削器	圖版88-19
6	?	4	石	2.3×1.8×0.6	2.5	刮削器	圖版88-20
7	遺	—	石	5.1×1.2×0.6	2.7	刮削器	圖版88-21
8	遺	圓	石	2.4×1.2×0.7	6.3	刮削器	圖版88-22
9	遺	圓	石	3.5×1.7×0.6	4.0	刮削器	圖版88-23
10	遺	—	石	5.3×2.7×1.4	41.2	刮削器	圖版88-24

第27図 遺構外出土石器(1)



No.	出土位置	形 似	輪 刻	高×幅×厚(cm)	重 直(g)	石 材	圖 号
1	I-A.3, AK-25, 26	4	圓 款 石 鑿	4.6×2.7×0.8	8.8	鐵頭物	圖版69-25
2	I-A.1-34	4	圓 款 石 鑿	4.2×3.2×1.5	24.4	石英岩山前帶標記器	圖版69-26
3	1	4	圓 款 石 鑿	7.4×4.5×1.9	37.5	石英岩山前帶標記器	圖版69-27
4		高 標 圓 款 石 鑿		5.0×2.8×1.1	17.8	達爾瓦石	圖版69-28
5		高 標 圓 款 石 鑿		5.0×3.1×1.5	20.8	達爾瓦石	圖版69-29
6		高 標 圓 款 石 鑿		4.6×2.1×1.1	16.2	達爾瓦石	圖版69-30
7	1	4	スラッシュ	3.0×2.5×1.0	5.7	石英岩山前	圖版69-31
8	1	雙 標 スラッシュ		4.2×5.0×2.0	32.5	達爾瓦石	圖版69-32

第28圖 遺構外出土石器(2)



No.	出 土 作 品	原 位	類 别	長×闊×厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
1	石	面	刃	6.1×1.1×1.0	36.4	斑質頁岩	HEH60-33
2	石	—	刃	6.0×3.5×2.0	33.8	鐵狀頁岩	HEH60-34
3	石	面	刃	5.0×3.2×1.1	42.5	石英岩(含雲母片岩)	HEH60-34
4	石	面	刮 片	5.8×3.0×1.3	19.0	斑質頁岩	細刮削器 HEH60-35
5	T	4	刮 片	3.5×3.4×1.2	11.4	鐵狀頁岩	
6	I	4	磨 面 破 片	9.1×3.7×2.7	220.6	石英岩(含	HEH60-36

第29圖 遺構外出土石器(3)

〈I区5層〉

層中から遺物が出土している。土器片及び石器が出土している。土器片は全て摩小片であり、器形や文様が判別できる資料はないが、胎土中に植物繊維を多量に含んだものが大部分である。石器は346点出土している。そのうち69点は木根の搅乱及び倒木痕の5層レベルから出土したものである。ほぼ調査区の全域から出土しているが、特に調査区中央から北半部にかけて多く出土している。

層上面の傾斜は西部が高く、東に向かって徐々に低くなる緩い尾根状の傾斜を示しており、傾斜のより緩やかな部分に遺物は多く出土している。中でもAI-27・28、AF・AG-28・29、AF・AG-31・32、AD-31・32の4ヶ所のグリッド付近を中心に遺物が集中して出土する部分が認められる。

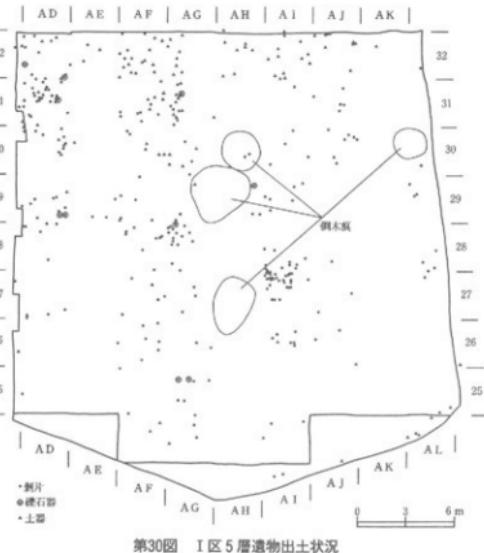
AI-27・28グリッドの遺物集中出土部分では、半径約2mの範囲内に39点の石器が出土している。全て剝片である（第36図8、第37図6、第38図1）。同一母岩と考えられる資料もみられ、中には折れた部分で接合する剝片もある（第37図6、第38図1）。

AF・AG-28・29グリッドの遺物集中出土部分では、半径約1.5mの範囲内に19点の石器が出土している。剝片石器18点と礫石器1点である。剝片石器は石核1点の他は全て剝片であり、同一母岩と考えられる資料もみられるが、接合関係はない。

AF・AG-31・32グリッドの遺物集中出土部分では、約6×4mの範囲内に土器が37点、石器が17点出土している。土器は全て摩小片であり、器形、文様の復元できるものはないが、胎土中に多量の植物繊維が含まれているものが多い。石器にはヘラ状石器が1点（第33図4）あり、その他は剝片である。同一母岩と考えられる資料はみられない。

AD-31・32グリッドの遺物集中部分では、約6×3mの範囲内に土器が12点、石器が42点出土している。遺物は調査区外の西側に広がっているものと考えられる。土器は全て摩小片であり、器形、文様の復元できるものはないが、胎土中に多量の植物繊維が含まれているものが多い。石器にはスクレイバー2点（図示は第35図3のみ）、礫石器2点（第41図3、4）があり、その他は剝片（図示は第37図4のみ）である。同一母岩と考えられる資料もあるが接合関係はない。

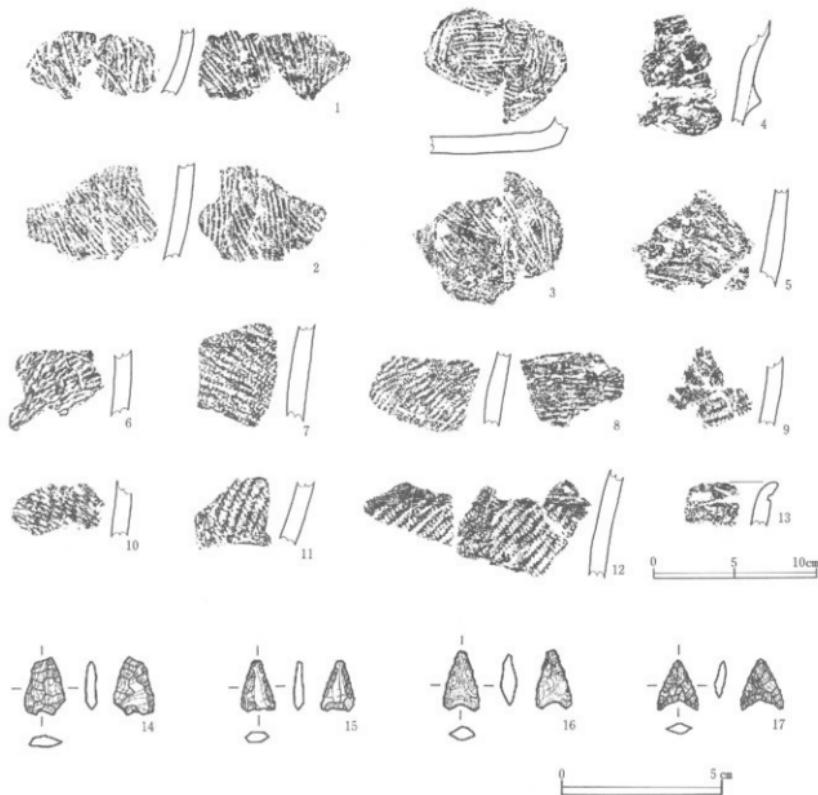
また、I区中央部AGラインに設けた幅1mの土層観察ベルトの28グリッド以北の5層土壤を水洗選別した結果、チップ及び剝片が検出された。



第30図 I区5層遺物出土状況



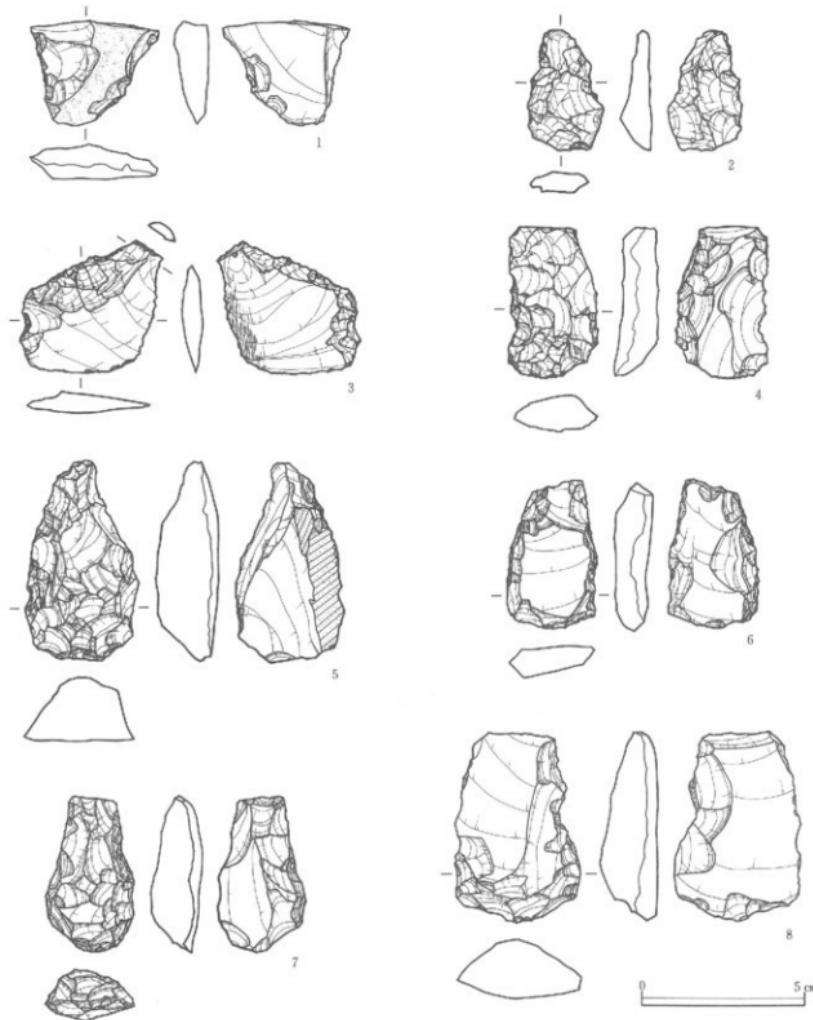
第31図 I区5層出土遺物(1)



No.	出土位置	層位	種別	外観	内観	備考
1	I-AF-31	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
2	I-AI-26	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
3	I-AI-26 I-AJ-26	5 5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
4	I-AD-31, 32	5 上	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
5	I-AP-32	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。火焔の跡が多い。
6	I-AG-25	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
7	I-AD-32	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
8	I-AD-31	5 上	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
9	I-AD-31	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
10	I-AD-31	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
11	I-AG-31	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。
12	II-AH-43	5	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。跡が多い。
13	I-AL-28	5 上	縫文土器	縫文	縫文	粘土中に植物繊維混入。跡が多い。

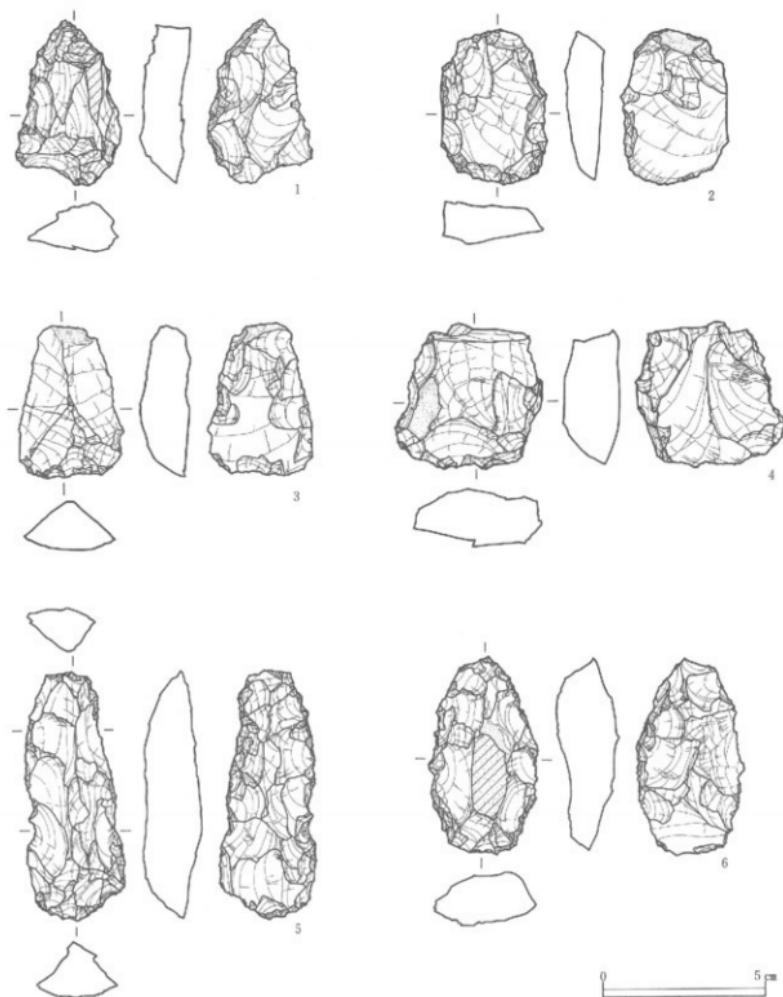
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	外観	備考
14	I-AI-21	5	縫	1.5×1.2×0.3	0.6	石英質の岩質細石器	II-28-27
15	I	5	縫	1.5×1.2×0.3	0.3	縫状岩	II-28-38
16	II	5	縫	1.5×1.2×0.5	0.4	縫状岩	II-28-39
17	II	5	縫	1.2×1.2×0.3	0.3	縫状岩	II-28-40

第32図 I区5層出土遺物(2)



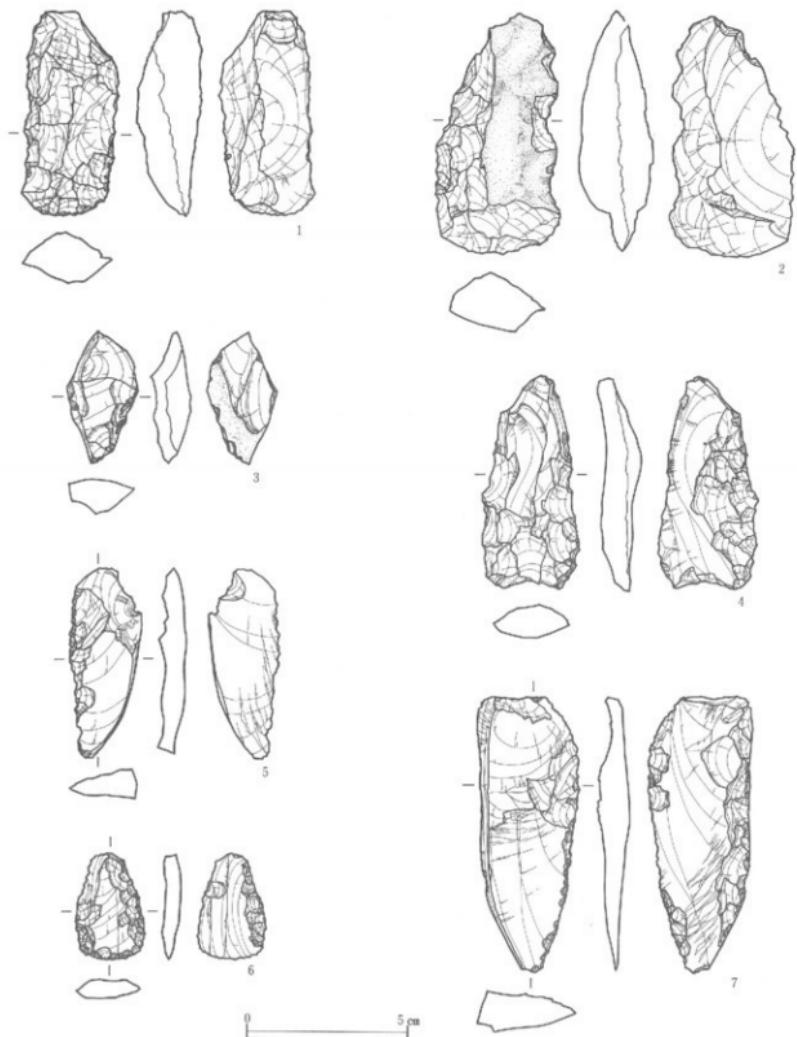
No.	出土位置	層位	種類	長×幅×厚(cm)	重量(g)	G	H	備考
1	I-AJ-28	5	尖頭器	3.2×3.9×1.0	11.6	直質尖頭		圖版II-41
2	I	5	尖頭器	3.4×2.3×0.9	4.7	石矛頭(?)直質尖頭器		圖版II-42
3	I	5	石刀	3.9×3.5×0.7	9.6	直質石刀		圖版II-43
4	I-AF-31	5	圓狀石器	4.6×2.4×1.1	17.4	直質圓狀		圖版II-44
5	I-AG-26	5	圓狀石器	6.1×3.3×1.9	37.4	達拉爾圓狀(?)直質圓狀		圖版II-1
6	I-AG-26	5	圓狀石器	4.5×2.2×1.1	16.4	達拉爾圓狀		圖版II-2
7	I-AG-(L.)	5	圓狀石器	4.9×2.7×1.4	17.4	圓狀器		
8	I-AL-29	5	圓狀石器	5.5×3.2×1.8	32.4	達拉爾圓狀(凸圓七合石)		圖版II-3

第33図 I区5層出土遺物(3)



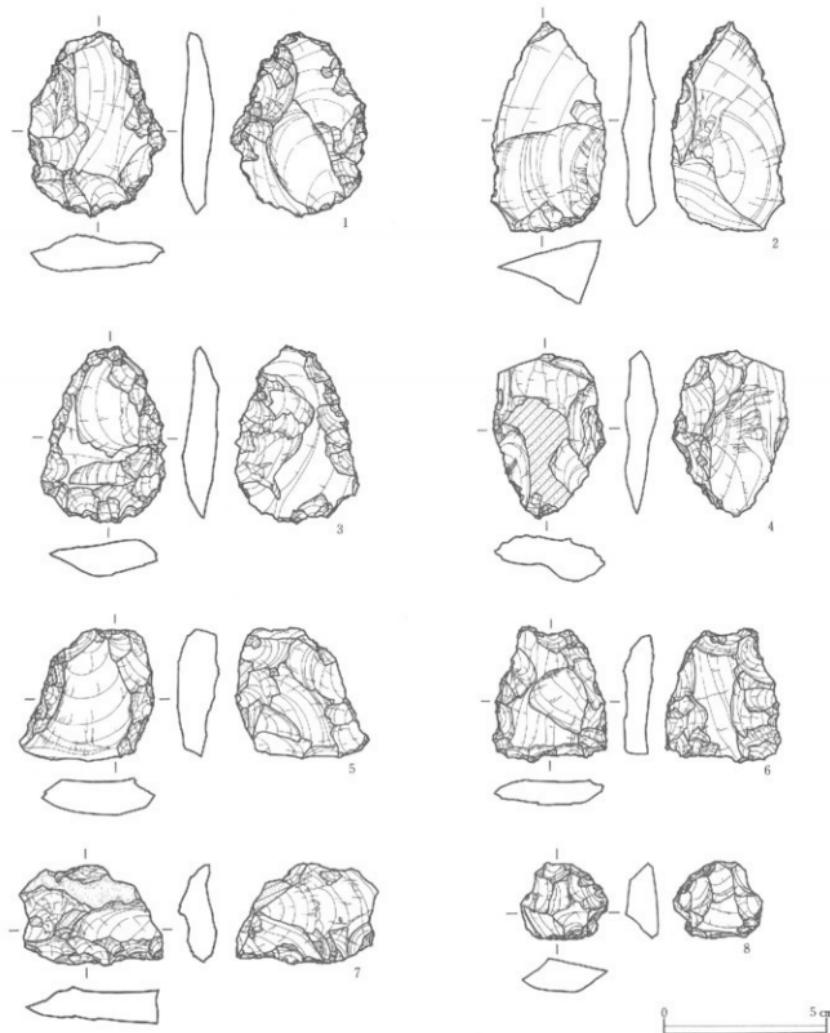
No.	出土位置	層位	種別	高×幅×厚(cm)	重量(g)	石種	備考
1	I	5	圓狀石器	6.9×5.1×1.1	22.2	後圓直柄	圖版III-4
2	I	5	圓狀石器	6.7×5.1×1.3	23.6	後圓直柄	圖版III-5
3	I	5	圓狀石器	6.7×5.7×1.3	26.4	後圓直柄	圖版III-6
4	I	5	圓狀石器	6.4×5.0×1.7	26.4	后圓直柄	圖版III-7
5	I	5	圓狀石器	7.8×5.9×1.7	37.8	後圓直柄	圖版III-8
6	I	5	圓狀石器	6.0×5.2×1.8	23.3	後圓直柄	圖版III-9

第34図 I区5層出土遺物(4)



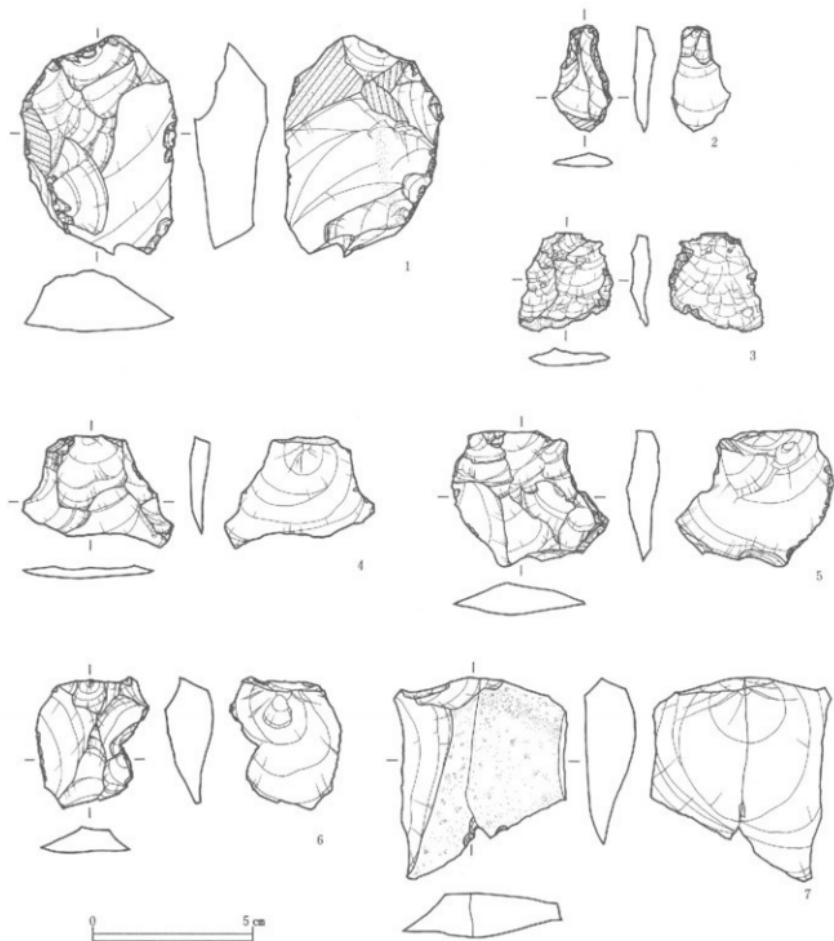
No.	出土位置	形状	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石種	備考
1	I-AD-30	圓・不規	尾状石器	6.2×2.7×1.8	32.2	燧化細火石(海螺合口)	IRB09-10
2	I-AG-21	圓・不規	尾状石器	7.3×3.7×1.8	46.0	燧化細火石	IRB09-11
3	I-AD-32	?	アメシット	4.0×2.1×1.0	6.6	燧化細火石	IRB09-12
4	I-AJ-31	?	アメシット	5.3×2.9×0.9	18.4	燧化岩	IRB09-13
5	I-AI-26	?	アメシット	5.0×2.1×0.9	13.8	特異質物	IRB09-14
6	I	?	アメシット	3.2×2.1×0.6	4.2	特異質物	IRB09-15
7	I	?	アメシット	8.4×2.0×1.2	29.2	特殊工具	IRB09-16

第35図 I区5層出土遺物(5)



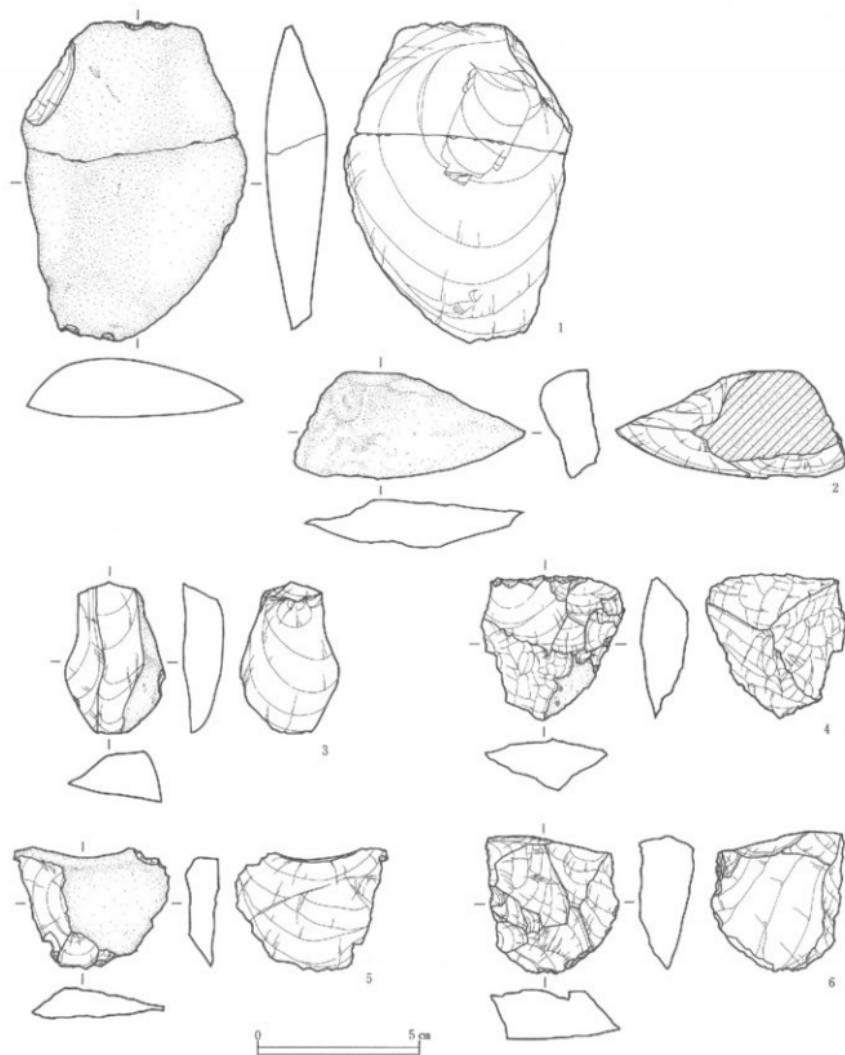
No.	出土位置	層位	形質	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石器	圖考	
1		3	△ P.V.-P.V-	5.6×4.0×1.1	23.0	刮削器	HE09-17	
2	1	3	△ P.V.-P.V-	4.6×3.5×1.9	25.0	退化雕刻器(ややへう化腐心)	HE09-18	
3	1	3	△ P.V.-P.V-	5.6×3.7×1.0	19.2	刮削器	HE09-19	
4	1	3	△ P.V.-P.V-	4.9×3.2×1.3	17.0	刮削器	HE09-20	
5	8	3	△ P.V.-P.V-	4.9×3.5×1.2	13.2	刮削器	HE09-21	
6	1	3	△ P.V.-P.V-	6.1×3.4×0.8	12.8	刮削器	HE09-22	
7	1-A J-38	5	上	二尖刃-刮削	3.0×3.2×1.1	15.0	退化雕刻器	HE09-23
8	1-B J-38	3	二尖刃-刮削	2.3×2.1×0.9	7.0	刮削器	HE09-24	

第36図 I区5層出土遺物(6)



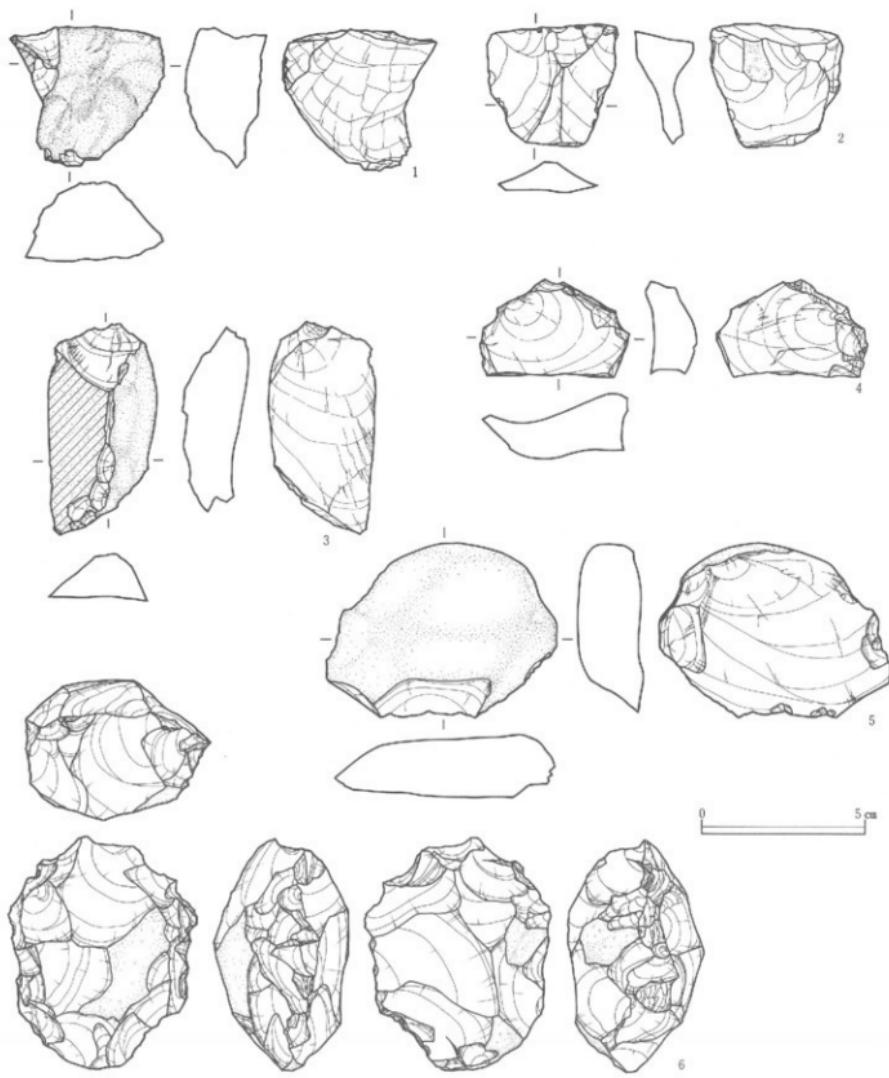
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1 I-AJ-28		3	二次加工刮削	5.7×4.2×2.1	56.0	綠色輝葉岩	
2 I-AJ-24		3	二次加工刮削	3.2×1.8×0.5	2.2	綠色輝葉岩	
3 I		3	二次加工刮削	2.3×2.6×0.6	3.9	綠色輝葉岩	圖版II-24
4 I-AD-32		3	刮削器	3.4×4.0×0.5	6.2	綠色輝葉岩	帶鋒利斷面刃
5 I-AJ-30		3	刮削器	6.1×4.2×0.9	15.8	綠色輝葉岩	帶鋒利斷面刃
6 I		3	刮削器	6.0×5.3×1.2	12.6	綠色輝葉岩	帶鋒利斷面刃
7 I-AJ-26		3	刮削器	5.7×5.1×1.2	36.8	綠色輝葉岩	複合質料

第37図 I区5層出土遺物(7)



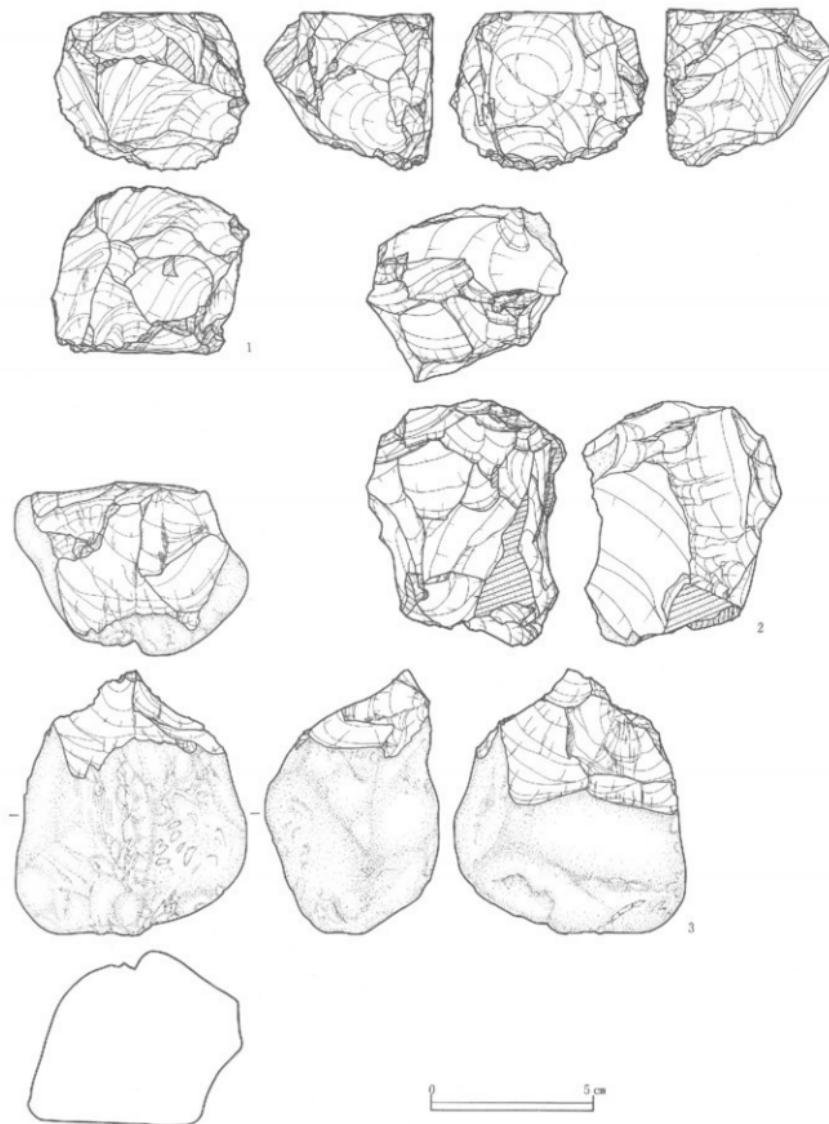
No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	形狀	說明
1	I-A I-27.28	3	圓	片	3.8×6.6×1.8	189.7	橢圓形 磨光面
2	I-AL-23	3	圓	片	3.2×5.7×1.5	31.8	橢圓形 磨光面
3	I-AJ-20	3	圓	片	4.6×3.0×1.4	17.2	橢圓形 磨光面
4	I-AK-33	3	圓	片	4.1×3.5×1.6	22.8	石英岩的岩質細長
5	I-AL-24	3	圓	片	3.4×4.3×1.6	16.2	橢圓形 磨光面
6	I	3	圓	片	4.2×3.9×1.6	24.8	石英岩的岩質細長

第38図 I区5層出土遺物(6)



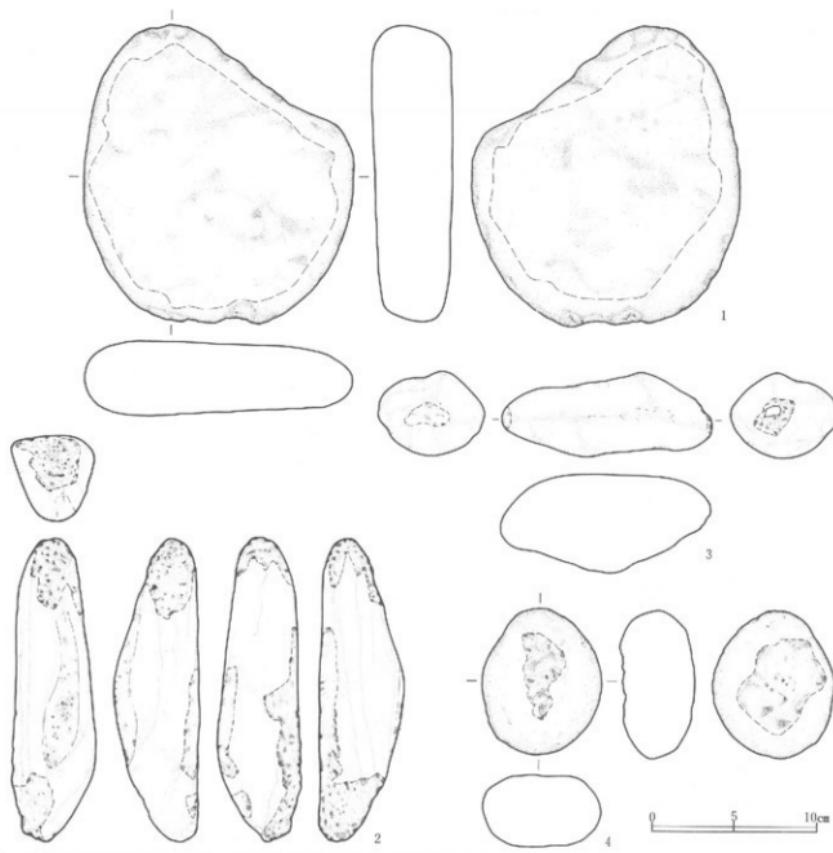
No.	出土位置	層位	類別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石種	備考
1	I	3	刮 片	4.3×4.4×2.3	44.8	右衛門山石質圓底石器	
2	I	5	刮 片	3.7×3.9×1.7	19.1	細凹刃	
3	I	5	刮 片	5.0×3.2×2.0	46.2	細凹刃	
4	I-A J-31	圓 底 石 器	刮 片	2.9×4.4×1.7	23.2	細凹刃	
5	I	圓 底 石 器	刮 片	5.3×6.6×2.1	87.0	細凹刃	
6	I	圓 底 石 器	刮 片	7.2×5.7×4.2	168.0	細凹刃	圖版9-28

第39図 I区5層出土遺物(9)



編	出土地點	種類	性質	長×幅×厚(cm)	重量(g)	目	備考
1	I	S	石	4.8×3.7×5.0	174.5	ノック	図版69-29
2	I-AL-02	S	石	7.5×6.0×4.0	235.7	礫石器	図版69-31
3	I-AJ-27	S	石	8.1×6.9×5.4	305.4	圓錐形器	図版69-30

第40図 I区5層出土遺物10



第41図 1区5層出土遺物①

〈I区6層〉

層上面及び層中から遺物が出土している。石器が125点出土している。そのうち18点は木根の攪乱や倒木痕跡の6層レベルから出土したものである。石器は調査区の中央から北半部にかけて多く出土している。

層の傾斜は北西部が最も高く、東側に徐々に下がっている。石器は傾斜がとくに緩くなっている部分に多く出土している。中でもAF・AG-28・29、AI-24・25、AI-27・28、AJ-30の4ヶ所のグリッドを中心とした4ヶ所に遺物が集中して出土する部分が認められる。

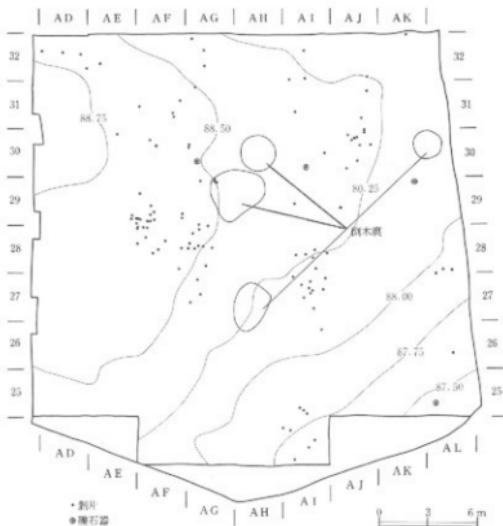
AF・AG-28・29グリッドの遺物集中出土部分では、約8×5mの範囲内に39点の石器が出土している。石器はヘラ状石器1点（第43図3）、ナイフ形石器1点（同2）の他は全て剥片である。剥片には接合関係はないが、同一母岩と考えられる資料がいくつかみられる。石材は流紋岩である。

AI-24・25グリッドの遺物集中出土部分では、約4×2mの範囲内に8点の石器が出土している。全て剥片であり、同一母岩と考えられる資料はみられない。

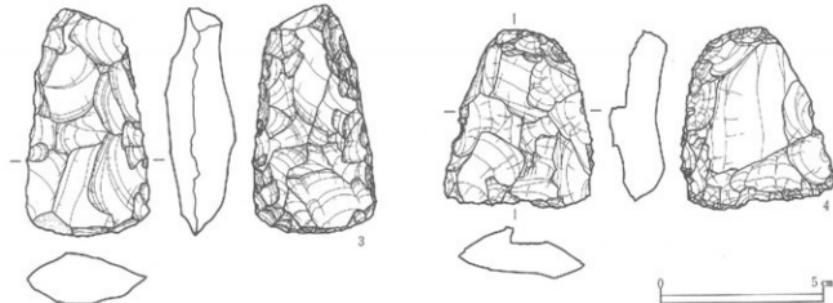
AI-27・28グリッドの遺物集中出土部分では、約4.5×2.5mの範囲内に15点の石器が出土している。全て剥片であり、接合関係はないが、同一母岩と考えられる資料もみられる。

AJ-30グリッドを中心とした遺物集中出土部分では、約3×3mの範囲内に12点の石器が出土している。全て剥片である。微細剝離痕の認められるものがあり、同一母岩と考えられる資料もみられる。

AGラインのベルトの北半部及びAD-32グリッドの6層の土壌を水洗選別した結果、チップ及び剥片が検出された。



第42図 I区6層石器出土状況



No.	出土位置	操作	形状	高×幅×厚(cm)	重量(g)	目 標	備 考
1	I-AD-28	6	石 砕	1.5×1.3×0.5	0.5	微細剝離痕(角鋸刃付)	図版7-1
2	I-AE-29	6	ナ イ フ	2.9×2.8×0.6	2.4	微細剝離痕	図版7-3
3	I-AG-29	6	ヘ ラ 石 砕	0.9×3.7×1.9	49.6	微細剝離痕	図版7-4
4	I	6	石 砕	5.3×4.4×1.5	35.2	無	

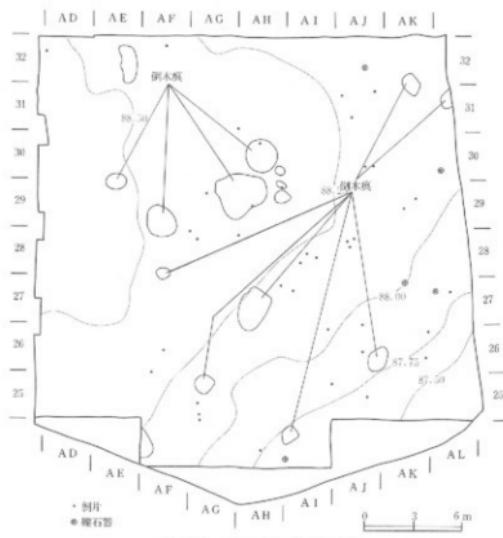
第43図 I区6層出土石器

I区7層

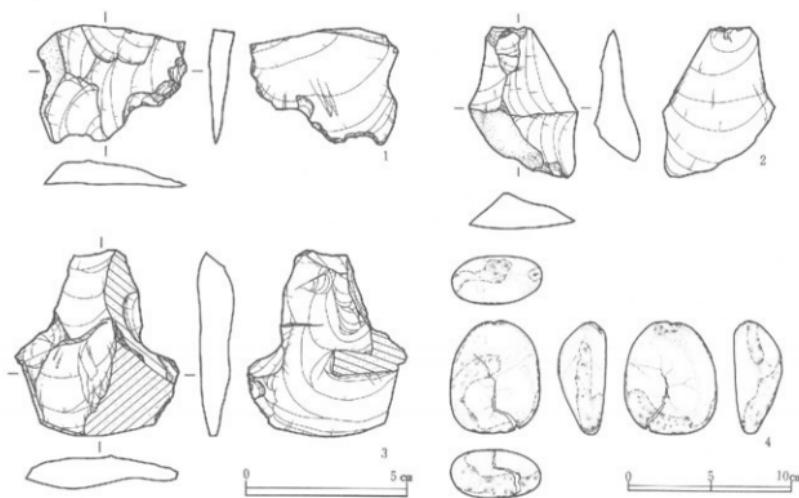
層上面及び層中から遺物が出土している。石器が42点出土している。そのうち4点は木根の搅乱や倒木痕中の7層レベルから出土したものである。石器は調査区の東半部に多く出土している。

層の傾斜は西側が最も高く、南東に向かって徐々に低くなっているが、上位の層よりさらに傾斜は緩くなっている。より傾斜の緩い平場状の部分に石器の出土は多くなっている。中ではAG-24・25、AI-28グリッドで3点ずつ近接して出土している部分はあるが、集中して出土している部分ではなく、全体に散在している状況である。石器は剝片石器37点と礫石器5点あり、剝片石器は全て剝片で二次加工の認められるものもある。

AGラインのベルトの北半部及びAJ-29、AK-27グリッドの7層の土壤を水洗選別した結果、若干のチップが検出された。



第44図 I区7層石器出土状況



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(㎝)	重量(g)	石器名	備考
1	I-AH-01	T	二次加工剝片	3.6×4.5×0.8	11.2	剝片	
2	I-AI-28	T	剥片	4.2×2.4×1.1	12.2	剝片	
3	I-AJ-28	T	剥片	5.7×4.9×1.1	24.2	磁化測定値 (ややへき化進む)	
4	I-AJ-22	T	磨石器	70×5.3×2.9	155.4	瓦形研磨器	測定No. 2

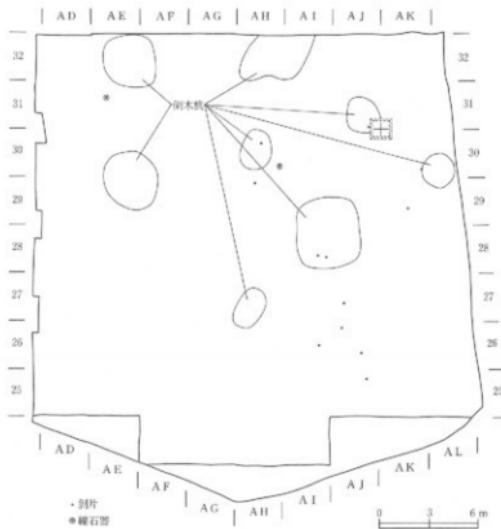
第45図 I区7層出土石器

〈I区8層〉

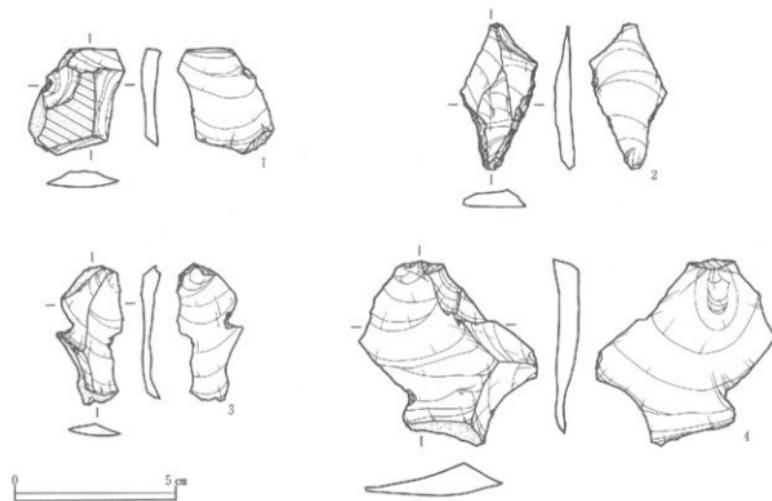
層中から遺物が出土している。石器が14点出土している。そのうち3点は木根の搅乱及び倒木痕中の8層レベルから出土したものである。

層の傾斜は上層と同様に西側から南東方向に徐々に下がっており、層の傾斜に沿って石器が出土している。石器は調査区中に散在しており、まとまった出土状況はみられない。石器は剝片石器13点、礫石器1点である。剝片石器は全て剝片である。微細剝離痕が観察されるものがあるが、同一母岩のものはみられない。

AGラインのベルト北半部の8層の土壤を水洗選別した結果、チップが検出された。AI・AJ-28グリッドの土壤水洗も行ない、チップ・剝片が若干検出されているが、倒木痕にかかるており、8層以外のものが混在しているものと考えられる。

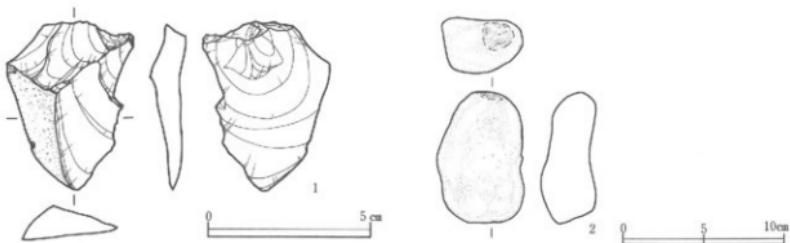


第46図 I区8層石器出土状況



%	出土地點	層位	種別	長×幅×厚(㎜)	重量(g)	石 材	備 考
1	I-AH-30	8	圓 木 痕	片	3.2×2.8×0.7	4.6	進化鍛灰岩
2	I-AI-29	圓 木 痕	テ イ ブ	4.9×2.1×0.6	4.3	玄武岩	第8層上部地層の倒木痕中の16層レベル 図版70-3
3	I-AI-28	圓 木 痕	圓 片	4.2×2.0×0.6	2.9	進化鍛灰岩	第8層上部地層の倒木痕中の15層レベル
4	I-AI-28	圓 木 痕	剝 片	5.7×3.4×1.3	21.4	礫石器	第8層上部地層の倒木痕中の15層レベル

第47図 I区8層出土石器(1)



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石	備考
1	I-A-E-28	岡木鉢	剝片	5.2×3.5×1.1	18.2	砂質頁岩	第8層上面明出の倒木鉢中の11個削片
2	I-A-E-31	8	礫石器	8.1×5.4×3.4	185.4	石英安山岩	磨・擦毛

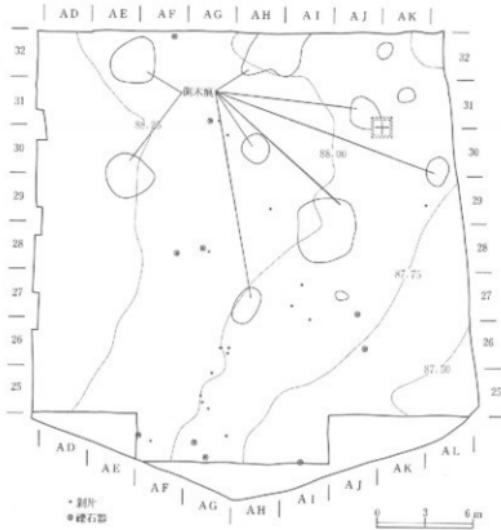
第48図 I区8層出土石器(2)

〈I区9層〉

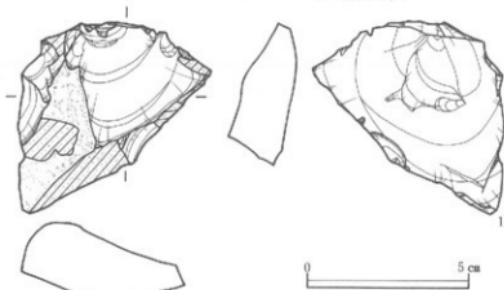
層中から遺物が出土している。石器が27点出土している。そのうち木根の搅乱の9層レベルから2点出土している。

層の傾斜は、西側が高く東に向かって徐々に低くなり、南東側への傾斜がやや急になっている。傾斜の最も緩い部分から南東側がやや急になる変換部を中心にして石器が出土しており、調査区中央部に多い。出土状況はAG-25、26、30、31グリッドで各々3点ずつ近接して出土しているが、集中して出土している部分ではなく、全体に散在している状況である。石器は16点の剝片石器と11点の礫石器がある。剝片石器は全て剝片で二次加工の認められるものもある。礫石器は表面が摩滅しているが、敲打痕及び磨面の認められるものがある。

AG-25グリッドの9層の土壤を水洗したが、チップ、剝片はほとんど検出されなかった。AI-28・29グリッドの土壤水洗選別を行ない、チップ、剝片が若干検出されているが、倒木鉢にかかっており、9層以外のものが混在しているものと思われる。

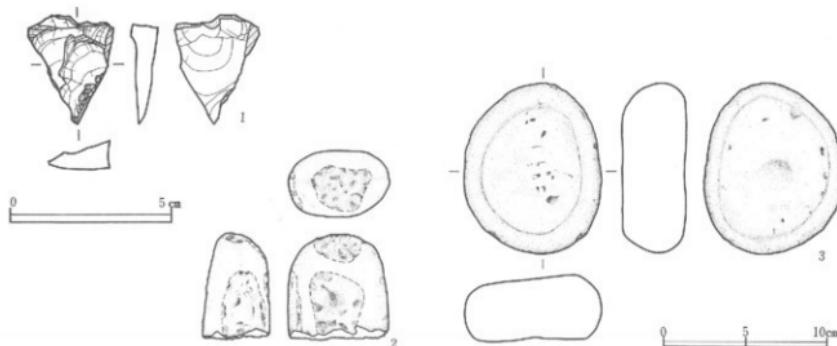


第49図 I区9層石器出土状況



No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石	備考
1	I-AG-25	9	剝片	5.9×5.8×2.1	57.0	砂質頁岩	

第50図 I区9層出土石器(1)



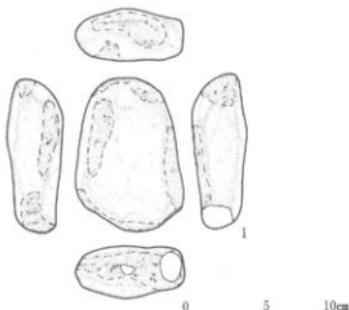
第51図 I区9層出土石器(2)

〈I区10層〉

層上面から遺物が出土している。石器が45点出土している。

層の傾斜は西側が最も高く、南東隅に向かって徐々に下がっている。石器はやや傾斜が急になる傾斜の変換部近く、調査区の南部に集中して出土している。石器は剝片石器が33点、礫石器が12点出土している。剝片石器は全て剝片である。礫石器は摩滅が著しいが敲打痕がみられる。

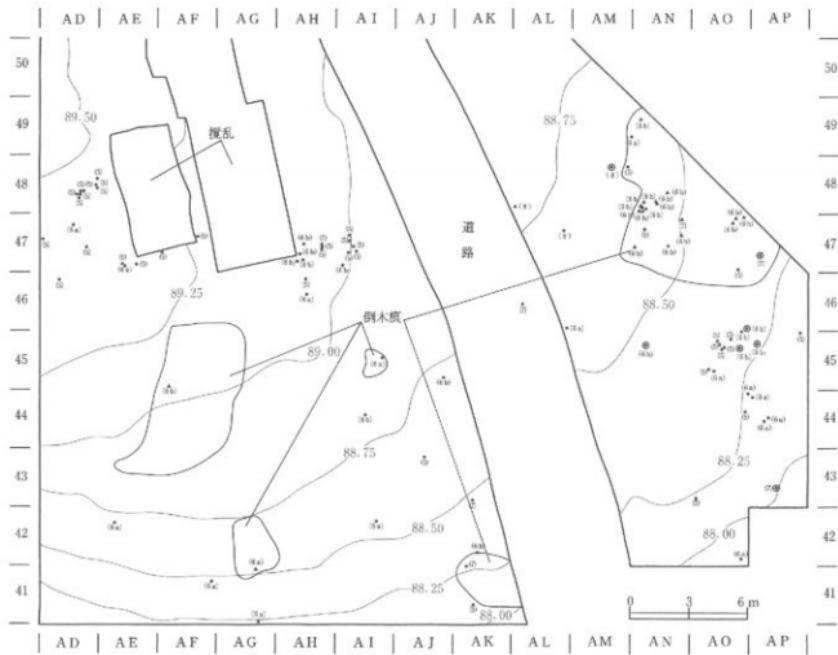
また、上層（8層）で検出された倒木痕中の10層レベル以下で29点の石器が出土している。剝片石器26点、礫石器3点である。剝片石器はナイフ形石器1点（第47図-2）の他は全て剝片である。これらは8層の遺物の頃に示した。



第52図 I区10層石器出土状況

%	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石 片	備考	
1	I-AE-31	10	礫 G	9.6×6.1×3.1	236.4	石質表面	削-削痕、鉋面	出雲70-10

第53図 I区10層出土石器



第54図 III・N区遺物出土状況 () 内は層位

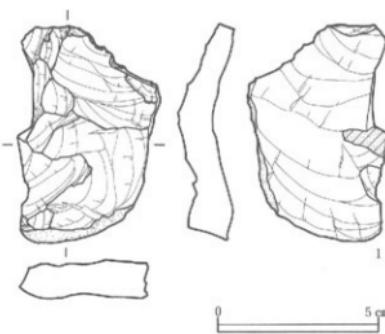
〈III区5層〉

層中から遺物が出土している。石器が12点出土している。

そのうち5点は倒木痕、木根跡の5層レベルから出土したものである。石器は調査区の南東寄りに多く出土している。

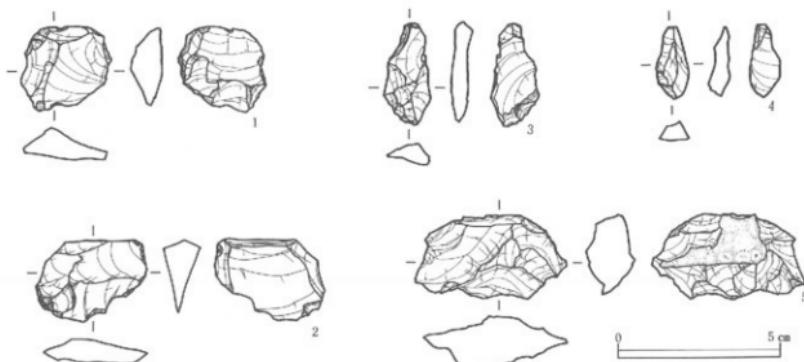
層の傾斜は北西部が最も高く、南東側に徐々に下がっており、南端近くで傾斜がやや急になっている。その傾斜の変換部分を中心に石器が出土している。出土状況はAO-45グリッドで集中して出土する部分が認められるが、他は調査区の南半部に散在している状況である。

AO-45グリッドの遺物集中出土部分では約1×1mの範囲内に5点の石器が出土している。うち2点は木根跡からの出土であるが、5点とも同一母岩のものと考えられ、本来5層中のものであると考えられる。全て剣片である。



No.	出 土 位 置	層 位	種 别	大きさ×厚さ(cm)	重 量(g)	石 器	圖 号
1	B-AO-45	3	ハサレ・ソル	6.8×4.6×1.4	33.4	石剣突起部	図版70-11

第55図 III区5層出土石器(1)

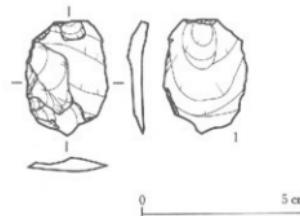


第56図 Ⅲ区5層出土石器(2)

〈Ⅲ区の6a層〉

層上面及び層中から遺物が出土している。石器が8点出土している。そのうち4点は倒木痕、木根跡の6a層レベルから出土したものである。

層の傾斜は北西部が最も高く、南東側に徐々に下がっているが、上層よりやや傾斜が緩やかである。遺物は調査区の南部に散在しており、集中して出土する部分は認められない。石器は全て剝片であるが、同一母岩と考えられるものはない。

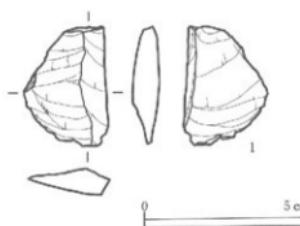


第57図 Ⅲ区6a層出土石器

〈Ⅲ区6b層〉

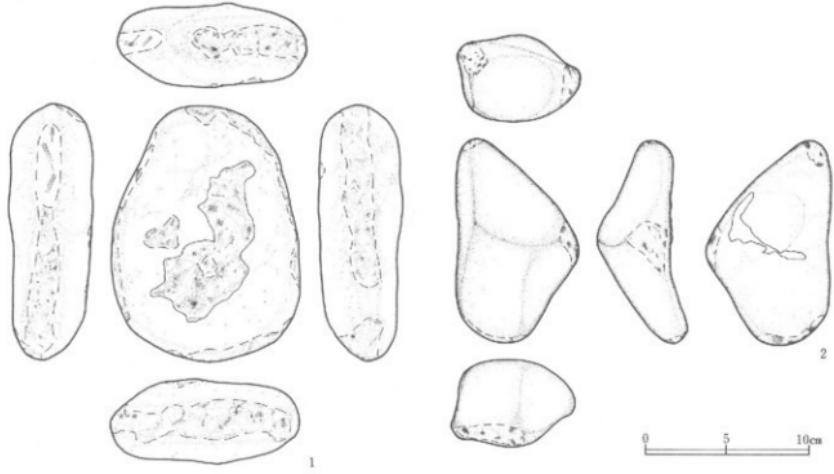
層中から遺物が出土している。石器が7点、土器が14点出土している。そのうち石器5点と全ての土器は、倒木痕、木根跡の6b層レベルから出土したものである。土器は全て胎土中に植物纖維を含んでいるが、器形、文様等が判明するようなものはみられない。石器は剝片石器が3点、礫石器が4点である。剝片石器は全て剝片であり、同一母岩と考えられるものはない。礫石器には磨面及び敲打痕が認められる。

AO-45グリッドの6b層の土壤を水洗したが、剝片が1点検出されたのみである。



第58図 Ⅲ区6b層出土石器(1)

No.	出土位置	種類	形状	高×幅×厚(cm)	重量(g)	石 片	備 考
1	III-AO-05	倒木痕	剝片	2.5×2.5×0.5	5.1	石夷安山岩質地灰岩	



第59図 III区 5b層出土石器(2)

〈IV区 5層〉

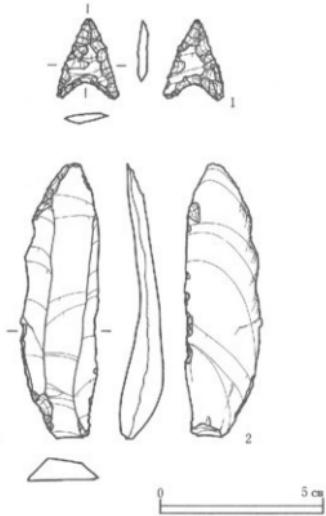
層中より遺物が出土している。石器が32点出土している。

層の傾斜は西側が高く、南東及び南側に徐々に下がっており、斜面上部の傾斜が緩やかで、等高線が南北方向から東西方向に変わる部分を中心に石器が出土している。出土状況はAD-48、AH・AI-47グリッドで集中して出土する部分が認められるが、その他のものは2ヶ所の遺物集中部の間に散在している状況である。

AD-48グリッドの遺物集中部分では、約 1.5×0.5 mの範囲内に8点の石器が出土している。石器には彫刻刀形石器2点、スクレーパー4点、ノッチ1点、剝片1点があり、全て珪質頁岩である。

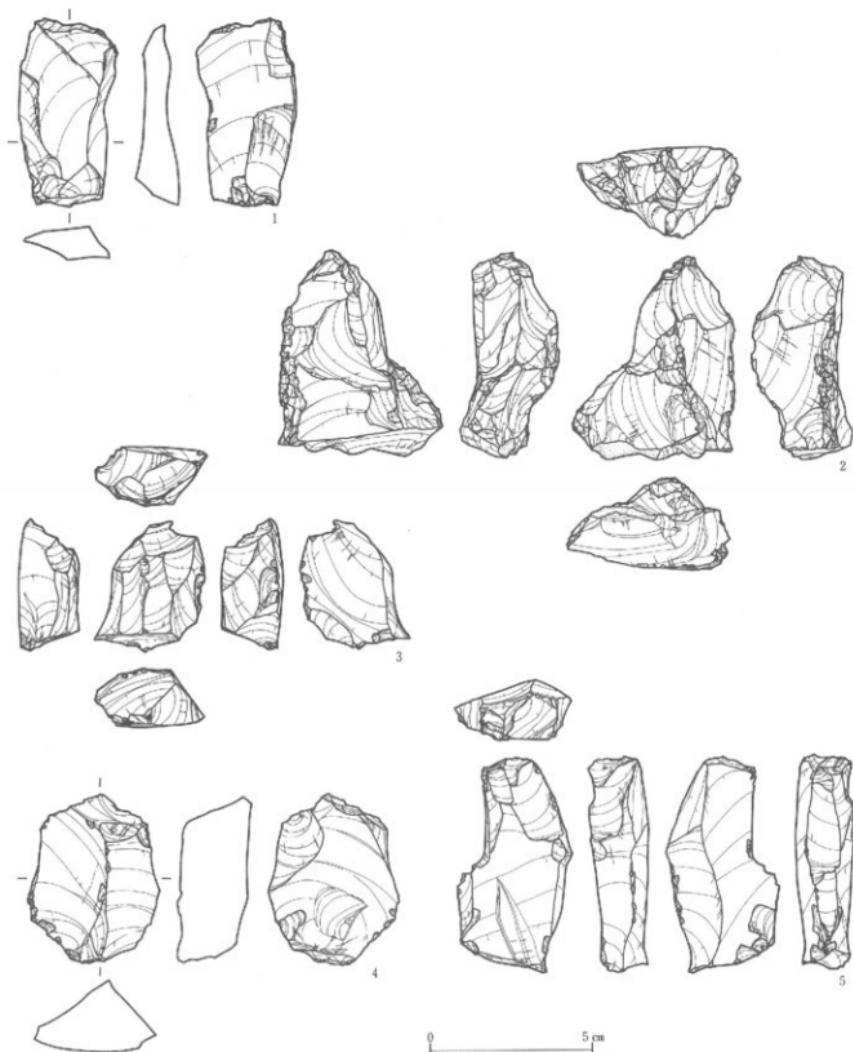
AH・AI-47グリッドの遺物集中部分では、約 2×1 mの範囲内に8点の石器が出土している。石器には彫刻刀形石器2点、スクレーパー1点、彫刻刀スボール1点、剝片2点、チップ2点があり、剝片1点が玉髓である他は全て珪質頁岩である。

47ラインを中心にして石器が出土した付近の土壠を水洗選別した結果、チップ、剝片が検出された。



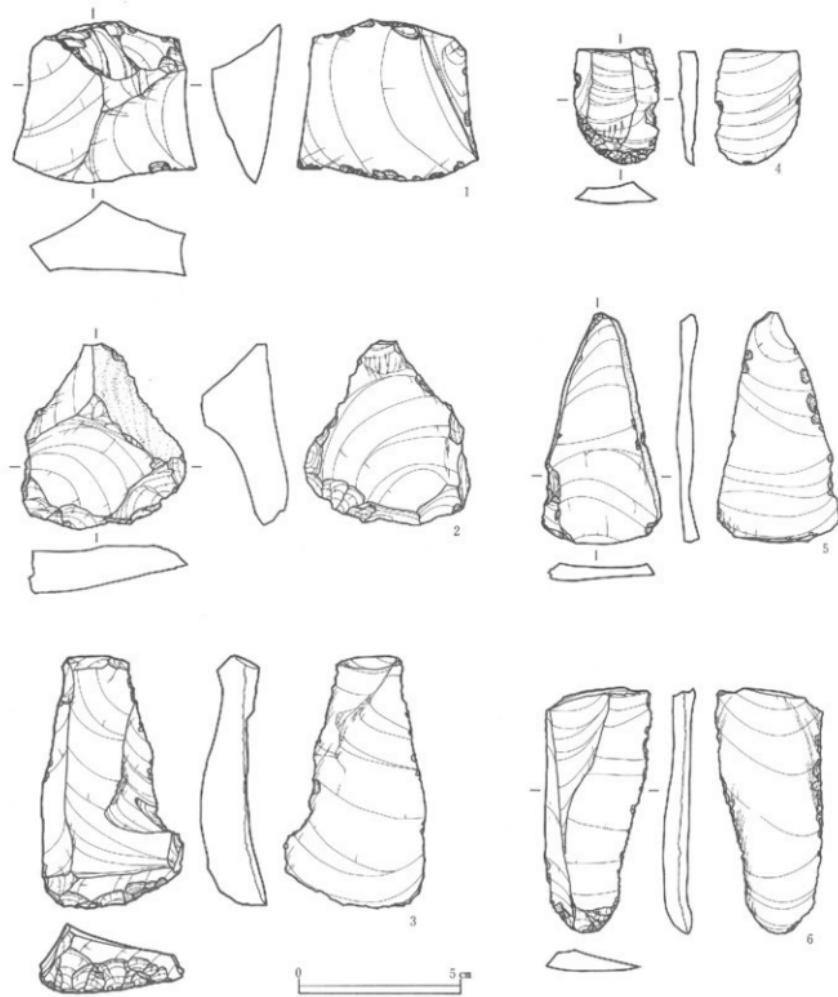
第60図 IV区 5層出土石器

No.	出土位置	層位	種別	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石器	備考
1	E-AD-51	5 上	石 剥	1.9×1.6×0.3	6.9	珪質頁岩	四面打
2	E-AI-47	5 ティフ	石 剥	8.3×2.2×0.9	15.4	珪質頁岩	四面打



No.	出土地點	形 似	規 標	長×闊×厚(cm)	重 量(g)	石 材	圖 形
1	Y-AD-46	5	刮 刀	5.7×2.9×1.3	29.0	泥質頁岩	圖版70-18
2	Y-AD-46	5	刮 刀	6.0×4.8×1.5	43.0	泥質頁岩	圖版70-17
3	Y-AD-46	5	刮 刀	3.7×2.8×1.7	26.2	泥質頁岩	圖版70-18
4	Y-AB-47	5	刮 刀	5.1×3.8×2.1	38.6	泥質頁岩	圖版70-19
5	Y-AB-47	5	刮 刀	6.2×3.2×1.7	38.8	泥質頁岩	圖版70-20

第61図 N区5層出土石器(2)



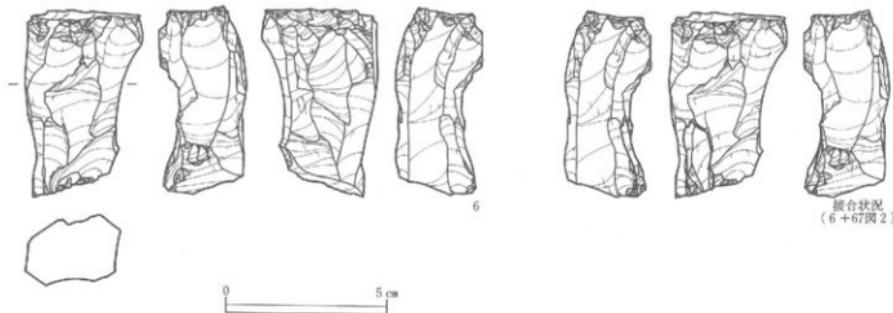
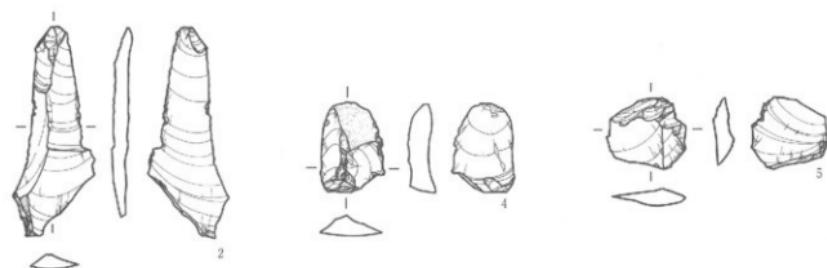
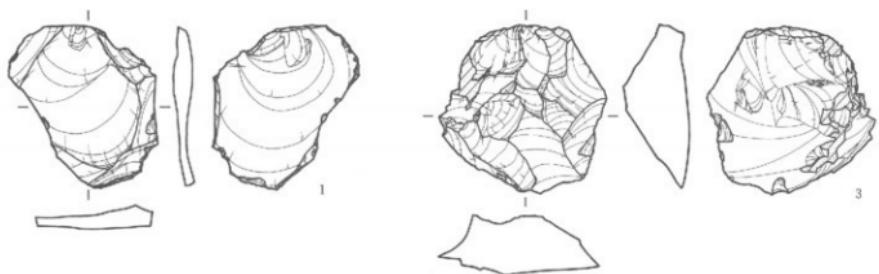
第62図 N区5層出土石器(3)

No.	出土地點	層位	種別	高×幅×厚[cm]	重量[g]	石材	備考
1	F-AD-47	5	上	5.0×5.5×2.2	32.5	板面磨擦	四輪29-21
2	F-AD-45	5		5.0×4.8×2.1	41.2	塊狀物	四輪29-23
3	F-AD-48	5		7.8×4.2×1.8	42.4	块面磨擦	四輪29-24
4	F-AF-47	5		3.5×2.0×0.8	6.2	块面磨擦	四輪29-22
5	F-AH-47	5		7.1×3.0×0.7	15.8	块面磨擦	四輪29-25
6	F-AD-48	5		7.4×3.2×0.7	17.6	块面磨擦	四輪29-26



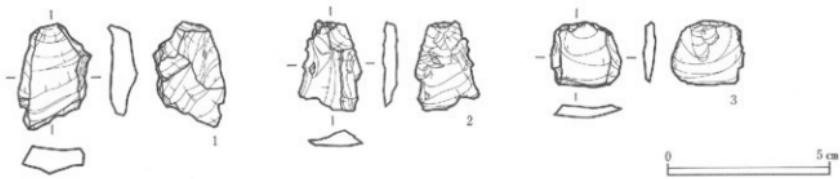
第63図 N区5層出土石器(4)

No.	出土地點	標 仁	種 别	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石 斧	備 考
1	N-AD-45	5	△・△・△・△	7.9×3.3×1.8	44.4	他質石	図版79-27
2	N-AD-47	5	▲・△・△・△	3.3×0.7×0.1	0.8	他質石	図版79-29
3	N-AD-47	5	△・△・△	5.7×4.6×1.9	42.0	他質石	図版79-30
4	N-AD-48	5	△・△・△	3.2×3.4×1.3	22.8	他質石	図版79-28
5	N-AD-48	3	△△△	9.6×3.3×1.0	36.3	他質石	図版79-21



No.	出土位置	器物	断面	高×幅×厚(cm)	重量(g)	石种	特征	
1	N-AD-48	3	刮	片	5.0×4.5×0.7	12.7	细圆刃石	细圆刃石刮削器
2	N-AD-46	3	刮	片	6.0×2.1×0.5	5.0	细圆刃石	细圆刃石刮削器
3	N-AH-47	3	刮	片	5.1×3.0×1.9	42.6	尖端	
4	N-AE-47	5	刮	片	2.7×1.9×0.8	3.4	扁圆石	
5	N-AH-46	5	刮	片	2.2×2.3×0.6	2.6	细圆刃石	
6	N-AF-47	5	刮	片	5.5×3.5×2.3	54.0	细圆刃石	67图2上磨合
							图64-5+67图2	

第64图 N区5层出土石器(5)



No.	出 土 位 置	層 位	種 别	高×幅×厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
1	Ⅳ-AF-41	倒木痕	片	2.8×2.1×0.8	4.4	山青岩(山葉樹灰岩)	
2	Ⅳ-AK-42	倒木痕	片	2.6×1.7×0.5	1.9	淡化樹灰岩(ややへき玉化進む)	
3	Ⅳ-AK-43	倒木痕	片	2.6×2.1×0.5	1.7	淡化樹灰岩	

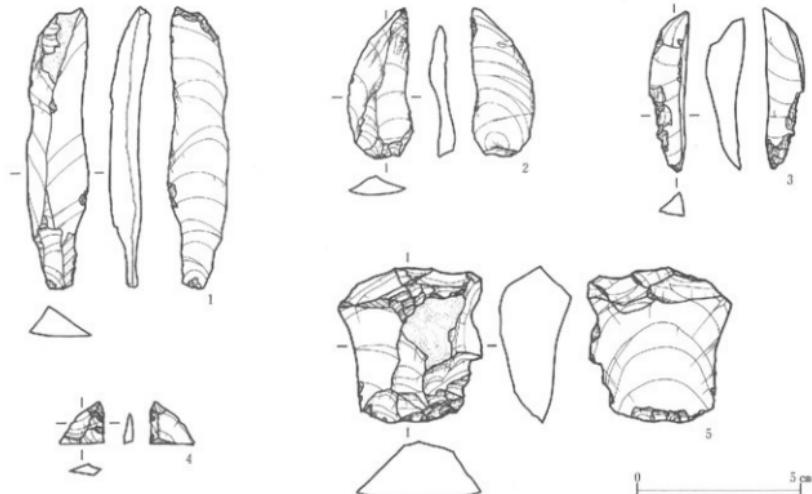
第65図 N区5層倒木痕出土石器

〈Ⅳ区6a層〉

層中から遺物が出土している。土器が7点、石器が8点出土しているが、土器7点は倒木痕の6a層レベルから出土したものである。

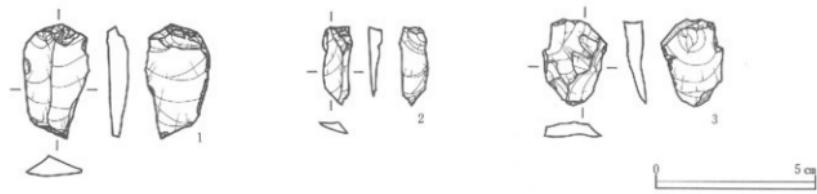
層の傾斜は西側が最も高く、南東から南側に徐々に下がっている。石器は調査区内に散在しておりまとまった出土状況はみられない。石器にはナイフ形石器2点、彫刻刀スパール1点、尖頭器1点、剝片4点があり、剝片には二次加工の認められるもの、5層出土の石核と接合するものがある。

47ラインを中心に石器が出土した付近の土壤を水洗選別した結果、チップ・剝が検出された。



No.	出 土 位 置	層 位	種 別	高×幅×厚(cm)	重 量(g)	石 材	備 考
1	Ⅳ-AH-48	6	テイフ	8.4×1.8×0.9	12.4	薄葉石灰岩	Ⅳ層70-37
2	Ⅳ-AD-44	6	テイフ	4.5×1.9×0.5	4.1	薄葉石灰岩	Ⅳ層70-38
3	Ⅳ-AI-45	6	テイフスパール	4.7×1.1×1.2	5.4	薄葉石灰岩	Ⅳ層70-39
4	Ⅳ-AK-42	6	テイフ	1.2×1.3×0.3	0.3	淡化樹灰岩(白色化、擦耗)	Ⅳ層70-40
5	Ⅳ-AG-41	6	テイフスパール	4.8×4.5×2.1	37.5	山青岩(山葉樹灰岩)	Ⅳ層70-42

第66図 N 6a層出土石器(1)



No.	出土位置	層位	傾斜	高×幅×厚(cm)	重量(g)	石器	備考	
1	N-AH-47	6	a	4.7	3.3×2.0×0.4	3.6	遺物瓦砾	四面削離皮有り
2	N-AE-47	6	a	4.7	2.5×0.8×0.4	0.6	遺物瓦砾	4面削離皮結合
3	N-AJ-47	6	a	4.7	2.3×1.4×0.6	2.4	瓦砾	

第67図 N区6.a層出土石器(2)

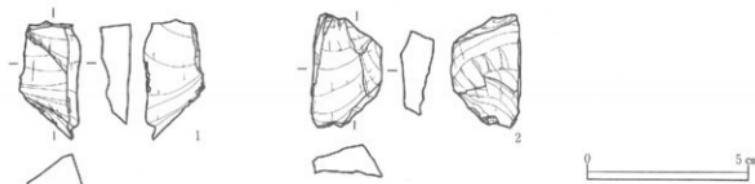
< N区 6.b 層 >

層中から遺物が出土している。土器2点、石器9点出土しているが、土器2点と石器2点は倒木痕の6.b層レベルから出土したものである。

層の傾斜は上層と同様に西側が最も高く、南東から南側に向かって徐々に下がっており、特に南側の傾斜が急になっている。石器は調査区の南東側の緩斜面から出土しており、傾斜の最も緩い部分、AH-47グリッドに集中して出土する部分が認められる。その他は南東斜面に散在している状況である。

AH-47グリッドの遺物集中出土部分では、約1×0.4mの範囲内に並ぶように4点、さらに約2m離れて1点の石器が出土している。石器は全て剝片及びチップである。その他の石器は剝片及び礫石器である。

AH-47・48グリッドを中心として石器が出土した付近の土壤を水洗した結果、チップ、剝片が検出された。



No.	出土位置	層位	傾斜	高×幅×厚(cm)	重量(g)	石器	備考
1	N-AI-47	6	b	3.5×1.7×1.1	6.6	遺物瓦砾	
2	N-AI-48	6	b	4.7	2.5×2.1×0.9	6.3	瓦砾(?)瓦砾離皮有り

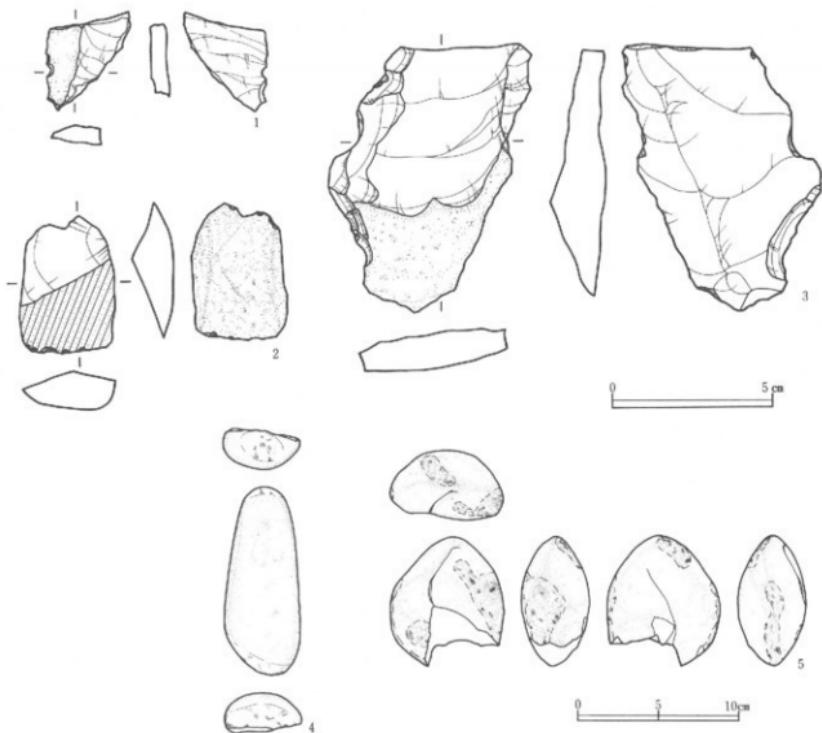
第68図 N区6.b層出土石器

< III・N区 7～8層 >

7層では、III区で土器1点、石器2点、N区では7層の下部から石器3点が出土している。8層ではIII区で石器が3点出土している。以下の層では遺物は出土していない。III区の7層出土の土器と石器の各1点は、倒木痕の7層レベルで出土したものである。

7・8層ともに西側から南東および南側に向かって徐々に下っており、南側がやや急傾斜で南東側は緩やかな傾斜になっている。石器は傾斜の緩やかな部分に散在している。

7層の石器はIII区が礫石器、N区が剝片石器、8層の石器は剝片石器1点、礫石器1点である。剝片石器は全て剝片であり、礫石器には敲打痕が認められる。



第69図 Ⅲ、N区7～8層出土石器

第1表 土壌水洗により検出したチップ数

位 置	幅值	数据: 均值 ± 标准差					百分比 (%)	
		3cm内圆	5cm外圆	1cm内圆	1cm外圆	4-5cm上部		
A区	△+0.1 高度	5.0	39.1	137.7	1.3	62.0	± 5.0	15.4 ± 2.2
	△+0.1 宽度	6.0	14.1	30.0	± 0.7	28.0	± 1.2	23.4 ± 6.6
	△+0.1 厚度	6.0	15.0 ± 0.3	39.0 ± 0.5	29.0 ± 1.6	6.0 ± 0.9	3.0 ± 0.0	
B区	△+0.1 高度	7.0	2.0 ± 0.1	5.0 ± 0.1	6.0 ± 0.2	0.0 ± 0.1		
	△+0.1 宽度	7.0	1.0 ± 0.1	2.0 ± 0.1	2.0 ± 0.2	0.0 ± 0.1		
	△+0.1 厚度	8.0	5.0 ± 0.4	37.0 ± 0.7	45.0 ± 2.0	3.0 ± 0.5		
C区	△+0.1 高度	8.0	2.0 ± 0.1	2.0 ± 0.1	1.0 ± 0.0	0.0 ± 0.0	1 ± 0.4	
	△+0.1 宽度	8.0	0.0 ± 0.05	34.0 ± 0.1	7.0 ± 0.3	0.0 ± 0.0	1 ± 1.2	
	△+0.1 厚度	9.0	17.0 ± 1.0	50.0 ± 0.6	26.0 ± 1.9	3.0 ± 0.2	3.0 ± 16.0	
D区	△+0.1 高度	9.0	3.0 ± 0.5	3.0 ± 0.5	1.0 ± 0.3	0.0 ± 0.0		
	△+0.1 宽度	9.0	0.0 ± 0.0	0.0 ± 0.0	0.0 ± 0.0	0.0 ± 0.0		

位置		部位	数量·重量(g)				
层区	AN-45		3mm以下	5mm以下	1cm以下	1cm以上	剩余
		砂土					1~12.4

位 置	单位	数据 (毫米)					数 量
		2米间距	5米间距	10米间距	1米间隔	斜率	
AB-47-45	5	3 + 0.05	20 + 0.7	10 + 1.5	2 + 1.1		
AD-AB-40(-4)	5		4 + 0.05	2 + 0.2	2 + 0.4	1 + 0.5	
AD-AB-47-45	5		3 + 0.05	2 + 0.6	1 + 0.3		
AB-40(-4)	5		13 + 0.2			1 + 0.2	
AH-47	5	1 + 0.01	11 + 0.7	11 + 0.5	1 + 0.2	4 + 1.7	
AH-47-AB-40(-4)	5	1 + 0.01	10 + 0.2	8 + 0.2	4 + 0.4	2 + 1.8	
AH-47-45	5	20 + 0.1	40 + 0.4	8 + 0.4			
AC-47-45BC	5m	12 + 0.05	19 + 0.2	6 + 0.4	1 + 0.5	1 + 0.1	
AD-47	5m	2 + 0.01	7 + 0.1	6 + 0.3	1 + 0.1		
AD-AB-40(-4)	5m	10 + 0.03	21 + 0.3	12 + 0.3			
AB-47-45	5m		1 + 0.01	2 + 0.1	1 + 0.3		
AB-40(-4)	5m	2 + 0.01	5 + 0.01				
AH-46(-5)	5m	1 + 0.01	5 + 0.1	2 + 0.1			
AB-47-45(-4)	5m	1 + 0.01	18 + 0.01	14 + 0.6	2 + 2.6		
AH-47-45	5m	9 + 0.05	19 + 0.25	2 + 0.1			
AD-AB-47-45	5m	10 + 0.05	45 + 0.9	45 + 0.7	4 + 1.6	1 + 0.3	
AH-46(-5)	5m		11 + 0.1	1 + 0.01	2 + 0.3		
AH-46-47	5m	1 + 0.01	2 + 0.11			3 + 0.1	
AH-47-45	5m	2 + 0.01	20 + 0.7	20 + 1.6	1 + 0.8		

第2表 出土剝片数 () =例木真・木柾真より出土した点数

Item #	QTY	UOM	Description	Unit Price	Ext. Price	Line Total
7	1	EA				1
8	1	EA				1
9	1	EA				1
10	1	EA				1
11	1	EA				1
12	1	EA				1
13	1	EA				1
14	1	EA				1
15	1	EA				1
16	1	EA				1
17	1	EA				1
18	1	EA				1
19	1	EA				1
20	1	EA				1
21	1	EA				1
22	1	EA				1
23	1	EA				1
24	1	EA				1
25	1	EA				1
26	1	EA				1
27	1	EA				1
28	1	EA				1
29	1	EA				1
30	1	EA				1
31	1	EA				1
32	1	EA				1
33	1	EA				1
34	1	EA				1
35	1	EA				1
36	1	EA				1
37	1	EA				1
38	1	EA				1
39	1	EA				1
40	1	EA				1
41	1	EA				1
42	1	EA				1
43	1	EA				1
44	1	EA				1
45	1	EA				1
46	1	EA				1
47	1	EA				1
48	1	EA				1
49	1	EA				1
50	1	EA				1
51	1	EA				1
52	1	EA				1
53	1	EA				1
54	1	EA				1
55	1	EA				1
56	1	EA				1
57	1	EA				1
58	1	EA				1
59	1	EA				1
60	1	EA				1
61	1	EA				1
62	1	EA				1
63	1	EA				1
64	1	EA				1
65	1	EA				1
66	1	EA				1
67	1	EA				1
68	1	EA				1
69	1	EA				1
70	1	EA				1
71	1	EA				1
72	1	EA				1
73	1	EA				1
74	1	EA				1
75	1	EA				1
76	1	EA				1
77	1	EA				1
78	1	EA				1
79	1	EA				1
80	1	EA				1
81	1	EA				1
82	1	EA				1
83	1	EA				1
84	1	EA				1
85	1	EA				1
86	1	EA				1
87	1	EA				1
88	1	EA				1
89	1	EA				1
90	1	EA				1
91	1	EA				1
92	1	EA				1
93	1	EA				1
94	1	EA				1
95	1	EA				1
96	1	EA				1
97	1	EA				1
98	1	EA				1
99	1	EA				1
100	1	EA				1
101	1	EA				1
102	1	EA				1
103	1	EA				1
104	1	EA				1
105	1	EA				1
106	1	EA				1
107	1	EA				1
108	1	EA				1
109	1	EA				1
110	1	EA				1
111	1	EA				1
112	1	EA				1
113	1	EA				1
114	1	EA				1
115	1	EA				1
116	1	EA				1
117	1	EA				1
118	1	EA				1
119	1	EA				1
120	1	EA				1
121	1	EA				1
122	1	EA				1
123	1	EA				1
124	1	EA				1
125	1	EA				1
126	1	EA				1
127	1	EA				1
128	1	EA				1
129	1	EA				1
130	1	EA				1
131	1	EA				1
132	1	EA				1
133	1	EA				1
134	1	EA				1
135	1	EA				1
136	1	EA				1
137	1	EA				1
138	1	EA				1
139	1	EA				1
140	1	EA				1
141	1	EA				1
142	1	EA				1
143	1	EA				1
144	1	EA				1
145	1	EA				1
146	1	EA				1
147	1	EA				1
148	1	EA				1
149	1	EA				1
150	1	EA				1
151	1	EA				1
152	1	EA				1
153	1	EA				1
154	1	EA				1
155	1	EA				1
156	1	EA				1
157	1	EA				1
158	1	EA				1
159	1	EA				1
160	1	EA				1
161	1	EA				1
162	1	EA				1
163	1	EA				1
164	1	EA				1
165	1	EA				1
166	1	EA				1
167	1	EA				1
168	1	EA				1
169	1	EA				1
170	1	EA				1
171	1	EA				1
172	1	EA				1
173	1	EA				1
174	1	EA				1
175	1	EA				1
176	1	EA				1
177	1	EA				1
178	1	EA				1
179	1	EA				1
180	1	EA				1
181	1	EA				1
182	1	EA				1
183	1	EA				1
184	1	EA				1
185	1	EA				1
186	1	EA				1
187	1	EA				1
188	1	EA				1
189	1	EA				1
190	1	EA				1
191	1	EA				1
192	1	EA				1
193	1	EA				1
194	1	EA				1
195	1	EA				1
196	1	EA				1
197	1	EA				1
198	1	EA				1
199	1	EA				1
200	1	EA				1
201	1	EA				1
202	1	EA				1
203	1	EA				1
204	1	EA				1
205	1	EA				1
206	1	EA				1
207	1	EA				1
208	1	EA				1
209	1	EA				1
210	1	EA				1
211	1	EA				1
212	1	EA				1
213	1	EA				1
214	1	EA				1
215	1	EA				1
216	1	EA				1
217	1	EA				1
218	1	EA				1
219	1	EA				1
220	1	EA				1
221	1	EA				1
222	1	EA				1
223	1	EA				1
224	1	EA				1
225	1	EA				1
226	1	EA				1
227	1	EA				1
228	1	EA				1
229	1	EA				1
230	1	EA				1
231	1	EA				1
232	1	EA				1
233	1	EA				1
234	1	EA				1
235	1	EA				1
236	1	EA				1
237	1	EA				1
238	1	EA				1
239	1	EA				1
240	1	EA				1
241	1	EA				1
242	1	EA				1
243	1	EA				1
244	1	EA				1
245	1	EA				1
246	1	EA				1
247	1	EA				1
248	1	EA				1
249	1	EA				1
250	1	EA				1
251	1	EA				1
252	1	EA				1
253	1	EA				1
254	1	EA				1
255	1	EA				1
256	1	EA				1
257	1	EA				1
258	1	EA				1
259	1	EA				1
260	1	EA				1
261	1	EA				1
262	1	EA				1
263	1	EA				1
264	1	EA				1
265	1	EA				1
266	1	EA				1
267	1	EA				1
268	1	EA				1
269	1	EA				1
270	1	EA				1
271	1	EA				1
272	1	EA				1
273	1	EA				1
274	1	EA				1
275	1	EA				1
276	1	EA				1
277	1	EA				1
278	1	EA				1
279	1	EA				1
280	1	EA				1
281	1	EA				1
282	1	EA				1
283	1	EA				1
284	1	EA				1
285	1	EA				1
286	1	EA				1
287	1	EA				1
288	1	EA				1
289	1	EA				1
290	1	EA				1
291	1	EA				1
292	1	EA				1
293	1	EA				1
294	1	EA				1
295	1	EA				1
296	1					

函数名		1	+	+
3 - x				
4 - x			1	
3 - x		2	1	1
2 - x	0	3	4	1
1 - x				
6 - 11sin2x	2	3	4	5
	6	7	8	9
	10	11	12	13

Score	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
4 +	9 (2)	1 (1)	2 (2)										
3 +	4 (0)	4 (2)	2 (1)										
2 +	2 (0)	4 (0)	3 (2)										
1 +													
Total	100 (30)	22	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

主な用語	2	3 (1)	3
2 ×	1	1 (1)	2
1 ×		1	
△			

第3表 石器の石材 (一) 二層中の% 同本源山土の物を除く

VII. まとめ

1. 古代の遺構と遺物について

古代の遺構として堅穴住居跡1軒が検出された。出土した古代の土器は土師器杯、甕、須恵器杯がある。土師器はいずれも成形に際してロクロを使用しているものである。土師器杯は底部を欠いており、底部の切離し技法は不明である。内面にミガキ及び黒色処理が施されている。甕は長胴形のもので外面の体部下半にケズリが施されている。これらは表形ノ入式（氏家：1957）に属するものと考えられ、平安時代のものと考えられる。須恵器杯は底部の切り離し技法が回転ヘラ切りで、切り離し後の調整は見られない。土師器と同様の年代が考えられる。堅穴住居跡は遺構の遺存状況が悪く、カマドは遺存せず、周溝、柱穴、その他の施設についても不明であるが、遺物の年代から平安時代のものであると考えられる。

2. 繩文時代の遺構と遺物について

縩文時代の遺構として堅穴住居跡2軒、土坑31基が検出された。出土した縩文時代の遺物は、土器と石器である。土器については大部分が胎土中に植物纖維を含んだものである。全て破片であり、全体の器形を復元できる資料はない。文様については、土器の内・外面に貝殻条痕文が施されたもの、外面に縩文、内面に貝殻条痕文が施文されたもの、内・外面に縩文が施文されたもの、外面に縩文のみが施文されたものなどがある。なかには体部の中央に刻目文あるいは貝殻頂部を押圧した隆線文や隆帯が巡っているもの、細い粘土紐を貼り付けた隆線文によって幾何学的な文様を描き、内部に短い沈線文や刺突文が施文されたものや、外面の体部に縩文、口縁部近くに貝殻条痕文、内面の体部に貝殻条痕文、口縁部近くに縩文が施文され、縩文が付けられた隆線文が巡るものなどがある。また、外面に縩文のみが施され、内面に条痕文が見られないものについては、羽状縩文がほとんど見られず、斜行縩文のものが大部分である。これらの土器の出土状況は遺構内堆積土中及び基本層各層中から混在して出土しており、層位的に一括性や規則性はみられなかった。以上のことから胎土中に植物纖維を含んだ土器については所謂条痕文土器及び縩文条痕土器が中心となっていると考えられ、柴田町上川名貝塚の下層（加藤：1951）や小牛田町素山貝塚の上層（伊東：1940）から出土した土器に類似しているもの、石巻市梨木畑貝塚（林：1964）、七ヶ宿町小栗川遺跡（真山他：1987）、塩釜市船入島貝塚の下層（加藤：1954）から出土した土器に類似したもの認められ、早期後葉から末葉にかけてのものであると考えられる。この中には外面、内面ともに貝殻条痕文が認められないものがあり、それについては若干時期が新しくなることも考えられるが、羽状縩文がほとんど見られず、貝殻条痕文が施文されていなかったものかどうかは不明であり、縩文条痕土器の盛行以前のものか以降のものは層位的な関係からも明らかにはできず、前期初頭まで時期の下るもの混在していることも考えられる。

堅穴住居跡は遺存状況が悪く、柱穴、炉、その他の施設についても不明であるが、出土した土器が胎土中に植物纖維を含むもののみであることから、早期後葉から前期初頭のものであると考えられる。土坑については平面形が長方形及び隅丸長方形、梢円形のものと長梢円形の所謂葉巻形のものが認められる。前者には底面にピットが認められるものがある。また、長梢円形のものには両端部がオーバーハング状になっているものがある。これらの土坑は、形態から陥穴、落し穴と呼称されている遺構であると考えられる。配置関係は等高線に対して平行なものが多く、特に緩やかな尾根状になっている部分に多くなっており、長梢円形のものは全てこの部分に配置されていたことが考えられるが、茂庭けんとう城（金森：1990）のような2個で1対をなして配置するような例はみられなかった。また、長梢円形のSK 5と長方形のSK 2が重複関係にあり、SK 2がSK 5を切っていることからSK 2が新しいことが分かるが、その他のものは長梢円形のものとそれ以外のものの時期的な関係は不明である。遺構の性格から遺物を出土した土坑は少なく、遺物の量も少ないため詳細は不明であるが、出土した土器には胎土中に植物纖維を含んだ早期後半～前期初頭と考えられるものが多い。中には後期前半と考えられる土器を出土するものもある。このことから土坑の時期は早期後半から前期初頭を中心として後期にかけてのものがあると考えられる。

3. 旧石器時代の遺構と遺物について

旧石器時代の遺物包含層がI区及びIII・IV区で検出された。I区では第6層から第10層上面までの5枚が遺物包含層である。III区では第5層から第8層までの5枚が遺物包含層であり、IV区では第5層から第7層までの4枚が遺物包含層となっている。I区の第5層においても旧石器時代に属すると考えられる石器が出土しているが、同層中より縄文時代に属すると考えられる土器や石器が混在して出土しており、純粹な旧石器時代の遺物包含層ではなく、二次的な包含層であると考えられる。IV区の第7層の上部（7a層）は「川崎スコリア層」を含む固結部に相当するものと考えられ、I・III区の第7層には、同様のスコリアが含まれている。このことからI区の第7～10層上面及びIII・IV区の第7・8層は、約3万年前の年代を示すスコリア層より下位の層序を示し、前期旧石器時代のものであると考えられる。

後期旧石器時代の石器については、I・III区から出土した石器は、剝片石器と礫石器がある。剝片石器は大部分が剝片であり、Toolはほとんど見られない。同一の石材、同一母岩と考えられる剝片が多い。特にI区では石核も出土しており、接合関係もみられることから石器の製作に関係する場所であったことが推定される。それに対してIV区の場合は第5層においてナイフ形石器、スクレーパー、彫刻刀形石器、ノッチ、尖頭器などのToolが多い。石材については、第3表に掲げたとおりである。I・III区では凝灰岩、石英安山岩質凝灰岩、珪化凝灰岩が多く、頁岩、珪質頁岩は極く少ないという比率を示すが、IV区では多くが珪質頁岩であり、その他の石材は少ないという比率を示している。これはToolの数の違いによるところが大きいものと考えられる。頁岩は山形方面から持ち込まれたものであると考えられる。その他の石材については地元で産する石材が多く、特にI区では多くの石核、剝片が凝灰岩、石英安山岩質凝灰岩、珪化凝灰岩である。礫石器には端部や側面に敲打痕や磨痕が認められるものがある。

前期旧石器時代の石器についても同様に剝片石器と礫石器があるが、剝片石器は大部分が剝片であり、ToolはI区の第8層で検出された倒木痕中より出土したベン先形ナイフ等があるのみである。石材については凝灰岩、珪化凝灰岩が多い。石器の組成については出土数が少なく、規則性、まとまりも見られず詳細は不明である。また、IV区の第7層上面で溝状の土坑が1基検出されたが、人工的なものか、自然營力によるものかは不明である。

今回の報告では検出遺構と出土遺物の掲載のみで、個々の遺物の分析、検討については十分に行はれなかった。多量の剝片資料、接合資料などの詳細な分析と検討、石材の産地の特定などによって遺跡の性格や位置付けが明確になるものと思われる。

引用・参考文献

- 荒井 格他（1985）：「山田上ノ台遺跡－昭和59年度発掘調査報告書－」『仙台市文化財調査報告書第77集』仙台市教育委員会
氏家 和典（1957）：「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史第14輯』東北史学会
加藤 孝（1951）：「宮城県上川名貝塚の研究」『宮城学院女子大学研究論文集』宮城学院女子大学
金森 安孝他（1990）：「茂庭けんとう城・東館跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第137集』仙台市教育委員会
菅原 弘樹（1988）：「西前・町田遺跡－国道286号線（茂庭工区）道路改良工事関係報告書－」『宮城県文化財調査報告書第128集』宮城県教育委員会
柳沢みどり他（1981）：「山田上ノ台遺跡－発掘調査概報－」『仙台市文化財調査報告書第30集』
山内 清男（1929）：「関東北に於ける織維土器」『史前学雑第1卷2号』史前学会

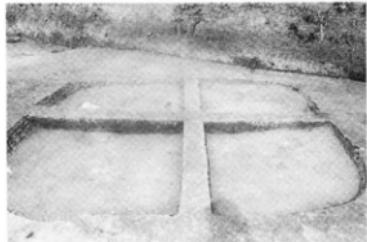
写 真 図 版



図版1 遺跡全景（上空南より）



図版2 段状部分（南東より）



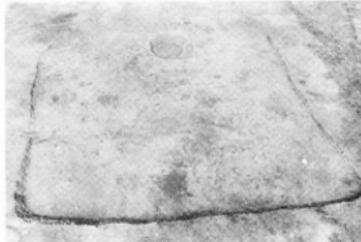
図版3 SI-1 住居跡土層断面（西より）



図版4 SI-1 住居跡（南東より）



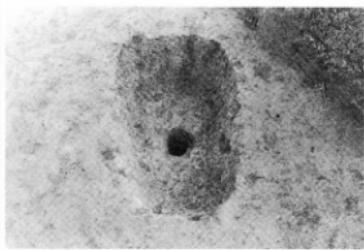
図版5 SI-2 住居跡（北西より）



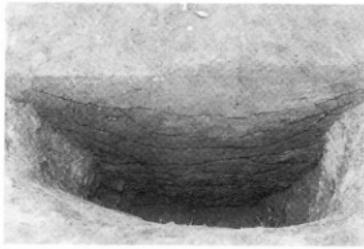
図版6 SI-3 住居跡（西より）



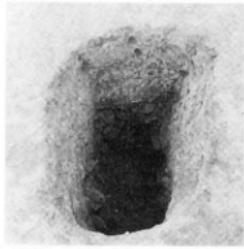
図版7 SI-3 住居跡ピット1（西より）



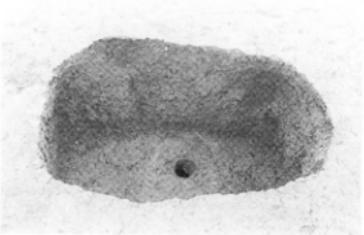
図版8 SK-1土坑（北東より）



図版9 SK-2土坑土層断面（南西より）



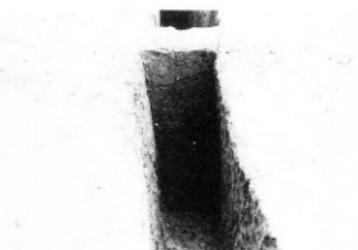
図版10 SK-2土坑（北西より）



図版11 SK-3土坑（東より）



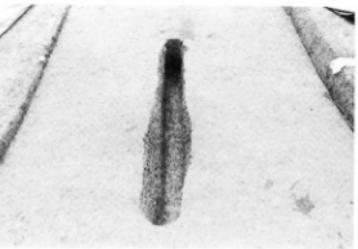
図版12 SK-5土坑（南東より）



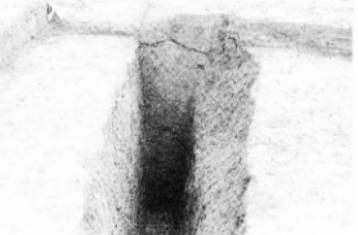
図版13 SK-8土坑土層断面（北より）



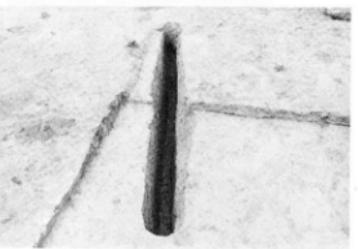
図版14 SK-8土坑（北より）



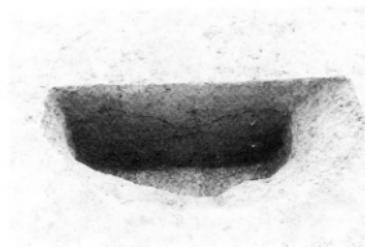
図版15 SK-9土坑（北より）



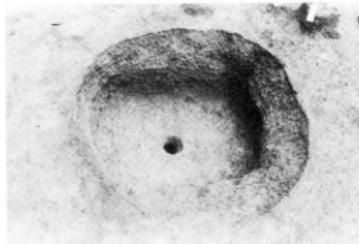
図版16 SK-10土坑土層断面（南より）



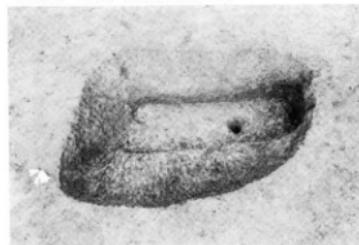
図版17 SK-10土坑（南より）



図版18 SK-12土坑土層断面（北西より）



図版19 SK-12土坑（西より）



図版20 SK-13土坑（北西より）



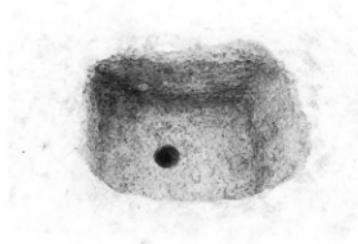
図版21 SK-14土坑（北西より）



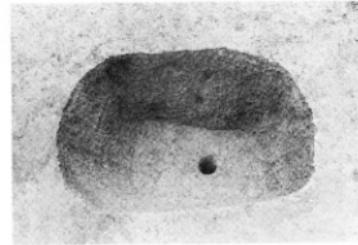
図版22 SK-14土坑ピット断ち割り状況



図版23 SK-17土坑土層断面（東より）



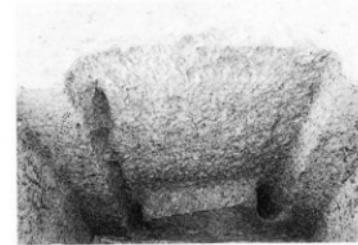
図版24 SK-17土坑（東より）



図版25 SK-18土坑（北東より）



図版26 SK-19土坑土層断面（東より）



図版27 SK-19土坑断ち割り状況（東より）



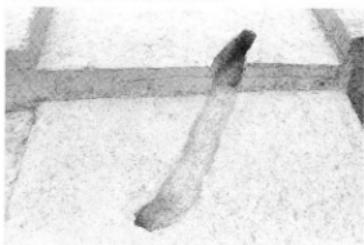
図版28 SK-23土坑土層断面（東より）



図版30 SK-26土坑（東より）



図版29 SK-24土坑（北より）



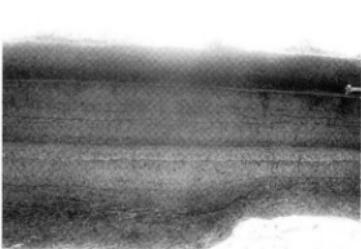
図版31 SK-32土坑（北より）



図版32 I区全景（北より）



図版33 I区西トレンチ（北東より）



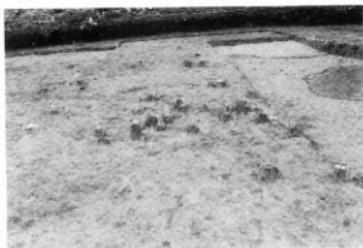
図版34 I区西トレンチ西壁北側断面（東より）



図版35 I区東トレンチ（南東より）



図版36 I区東トレンチ北壁断面（南より）



図版37 I区第5層遺物出土状況（北より）



図版38 (第37図6) 石器出土状況



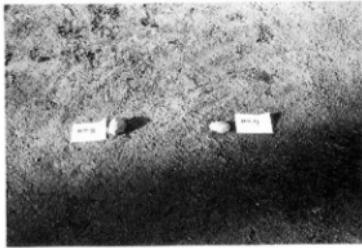
図版39 (第39図1) 石器出土状況



図版40 (第39図2) 石器出土状況



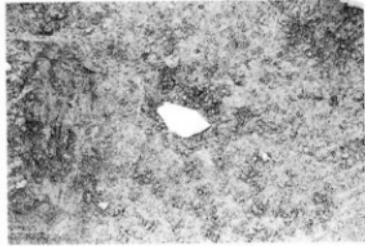
図版41 (第39図3) 石器出土状況



図版42 (第39図5、6) 石器出土状況



図版43 (第40図1) 石器出土状況



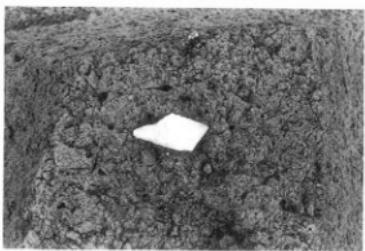
図版44 (第45図2) 石器出土状況



図版45 I区7層石器出土状況（東より）



図版47 (第50図1) 石器出土状況（西より）



図版46 (第47図2) 石器出土状況（西より）



図版48 I区10層石器出土状況（西より）



図版49 II区全景



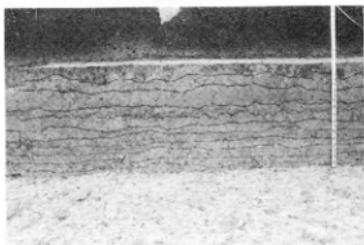
図版50 II区全景（北より）



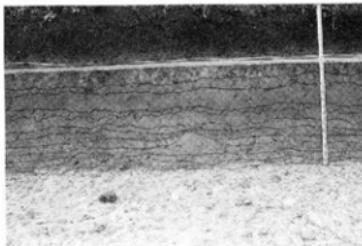
図版51 II区西壁断面（東より）



図版52 III・IV区全景（南より）



図版53 N区西壁断面・北部（東より）



図版54 N区西壁断面・中央部（東より）



図版55 N区西壁断面・中央南寄（東より）



図版56 (第60図2) 石器出土状況（北より）



図版57 N区5層石器出土状況（東より）



図版58 (第61図1) 石器出土状況（西より）



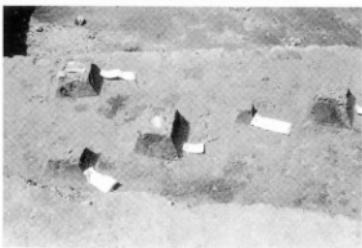
図版59 (第61図2) 石器出土状況 (西より)



図版63 N区5層石器出土状況 (北西より)



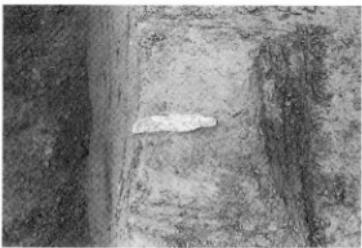
図版60 (第63図1、5) 石器出土状況 (北より)



図版64 N区5層石器出土状況 (東より)



図版61 (第62図3、6 第63図1、4、5) 石器出土状況 (北西より)



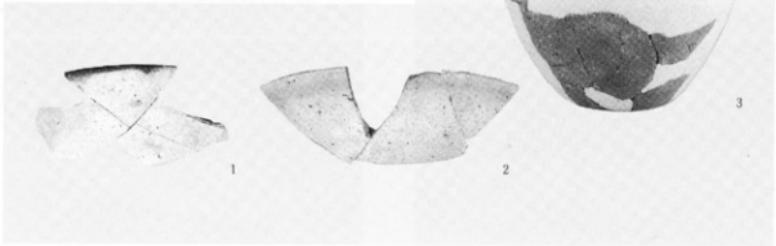
図版65 (第66図1) 石器出土状況 (東より)



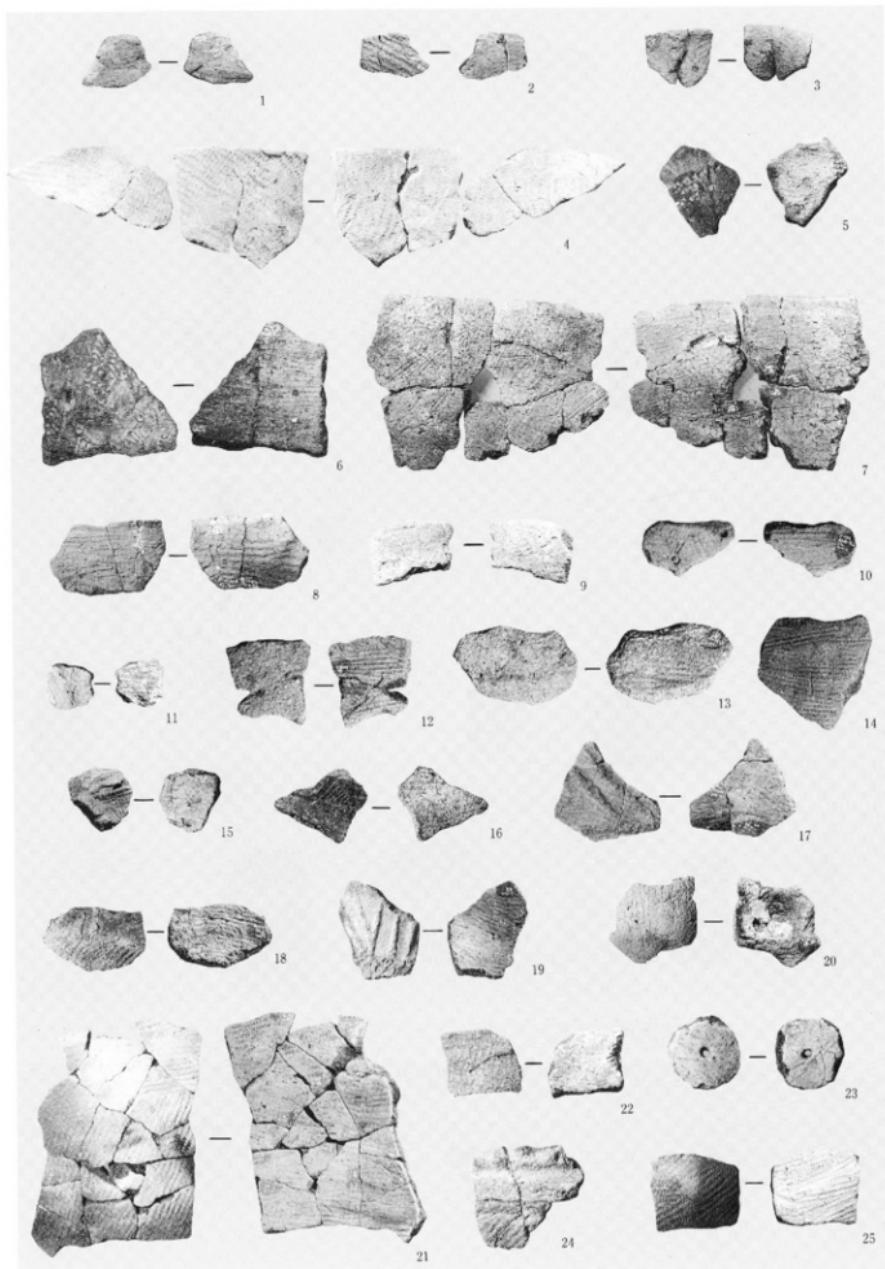
図版62 (第64図1) 石器出土状況 (西より)



3



図版66 S I - 3 住居跡出土土器



图版67 出土遗物(1)



図版68 出土遺物(2)



図版69 出土遺物(3)



図版70 出土遺物(4)

報告書抄録

ふりがな	うえのはらやまいせき							
書名	上ノ原山遺跡							
副書名	国道286号線（茂庭工区）道路工事関係遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第198集							
掲著者名	主浜光朗							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-71 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022-214 8893~4							
発行年月日	1995年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上ノ原山遺跡	宮城県仙台市太白区 茂庭字上ノ原山	04100	01423	38° 12' 54"	140° 48' 10"	1989.10.2 1991.9.21	8,000m ²	道路改良工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上ノ原山遺跡	集落跡 包含地	古代～旧石器	堅穴住居跡・土坑	上部器・須恵器・ 縄文土器・石器				

仙台市文化財調査報告書第198集

上ノ原山遺跡

国道286号線（茂庭工区）道路工事関係遺跡調査報告書一

1995年3月31日

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

文化財課 022-214-8893~4

印刷 針生印刷株式会社

仙台市若林区六丁の日西町1-38

TEL 022-288-5011

